

床 はほぼ平坦で、全体的に踏み固められており、壁溝は全周する。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落し、第1・2・6・7層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで80cm、袖部最大幅120cmで、壁外へわずかに掘り込んでおり、袖の内壁は加熱を受けて赤変している。火床部は床面を15cmほど掘りくぼめ、火熱により赤変硬化している。また、煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗 褐色 | 粘土粒子中量 | 6 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗 褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 7 黒 褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 暗 褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 4 赤 褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量、灰少量 | 9 暗 褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 5 赤 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |

ピット 1か所。P1は深さ27cmで、南壁寄りの中央部に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

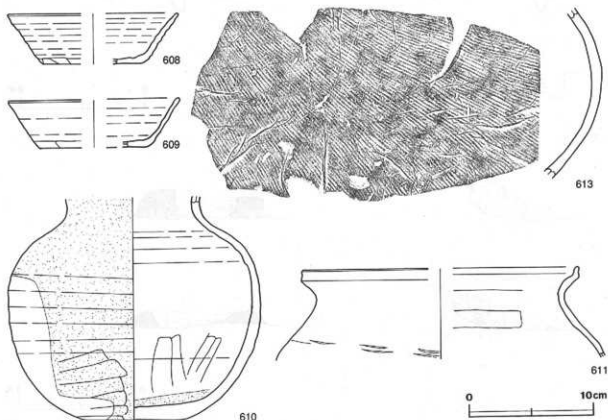
覆土 3層からなり、第1～3層にかけてロームブロックを含むことから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師器片903点(坏122, 甕779, 瓶2), 須恵器片101点(坏74, 甕19, 蓋6, 長頸瓶2), 不明鉄製品1点, 軽石1点が出土している。第150図609は覆土中から出土し、また608・610は中央部の覆土中層から下層にかけて出土した土師器片が接合したものである。611・613は南東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡は最下層から上層にかけて覆土中にロームブロックを含んでいることから、住居廃絶後に埋め戻されたと考えられる。出土土器及び遺構の形態から時期は9世紀前葉である。



第150図 第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表 (第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
608	須恵器	環	[13.6]	4.1	[8.2]	雲母・長石・石英	灰黄	普通	体部下両手持ちヘナ削り、底面ヘナナデ	覆土中層	35%
609	須恵器	環	[13.6]	3.9	[8.6]	雲母・長石・石英	灰黄	普通	体部下両手持ちヘナ削り、底面手持ちヘナ削り	覆土	20% 二次焼成
610	須恵器	長頸瓶	-	(18.1)	8.2	長石・石英	灰	普通	底面ヘナ削り、体部下両手持ちヘナ削り、内面磨ナデ、口縁部から体部にかけて自然釉	覆土中層	70% P.L.61
611	土師器	甕	[22.2]	(7.4)	-	雲母・長石・石英	濃い赤黒	良好	肩部ヘナ具痕、内面ヘナナデ	覆土下層	5%
613	須恵器	甕	-	(13.8)	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	体部外面平行叩き、内面ナデ	覆土下層	5%

第37号住居跡 (第149・151図)

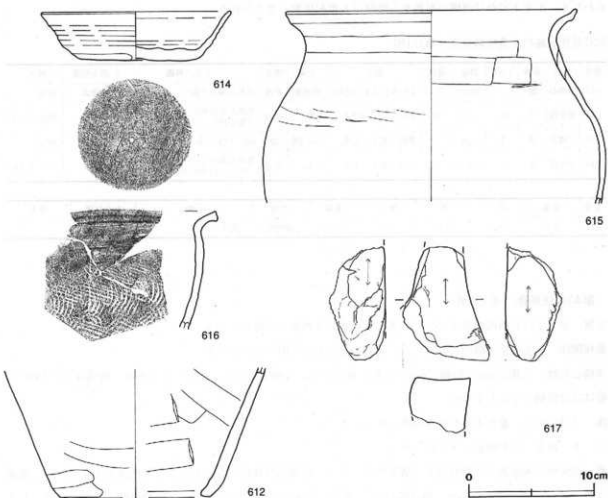
位置 調査Ⅰ区北西部のB1 a7区に位置し、台地の西部に立地している。

重複関係 第34号の西部、第35号住居跡の北部を掘り込み、第36号住居跡に南東部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.48m、短軸3.19mの長方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は30cmであり、各壁ともほぼ傾斜して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、踏み固められた面はみられない。壁溝は全周していたと推定される。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落し、第1・10・11層



第151図 第37号住居跡出土遺物実測図

がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで111cm、袖部最大幅134cmで、壁外への掘り込みは38cmであり、袖の内壁は加熱を受けて赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱により赤変硬化している。また、煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

覆土層解説

1 暗褐色	粘土粒子・焼土粒子少量	7 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量
2 暗赤褐色	焼土粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子微量	8 極暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化物少量
3 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量	9 極暗赤褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化物中量
4 極赤褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量	10 灰褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子少量
5 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量	11 灰褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6 に近い赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量		

ピット 精査したが確認できなかった。

覆土 5層からなり、ロームブロックを含むことから人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片105点(坏12, 甕92, 瓶1), 須恵器片10点(坏5, 甕2, 壺3), 鉄製品1点(鎌), 砥石1点が出土している。第151図616・617は覆土中から出土しており、また、612は中央部の床面直上から出土している。614・615は竈内から出土している。

所見 本跡は覆土の下層から上層にかけてロームブロックを含んでいることから住居廃絶後に埋め戻されたと思われる。出土土器及び遺構の形態から時期は8世紀中葉と考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表(第151図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
612	土師器	瓶	—	(10.0)	[11.7]	雲母・長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部下端へラ削り、内面ナデ	床面	10%
614	須恵器	坏	15.1	3.9	9.3	雲母・長石・赤色粒子	黄灰	普通	底部不定方向のへラ削り、体部下端手持ちへラ削り	竈内	70% P L 45
615	土師器	壺	23.1	(15.6)	—	雲母・長石・石英	に近い黄褐色	良好	底部へラ削り、内面へラ削り、輪積み後	竈内	40%
616	須恵器	鉢	—	(9.5)	—	雲母・長石・石英	灰	普通	体部外面同心円叩き後斜位の平行叩き、内面指ナデ	覆土	5% P L 65

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
617	砥石	(9.1)	(6.8)	(4.4)	(239.0)	凝灰岩	三面使用	覆土下層	

第40号住居跡(第152図)

位置 調査I区北西部のB1es区に位置し、台地の北西部に立地している。

重複関係 第39号住居跡の北東コーナー部、第62号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.78m、短軸2.56mの方形と推定され、主軸方向はN-152°-Eである。壁高は15~20cmで、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、竈前方部が踏み固められている。

ピット 精査したが確認できなかった。

竈 南東壁の東部寄りに砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は欠失している。規模は焚口部から煙道部まで65cm、袖部幅115cm、壁外への掘り込みは30cmであり、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。また、左袖部内から不明土製品が出土しており、袖部の補強材と考えられる。火床部は床

面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火熱を受けてわずかに赤変し、その中央部には土製支脚が据えられ、その上部には土師器の小皿が伏せた状態で出土している。煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
2 褐色 ロームブロック少量

- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
4 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量

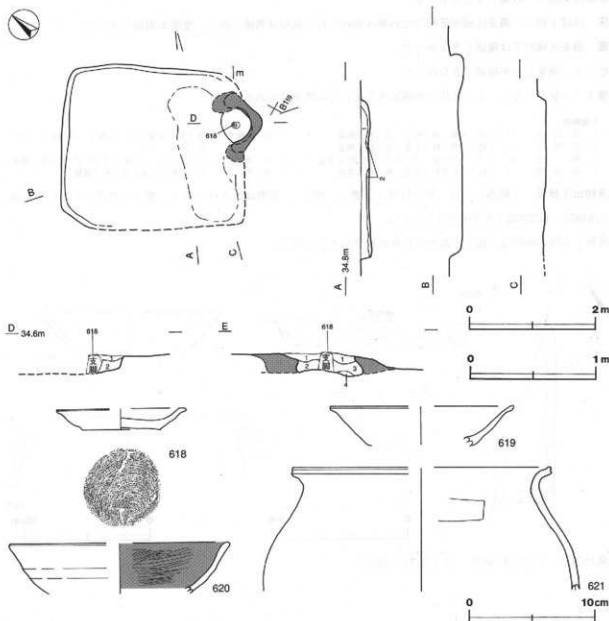
覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片323点(坏103, 高台付坏1, 高台付碗1, 小皿1, 甕217), 須恵器片82点(坏54, 甕28), 土製品2点(支脚, 不明土製品)が出土している。第152図619~621は覆土中からそれぞれ出土し, 618は竈内の支脚上部から逆位の状態で出土したもので, 支脚の高さの調整用と考えられる。

所見 本跡の時期は, 出土土器及び遺構の形態から10世紀後葉と考えられる。



第152図 第40号住居跡・出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表 (第152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
618	土師器	小皿	[10.0]	1.7	6.1	雲母・石英	橙	普通	底部回転ヘラ切り, 内面ナデ	覆土内	60%
619	土師器	高台付椀	[14.6]	(3.1)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	ロタロナデ	覆土	5% 二次焼成
620	土師器	高台付椀	[17.3]	(4.0)	—	雲母・長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土	10% 二次焼成
621	土師器	壺	[20.3]	(9.8)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラナデ	覆土	5%

第43号住居跡 (第153図)

位置 調査1区北西部のB2e1区に位置し, 台地の北西部に立地している。

重複関係 西・南壁の一部は確認できたが, 東側の大部分は調査区域外に延びる。

規模と形状 長軸3.00m, 短軸0.85mほどで方形, または長方形と推定される。主軸方向はN-26°-Wであり, 壁高は36cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 調査区域が壁際のため踏み固められた部分は明確でなく, 壁溝が周回している。

竈 調査区域内では確認できなかった。

ピット 精査したが確認できなかった。

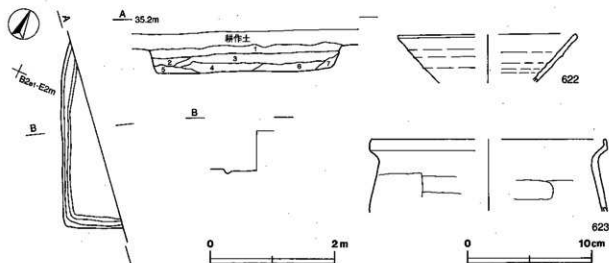
覆土 7層からなり, レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗赤褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片7点(高台付椀1, 壺5, 甌1), 須恵器片4点(椀1, 壺3)が出土している。第153図622・623は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第153図 第43号住居跡・出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表 (第153図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
622	須恵器	坏	[14.4]	(3.9)	—	長石・石英・小石	灰青	普通	ロクロナデ	覆土	20%
623	土師器	甕	[18.8]	(5.9)	—	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	覆土	5%

第48号住居跡 (第154・155図)

位置 調査Ⅰ区北西部のB 2 g2区に位置し、台地の北西部に立地している。

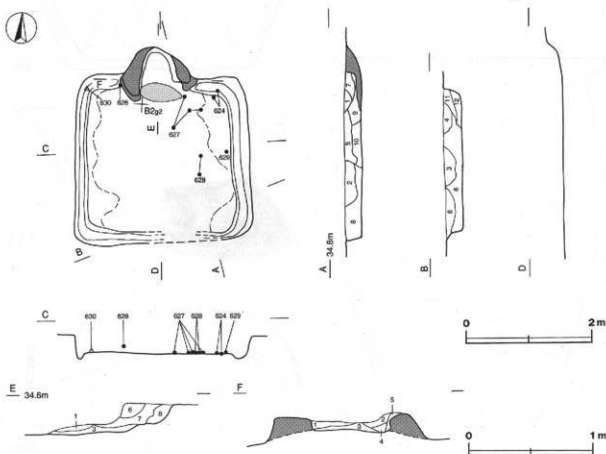
重複関係 第49号住居跡の竈、第51・86号土坑の東側を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.80m、短軸2.80mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は34~40cmで、外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で中央部がよく踏み固められており、壁溝が周回している。

ピット 精査したが確認できなかった。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1・2・11層がこれに相当する。規模は竈口部から煙道部まで89cm、袖部127cm、壁外への掘り込みは43cmであり、袖の内壁は加熱を受けて赤変している。火床部はほとんど掘りくぼめていないが、火熱により赤変硬化している。また、煙道部は火床部から外傾して緩やかに立ち上がる。



第154図 第48号住居跡実測図

覆土層解説

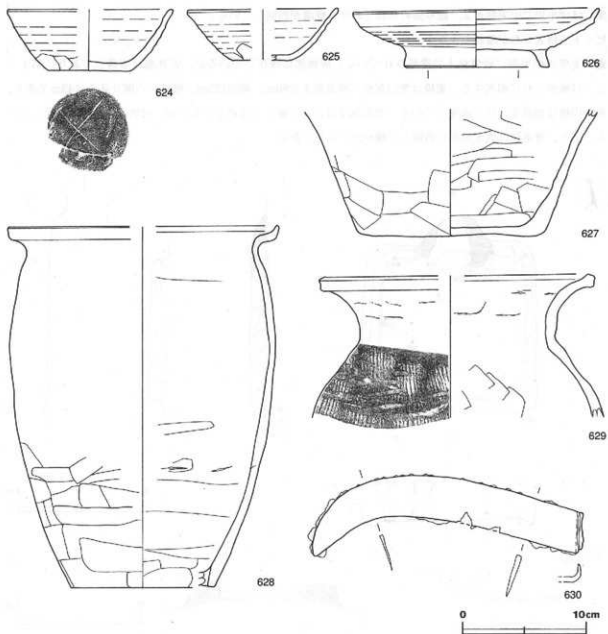
1	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	黒褐色	炭化粒子多量、焼土粒子中量、灰微量	7	暗褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 12層からなり、全体的にロームブロックを含む層が多く、人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量	7	暗褐色	ローム粒子・ロームブロック少量
2	褐色	ローム粒子中量、ロームブロック微量	8	暗褐色	ロームブロック・ローム粒子少量
3	褐色	ローム粒子中量、ロームブロック少量	9	暗褐色	ロームブロック少量、ロームブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、ロームブロック微量	10	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
6	褐色	ローム粒子中量	12	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片268点(坏47, 甕220, 瓶1), 須恵器片62点(坏30, 盤1, 鉢1, 甕24, 釜6), 鉄製品1点(鎌)が出土している。第155図626は、覆土下層から逆位の状態で出土し、北東コーナー付近から東壁



第155図 第48号住居跡出土遺物実測図

にかけて624・627～629が床面直上から出土している。また、630は北西コーナーの壁溝内、625は竈の袖内から出土している。

所見 本跡の遺物は、床面から出土しているものが多く、住居廃絶直後投棄されたもので、その後人為的に埋め戻されたものと思われる。出土土器及び遺構の形態から時期は9世紀中葉と考えられる。

第48号住居跡出土遺物観察表（第155図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手仗の特徴	出土位置	備考
624	須恵器	坏	[13.2]	5.0	6.6	長石・石英・針状鉱物	にぶい焼灰	普通	体部下縁手持ちヘラ削り、底部一方向のヘラ削り	床面	45% ヘラ記号「X」
625	須恵器	坏	[11.9]	4.2	[4.8]	雲母・長石・石英	灰	普通	体部下縁手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り	覆土	20%
626	須恵器	盤	19.8	4.8	11.7	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後、高台起り付け	覆土下層	60%
627	須恵器	甕	—	(10.3)	15.0	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部外面下半ヘラ削り、内面指ナデ	床面	35%
628	土師器	甌	[21.8]	29.4	11.6	雲母・長石・石英	にぶい焼	普通	体部外面下半横位のヘラ削り、内面ヘラナデ、輪積み痕	東壁床面	40%
629	須恵器	甕	[21.2]	(11.4)	—	雲母・長石・赤色粒子	灰黄焼	普通	体部外面平行叩き、厚部ヘラ具痕、内面ヘラナデ、輪積み痕	東壁床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
630	鏝	22.4	3.3	0.4	(97.4)	鉄	刃部彎曲 基部折り返す	壁溝内	P.L.69

第51号住居跡（第156・157図）

位置 調査I区北西部のB2_a3区に位置し、台地の北西部に立地している。

重複関係 北壁から東壁にかけて調査区域外にのびる。

規模と形状 長軸4.65m、短軸3.10mほど確認され、平面形は方形、または長方形と推定される。主軸方向は、出入り口ピットの位置などからN-15°-Wである。壁高は50cmで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。また、焼土が壁周辺に堆積する。

床 はほぼ平坦で、北西コーナー部を除いてよく踏み固められている。壁溝が周回する。

竈 調査区域外にあるものと推定される。

ピット 2か所。主柱穴はP1で、深さは69cmである。P2は深さ30cmで、南壁寄りの中央部に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。他の柱穴は調査区域外にあるものと推定される。

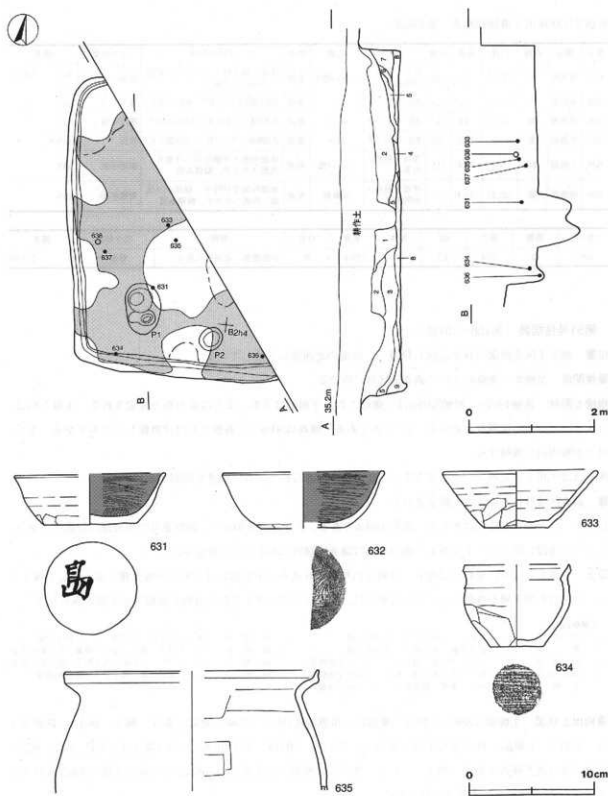
覆土 9層からなり、壁際には第6～9層が自然に流れ込み、中央部にはそれらの層を覆うようにして焼土ブロックを含む第5層が堆積し、さらに上層には、ロームブロックを含む人為的な堆積を示す層がみられる。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量	6	暗褐色	焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子少量
2	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物少量	7	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量、炭化物少量
3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
4	極暗褐色	ローム粒子・灰少量、焼土粒子・炭化物微量	9	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
5	赤褐色	焼土ブロック少量、炭化物粒子・ローム粒子少量			

遺物出土状況 土師器片388点（坏54、甕334）、須恵器片150点（坏88、甕57、蓋3、盤1、鉢1）、鉄製品1点（釣針）、土製品2点（球状土錘）が出土している。第156・157図632・639は覆土中、631・633・635・637・638は焼土層の上面から出土している。また、南壁際の焼土層内から634、焼土層の下面で636がそれぞれ出土し、631には「鳥」の墨書が見られる。

所見 本跡は覆土下層に焼土ブロックを含む層が見られることや、その上にロームブロックを含む層が堆積することなどから住居廃絶後に焼失し、人為的に埋め戻されたものと思われる。出土土器から時期は9世紀後葉と考えられる。



第156図 第51号住居跡・出土遺物実測図



第157図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表(第156・157図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
631	土師器	坏	[11.8]	4.0	7.2	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り、内面ヘラ磨き	覆土中層	65% 墨書「高」 P.L.46
632	土師器	坏	[12.8]	4.5	[6.8]	雲母・長石	にぶい橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り、内面ヘラ磨き	覆土	40% 二次焼成
633	須恵器	坏	12.2	4.5	5.1	長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部一方のヘラ削り	覆土中層	95% 二次焼成 P.L.46
634	土師器	壺	[8.4]	6.6	4.2	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面下半ヘラ削り、内面ナデ、底部磨光	覆土中層	40% 二次焼成
635	土師器	壺	[20.2]	(9.6)	—	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面ナデ、内面ヘラナデ	覆土中層	5%
636	須恵器	鉢	—	(6.6)	—	雲母・長石	灰黄	普通	体部外縁部位の平行叩き、内面ナデ	覆土下層	5% P.L.65
637	須恵器	壺	—	(5.1)	—	雲母・長石	褐灰	普通	体部外縁部位の平行叩き、内面ナデ	覆土中層	5% P.L.65

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
638	球状土師	(2.9)	3.5	0.8	(30.5)	土製	ナデ	覆土	
639	球状土師	2.6	2.9	0.7	19.4	土製	ナデ	覆土	

第53号住居跡(第158図)

位置 調査I区北西部のB1f7区に位置し、台地の北西部に立地している。

重複関係 第54号住居跡に南壁、第55号土坑に西壁を掘り込まれている。また、本跡の北東側の大部分が後世の掘乱により削平されている。

規模と形状 長軸2.20m、短軸0.45mほど確認され、平面形は方形、または長方形と推定される。主軸方向は、N-30°-Wであり、壁高は26cmで、外傾して立ち上がる。

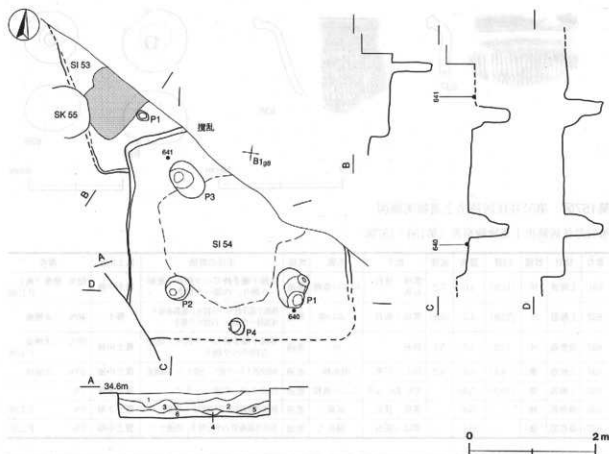
床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

竈 掘乱により削平されている。

ピット 1か所。主柱穴はP1で、深さは60cmである。他の主柱穴は配置から掘乱部に位置すると推定される。覆土 西壁から中央部の床面にかけて焼土・炭化材・灰が混入する層を検出したが、堆積状況については掘乱や他の遺構との重複関係のため、明確に捉えることができなかった。

遺物出土状況 土師器片164点(坏31, 壺133), 須恵器片23点(坏9, 壺11, 蓋3)が覆土中から出土しているが、ほとんどが細片のため図示できなかった。

所見 本跡は、床面から下層にかけて焼土や炭化材が検出されることから、焼失したものと推定される。また、出土土器及び遺構の重複関係から時期は8世紀後葉以前と考えられる。



第158図 第53・54号住居跡実測図

第54号住居跡（第158・159図）

位置 調査I区北西部のB1g7区に位置し、台地の北西部に立地している。

重複関係 北壁中央部から北東コーナー部は、後世の擾乱によって削平を受けている。また、第55号住居跡の北壁、第53号住居跡の南壁を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.40mほどで平面形は方形と推定される。主軸方向はN-14°-Wであり、壁高は35cmで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

ピット 4か所。主柱穴はP1～P3で、深さは59～62cmである。P4は深さ23cmで、南壁寄りの中央部に位置しており、出入り口施設に伴うピットである。

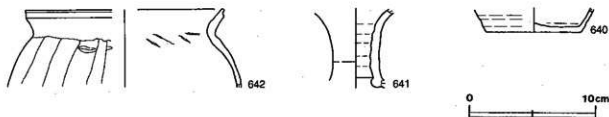
覆土 6層からなり、ロームブロックを含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
3 暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片172点（坏24、甕148）、須恵器片19点（坏8、甕3、蓋7、長頸瓶1）が出土している。第159図の642は覆土中から出土し、640はP1付近、641はP3付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、覆土上層から下層にかけてロームブロックを含む層がみられることから、住居廃絶後人為的に埋め戻されたもので、出土土器から時期は9世紀中葉と考えられる。



第159図 第54号住居跡出土遺物実測図

第54号住居跡出土遺物観察表 (第159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
640	須臾器	坏	-	(2.0)	7.6	長石・石英	暗灰黄	普通	底部へウナデ	P1付近床面	30%
641	須臾器	提梁瓶	-	(6.5)	-	長石	灰	普通	ロクロナデ	P3付近床面	10%
642	土師器	甕	[15.8]	(6.4)	-	長石	にぶい煙	普通	体部外面下手ヘリ磨り, 内面ナデ	覆土	10%

第55号住居跡 (第160・161図)

位置 調査Ⅰ区北西部のB1es区に位置し, 台地の北西部に立地している。

重複関係 甕付近から北壁にかけて第54号住居跡に掘り込まれ, 第57号住居跡の北西側を掘り込んでいる。また, 西壁は調査区域外に延びる。

規模と形状 長軸3.50m, 短軸3.35mほどで方形と推定される。主軸方向はN-27°-Wであり, 壁高は27~35cmで, 各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。壁溝は全周していたと推定される。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが, 天井部は崩落しており, 第1・4~8層がこれに相当する。規模は焚口から煙道部まで120cm, 袖部幅150cm, 壁外への掘り込みは13cmであり, 袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は床面を10cmほど掘りこぼめており, 火熱を受けてわずかに赤変している。また, 煙道部は火床部からほぼ垂直に立ち上がる。

覆土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子少量	15	灰 褐色	粘土ブロック・ロームブロック少量
2	灰 褐色	ロームブロック少量, 粘土粒子微量	16	灰 黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量
3	灰 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量	17	黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4	にぶい褐色	粘土粒子多量	18	暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
5	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	19	にぶい赤褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量
6	灰 黄褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	20	にぶい黄褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子少量
7	灰 黄褐色	粘土ブロック・ロームブロック少量, 焼土粒子微量	21	暗 褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子微量
8	灰 黄褐色	粘土ブロック多量	22	褐色	粘土粒子少量, ロームブロック微量
9	にぶい褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子少量	23	褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子微量
10	灰 黄褐色	粘土粒子中量	24	暗 褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子微量
11	にぶい赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	25	暗 赤褐色	粘土粒子多量
12	灰 黄褐色	粘土ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量	26	褐色	粘土粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
13	灰 黄褐色	粘土ブロック多量, 焼土粒子少量	27	暗 褐色	粘土粒子中量, ローム粒子微量
14	灰 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量	28	褐色	粘土粒子多量, ローム粒子微量

ピット 5か所。主柱穴はP1~P4で, 深さは51~82cmである。P5は深さ23cmで, 南壁寄りの中央部に位置しており, 出入り口施設に伴うピットである。

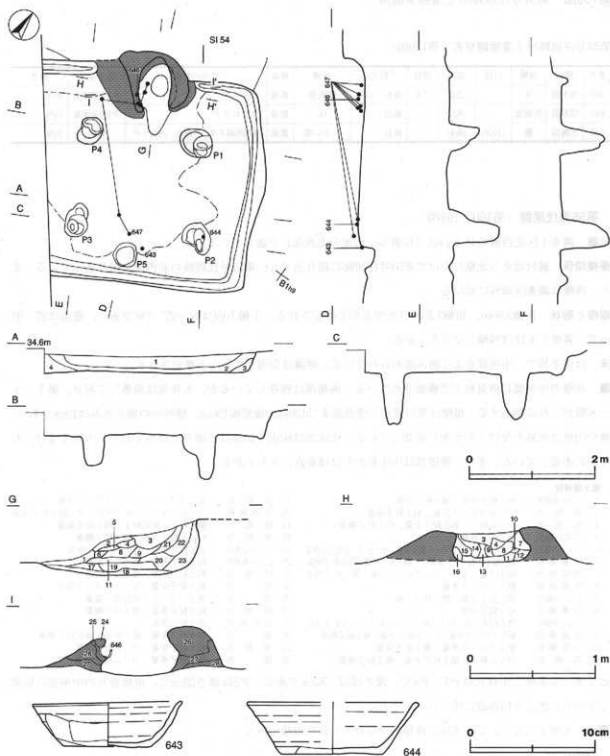
覆土 4層からなり, レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

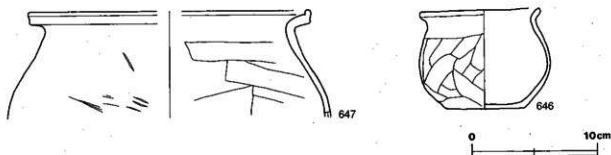
1	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	3	暗 褐色	ローム粒子少量
2	褐色	ローム粒子中量	4	暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片318点(坏25, 甕291, 瓶2), 須恵器片16点(坏14, 甕1, 長頸瓶1), 土製品1点(球状土鏝), 軽石1点が出土している。第160・161回の643はP5付近の床面, 644はP2内からそれぞれ出土している。また, 647は竈内から出土しており, 646は左袖内から斜位の状態出土している。

所見 本跡の竈袖部からは甕が出土しており, 袖部構築の補強材として使用されたものと考えられる。出土土器から時期は8世紀後葉と考えられる。



第160図 第55号住居跡・出土遺物実測図



第161図 第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表 (第160・161図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
643	須恵器	坏	11.8	3.6	6.9	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部下通手持ちヘラ削り、底部三方向のヘラ削り	床面	80%	PL46
644	須恵器	坏	[13.5]	4.2	[8.0]	長石	灰黄	良好	体部下通手持ちヘラ削り、底部ヘラ削りナシ	P2内	30%	
646	土師器	甕	9.3	8.1	6.2	雲母・長石・石英	にぶい巻	普通	体部外面ヘラ削り後ナシ、内面ナシ	甕袖部内	100%	PL61
647	土師器	甕	[22.2]	(8.6)	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい巻	良好	体部外面ヘラ具削、内面ヘラナシ	甕内	30%	

第58号住居跡 (第162~166図)

位置 調査I区北西部のB1:9区に位置し、台地の西部に立地している。

重複関係 第57号住居跡の南東壁と第58号土坑の東側を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.82m、短軸2.73mの方形で、主軸方向はN-32°-Eである。壁高は40~47cmで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、床面全体がよく踏み固められており、壁溝が全周している。

竈 竈は壊されており、粘土の残存部と火床部が確認されただけである。構築材の粘土は、北東壁の中央部から住居中央部にかけて流れ込んでおり、北東壁付近には焼土混じりの砂質粘土が薄く堆積する。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱によってわずかに赤変している。

ピット 精査したが確認することができなかった。

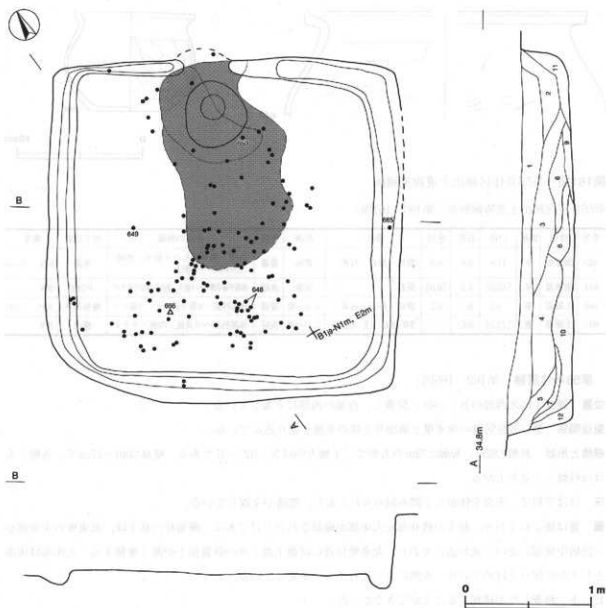
覆土 12層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	色	ロームブロック・ローム粒子少量	7	灰褐色	色	炭化粒子中量、ローム粒子少量
2	暗褐色	色	ローム粒子少量	8	暗褐色	色	ロームブロック微量
3	暗褐色	色	ローム粒子少量、ロームブロック微量	9	暗褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	灰褐色	色	ロームブロック・炭化粒子少量	10	暗褐色	色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子少量
5	暗褐色	色	ロームブロック・炭化粒子少量	11	暗褐色	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
6	黒褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片373点 (坏11, 鉢1, 甕360, 甎1), 須恵器片32点 (坏25, 甕6, 長頸瓶1), 鉄製品1点 (刀子) が出土している。これらの遺物は、覆土中層から床面にかけて重なるように出土しており、その範囲は北東壁から南西壁付近にかけて集中している。これらの接合個体数は、第164~166図648~664の総数17点であった。また、666は南西部床面から出土している。

所見 本跡は、覆土中層から床面にかけて多量の遺物が出土しており、その出土層位は住居中央部付近と南西壁付近の床面から北東壁の中層にかけて多くみられることなどから、遺物は住居焼結後の埋没過程で北東壁側から大量に一括投棄されたものと考えられ、これらの器種は甕類を中心とした煮沸具である。出土土器及び遺構の形態から時期は8世紀後葉と考えられる。



第162図 第58号住居跡実測図(1)

第58号住居跡出土遺物観察表(第164~166図)

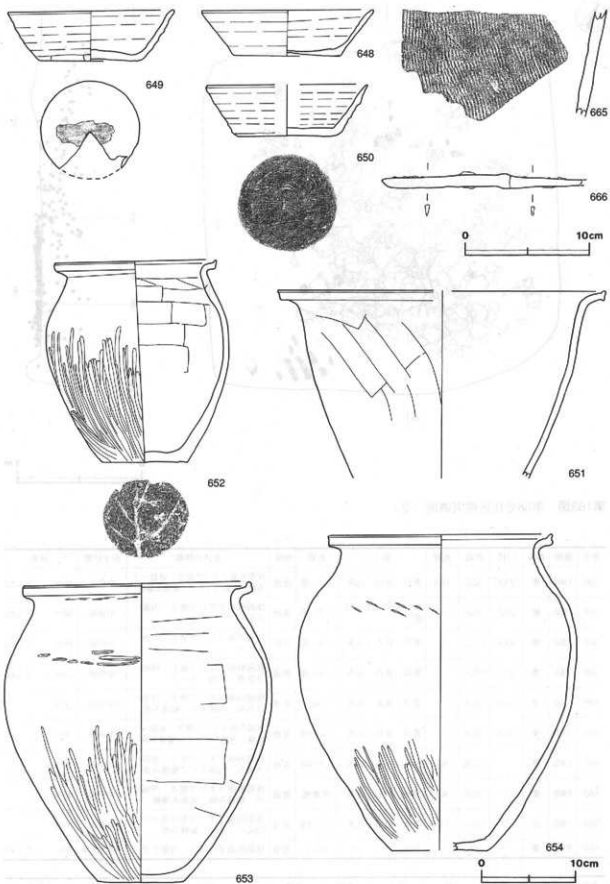
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
648	甕	環	13.8	3.8	8.3	雲母・長石・石英・黒色皮子	黄灰	良好	底部一方向のヘラ削り	中央部	90% P L 46
649	甕	環	13.3	4.2	8.0	長石・石英	灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り, 底部回転ヘラ切り後, ナデ	中央部	80% 未熟練, 長石3ミリ P L 46
650	甕	環	[12.9]	4.2	7.5	雲母・長石	黄灰	良好	体部下端手持ちヘラ削り, 底部回転ヘラ切り後, ヘラ削り	中央部	60%
651	土師器	鉢	[34.7]	(20.0)	-	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面ナデ	中央部	30% 二次焼成
652	土師器	甕	17.0	21.5	9.0	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面下半ヘラ磨き, 内面ヘラナデ, 輪轆み痕, 底部木葉痕	中央部	80% P L 62
653	土師器	甕	24.1	31.8	9.2	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下半ヘラ磨き, 肩部ヘラ具痕, 内面ヘラナデ, 底部木葉痕, 輪轆み痕	中央部	85% 肩部張付着 P L 62
654	土師器	甕	23.7	33.5	[10.0]	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面下位ヘラ磨き, 肩部ヘラ具痕, 内面ヘラナデ, 底部木葉痕	中央部	75% P L 62
655	土師器	甕	25.1	33.2	8.6	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面下半ヘラ磨き, 肩部ヘラ具痕, 内面ヘラナデ, 底部木葉痕	中央部	80%



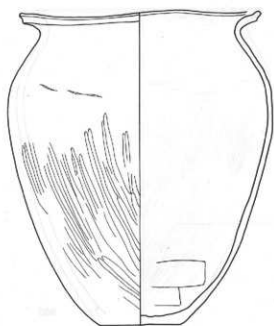
第163図 第58号住居跡実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
656	土師器	壺	[23.9]	32.2	10.4	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下半へラ磨き、肩部へラ具痕、内面へラナデ、底部木葉痕	中央部	80% P L 62
657	土師器	壺	25.2	(31.8)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下半へラ磨き、内面へラナデ	中央部	80% P L 62
658	土師器	壺	23.8	(31.7)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	良好	体部外面下半へラ磨き、内面へラナデ	中央部	80% P L 63
659	土師器	壺	25.3	(29.4)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下半へラ磨き、肩部へラ具痕、内面へラナデ	中央部	75% P L 63
660	土師器	壺	24.8	(32.2)	—	雲母・長石・石英	褐	普通	体部外面下半へラ磨き、肩部へラ具痕、内面ナデ、輪積み痕	中央部	50%
661	土師器	壺	24.6	(31.0)	—	雲母・長石・石英	にぶい赤黄	普通	体部外面下半へラ磨き、肩部へラ具痕、内面へラナデ、輪積み痕	中央部	40%
662	土師器	壺	—	(17.9)	8.5	雲母・長石・石英	にぶい赤黄	普通	体部外面下半へラ磨き、底部へラ磨き、内面ナデ、輪積み痕	中央部	30%
663	土師器	壺	—	(21.0)	8.2	雲母・長石・石英	灰黄緑	普通	体部外面下半へラ磨き、内面ナデ、輪積み痕、底部木葉痕	中央部	45%
664	土師器	瓶	—	(16.0)	13.4	雲母・長石・石英	にぶい赤黄	普通	体部外面下半へラ削り後ナデ、内面へラナデ、輪積み痕	中央部	30%
665	埴器器	壺	—	(8.5)	—	長石	灰白	普通	体部外面平行叩き、内面ナデ	南東部上層	5% P L 65

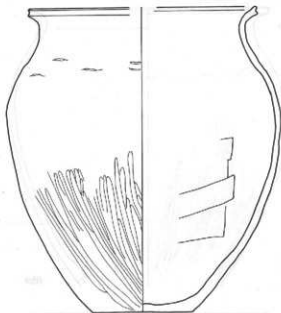
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
666	刀子	(16.1)	1.2	0.3	(14.6)	鉄	茎の先端部欠損	南西部床面	P L 69



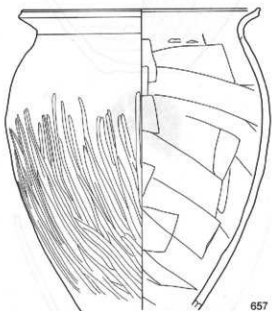
第164图 第58号住居跡出土遺物実測図(1)



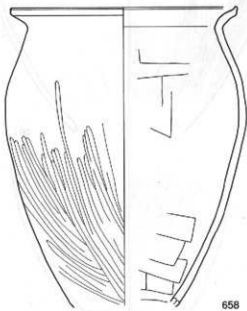
655



656



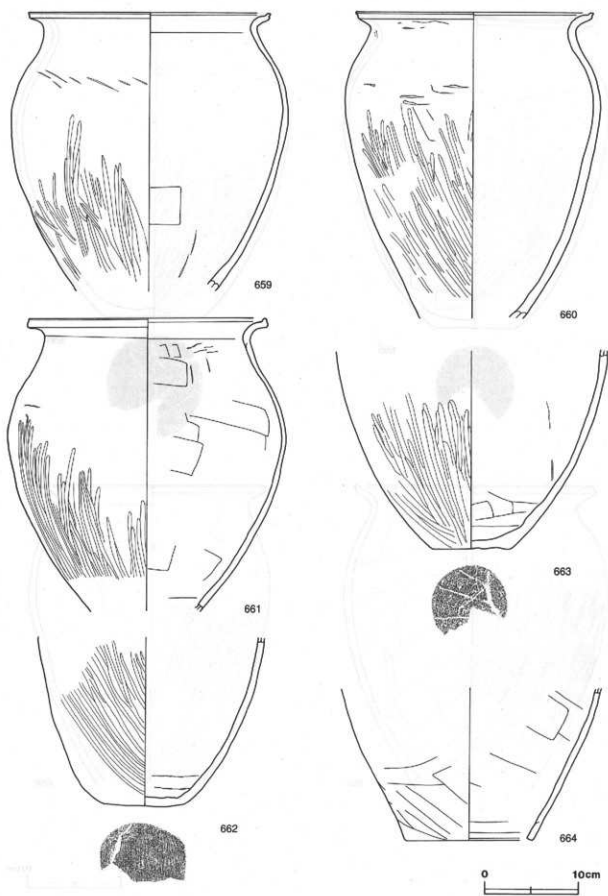
657



658

0 10cm

第165图 第58号住居跡出土遺物実測図(2)



第166图 第58号住居跡出土遺物実測図(3)

第59B号住居跡（第167図）

位置 調査I区中央部のB2j1区に位置し、台地の北西部に立地している。

重複関係 第59号住居跡の南東部、第61号住居跡の西コーナー部、第63号住居跡の北コーナー部を掘り込んでいる。また、第60号住居跡に上面を掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.82m、短軸2.60mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は残存部で35cm、各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、西部がよく踏み固められている。壁溝が周回している。

竈 北壁の中央部を第60号住居跡に掘り込まれているために確認できなかった。

ピット 1か所。主柱穴は確認できなかった。P1は深さ14cmで、南壁部の壁際に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

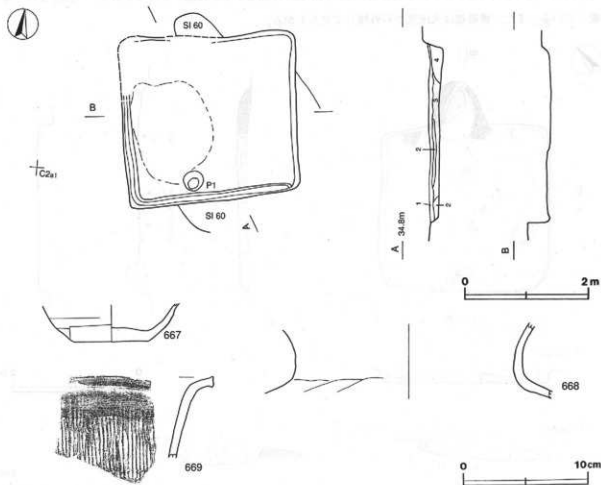
覆土 4層からなり、各層にロームブロックを多量に含むことから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化物中量、焼土粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化物中量、焼土ブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片172点（坏31、甕141）、須恵器片13点（坏6、甕3、蓋1、鉢1、瓶2）が出土している。第167図667～669は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の重複関係や出土土器から9世紀頃と考えられる。



第167図 第59B号住居跡・出土遺物実測図

第59B号住居跡出土遺物観察表 (第167図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
667	須恵器	坏	-	(3.0)	6.1	雲母・長石・石英	灰黄	良好	体部下端手持ちヘラ削り、底部一方向のヘラ削り	覆土	40%
668	須恵器	甕	-	(6.1)	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	体部外面・内面ナデ	覆土	5%
669	須恵器	鉢	-	(6.7)	-	長石	橙	普通	体部外面縦位の平行印痕、内面ヘラナデ	覆土	5% P.L.65

第60号住居跡 (第168・169図)

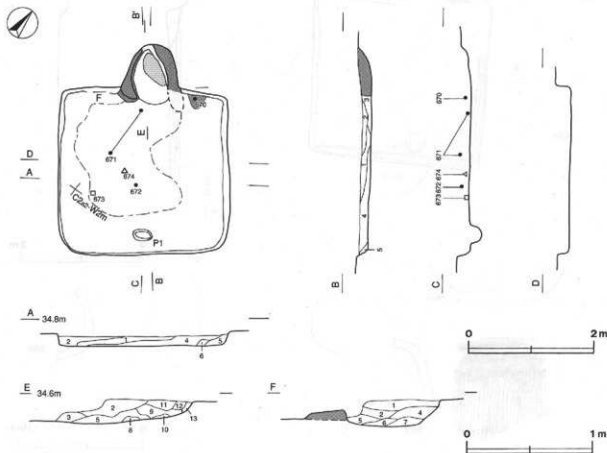
位置 調査1区中央部のB2j1区に位置し、台地の北西部に立地している。

重複関係 第59A号住居跡の南東部、第59B号住居跡の上面、第61号住居跡の西コーナー部、第63号住居跡の北コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.74m、短軸2.70mの方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁高は18~24cmで、各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、竈前方から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈 北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1~3層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで100cm、袖部幅105cm、壁外への掘り込みは74cmであり、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。また、煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。



第168図 第60号住居跡実測図

覆土層解説			
1	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗赤褐色 焼土粒子中量、灰少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量	9 暗赤褐色 焼土粒子中量、灰少量、炭化粒子微量
3	にぶい黄褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量
4	にぶい黄褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	12 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量	13 暗赤褐色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量
7	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	

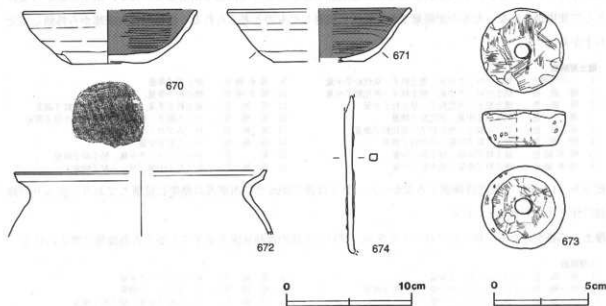
ピット 1か所。主柱穴は確認できなかった。P1は深さ20cmで、南東壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説			
1	黒色	焼土粒子・炭化粒子多量、灰少量、ローム粒子微量	4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	炭化物中量、焼土粒子・ローム粒子微量	5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片287点(坏9, 甕278), 須恵器片57点(坏15, 甕41, 甕1), 鉄製品1点(釘), 石製品1点(紡錘車)が出土している。第169図670・672・674はいずれも覆土下層から出土している。671は、竈前方部の床面から出土した土師片と中央部西側の覆土中層から出土した土師片が接合したものである。また、673は西部床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器及び遺構の形態から9世紀後半と考えられる。



第169図 第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表(第169図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
671	土師器	坏	[14.6]	4.3	[7.2]	雲母・長石・石英	にぶい褐	良好	体部下端回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き	覆土中層	10%
672	土師器	甕	[20.2]	(5.2)	—	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面・内面ナデ	床面	5%

番号	器種	上面径	下面径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
673	紡錘車	4.4	3.4	1.9	0.8	55.8	滑石	磨き	床面	一部割断 P L68

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
674	釘	(12.7)	0.8	0.6	(20.2)	鉄	頭部、先端部欠損	覆土下層	P L69

第62号住居跡 (第170図)

位置 調査1区中央部のC2a2区に位置し、台地の北西部に立地している。

重複関係 第61号住居跡の南コーナー部と第63号住居跡東コーナー部を掘り込み、第64号住居跡に南壁を掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.20m、短軸3.20mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は25~42cmほどで、各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、竈前から中央部にかけてよく踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1・2・12層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで132cm、袖部幅112cm、壁外への掘り込みは60cmであり、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変しており、その中央部に堯が逆位の状態で据えられており、住居廃絶直前まで支脚に使用されていたものと考えられる。また、土製支脚が火床部と煙道部の際から正位の状態出土していたが、出土位置から支脚として使用済みになったものが廃棄され、竈内に残存したものと考えられる。煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 深い赤褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	9 暗赤褐色	焼土粒子多量
2 暗褐色	粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10 暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子微量
3 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	11 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐色	粘土粒子中量、炭化粒子微量	12 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子少量
7 暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量	15 褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
8 暗赤褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量	16 暗褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量

ピット 1か所。主柱穴は確認できなかった。P1は深さ20cmで、南壁部の壁際に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 15層からなる。ロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示すことから人為堆積と考えられる。

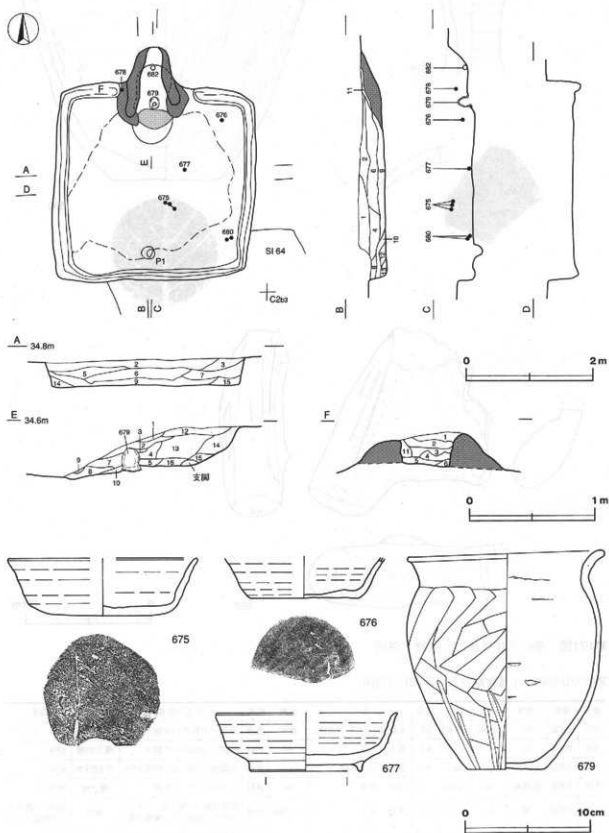
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量	9 黒褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック微量
3 灰褐色	ロームブロック少量	11 暗褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子中量	14 暗褐色	ロームブロック中量
7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	15 灰褐色	ロームブロック少量
8 褐色	ロームブロック少量		

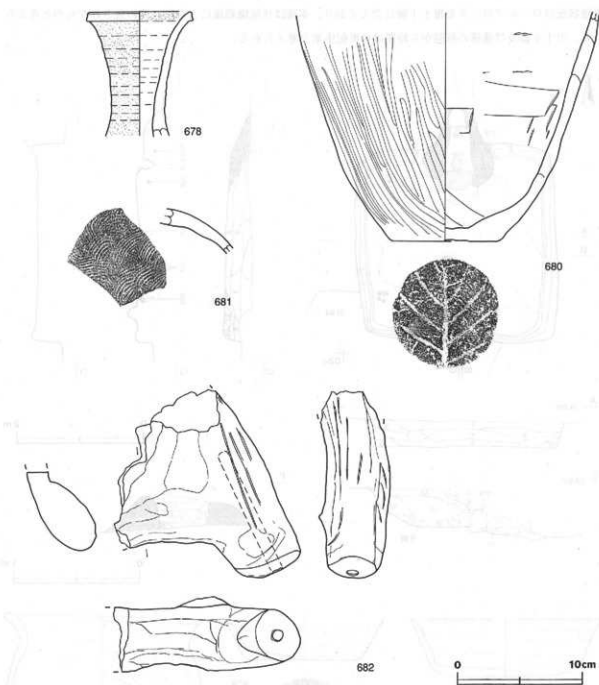
遺物出土状況 土師器片765点(坏133, 堯632), 須恵器片121点(坏77, 高台付坏1, 堯41, 長頸瓶1, 甌1), 鉄製品1点(鐵), 土製品1点(支脚)が出土している。第170・171図675・676・681は、覆土中から出土している。また、678は竈左袖上から出土している。床面からは中央部東側で677, 南東コーナー部で680が出土している。竈内から679が逆位の状態で火床部中央から出土し、その煙道部寄りから土製支脚が出土している。

所見 竈内出土の堯は火床部中央に伏せられ、二次火熱痕が見られることから、支脚転用と捉えられる。また、煙道部付近から破損した支脚も出土しており、破損状況や出土位置から廃棄されたものと推定できる。また、

堆積状況はロームブロックを覆土下層に含んでおり、本跡は住居廃絶後に人為的に埋め戻されたものと考えられる。出土土器及び遺構の形態から時期は8世紀中葉と考えられる。



第170図 第62号住居跡・出土遺物実測図



第171図 第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表 (第170・171図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
675	須恵器	坏	[15.0]	4.6	9.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	底部一方向のヘラ削り	覆土上層	40%
676	須恵器	坏	—	(3.3)	8.4	長石・石英	灰	良好	底部二方向のヘラ削り	覆土中層	40%
677	須恵器	高台付坏	[14.3]	4.7	8.8	長石・針状鉱物	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後、高台彫り付け	中央部床面	40%
678	須恵器	長頸瓶	8.2	(10.0)	—	長石・石英	灰	良好	ロケロナデ、自然軸	甕上面	30%
679	土師器	甕	15.6	17.6	6.2	雲母・長石	にじみ黄肌	普通	体部外面ヘラ削り後、下平ヘラ磨き、内面ナデ、輪縁み直し	甕内	95% 支脚転用二次焼成 P.L.62
680	土師器	甕	—	(18.4)	9.6	雲母・長石・石英	にじみ黄	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラナデ、底部木葉痕、輪縁み直し	甕裏面下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	模成	手法の特徴	出土位置	備考
681	須恵器	壺	—	(3.9)	—	雲母・長石・石英	灰黄緑	普通	体部外距内心内写り、内面ナデ	覆土	5% P L65

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
682	支脚	(15.1)	5.3	1.0	(859.0)	土製	ナデ	竈内	P L67

第64号住居跡 (第172・173図)

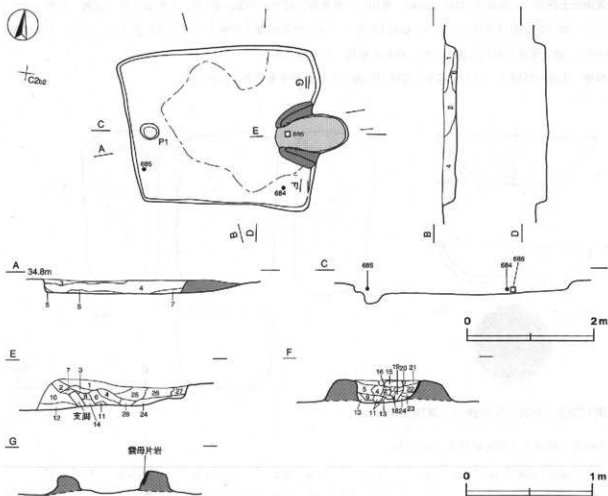
位置 調査I区中央部のC2b2区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第62号住居跡の南壁と第65号住居跡の南西壁コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.10m、短軸2.55mの長方形で、主軸方向はN-82°-Eである。壁高は12-19cm程で、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1・2・15・21層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで115cm、袖部幅108cm、壁外への掘り込みは50cmであり、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。また、右袖部内から雲母片岩が出土しており、袖部の補強材と考えられる。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火熱を受けて赤変し、そ



第172図 第64号住居跡実測図

の中央部には石製支脚が据えられている。煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

甕土層解説			
1 にがい黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	16 暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量
2 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	17 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	18 にがい赤褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 にがい褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量	19 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子・炭化粒子少量
5 灰褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	20 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量
6 灰褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量	21 褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 にがい黄褐色	焼土粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量	22 暗褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
8 赤褐色	焼土粒子・粘土粒子多量、ローム粒子少量	23 暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量
9 にがい黄褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	24 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
10 暗褐色	ローム粒子少量	25 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11 にがい赤褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量	26 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
12 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	27 暗褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量
13 にがい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、粘土粒子微量	28 にがい赤褐色	粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量
14 にがい赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	29 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
15 暗褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量		

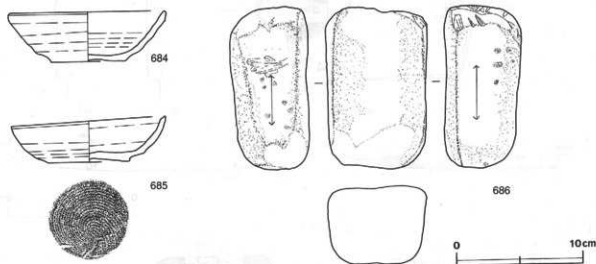
ピット 1か所。主柱穴は確認できなかった。P1は深さ15cmで、西壁部の壁際に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説			
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	7 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片141点(坏40, 寛101), 須恵器片47点(坏30, 寛17), 石製品1点(支脚)が出土している。第173図684は南東コーナー, 685は南西コーナー付近の覆土中層からそれぞれ出土している。石製支脚686は、竈火床部に斜位に据えられ、砥石を転用したものである。

所見 本跡の時期は、出土土器及び遺構の形態から10世紀中葉と考えられる。



第173図 第64号住居跡出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表(第173図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
684	土師器	坏	12.2	4.0	5.8	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り様ナア	覆土中層	100% 二次焼成 P.L.46
685	土師器	坏	12.2	3.6	6.4	雲母・長石・石英	橙	良好	底部回転糸切り	覆土中層	80% 二次焼成 P.L.46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
686	支脚	13.0	8.0	6.1	1010.0	砂岩	砥石二面使用	竈内	支脚転用 P.L.68

第65号住居跡 (第174・175図)

位置 調査I区中央部のC2a3区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第64号住居跡に南西壁を掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.86m、短軸2.80mの方形で、主軸方向はN-166°-Eである。壁高は12cmほどで、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝は周回している。

竈 南東壁の中央部に構築され、火床部だけが残存する。火床部の規模は、長軸60cm、短軸48cmほどの楕円形であり、火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けてわずかに赤変している。

ピット 1か所。主柱穴は確認できなかった。P1は深さ27cmで、北西壁部の壁際に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

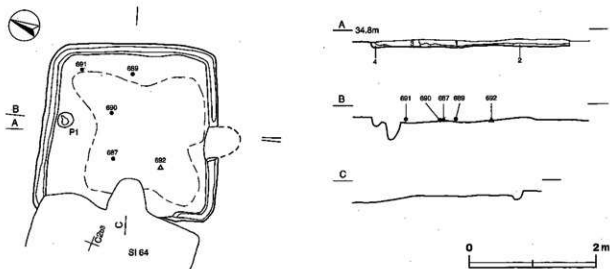
覆土 4層からなり、ロームブロックを含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

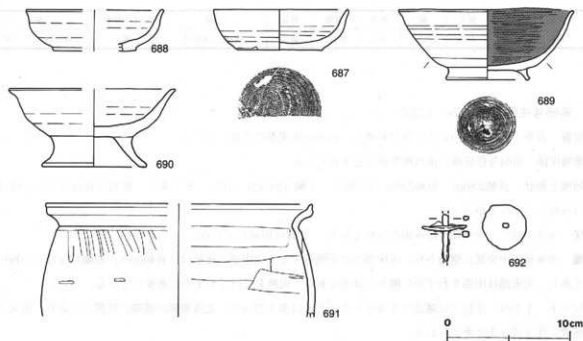
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片111点 (坏54, 小皿2, 高台付碗5, 足高高台付碗1, 甕49), 須恵器片14点 (坏10, 蓋1, 瓶1, 甕2), 土製品1点 (支脚), 鉄製品2点 (刀子, 紡錘車) が出土している。第175図689は北東壁付近、691は北コーナー付近で覆土下層からそれぞれ出土している。また、687・692は中央部の南西側、690は中央部の北側で床直から出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物及び形態から10世紀前葉と考えられる。



第174図 第65号住居跡実測図



第175図 第65号住居跡出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表 (第175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
687	土師器	小皿	10.9	3.3	7.8	雲母・長石・石英	橙	良好	底部回転糸切り	床面	50% 二次焼成
688	土師器	小皿	[11.0]	3.4	[6.7]	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土	20%
689	土師器	高台付碗	14.1	5.6	6.6	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部下層同形へう張り、高台貼り付け、底部内面へう巻き	覆土下層	80% P L58
690	土師器	足高台付碗	[13.4]	6.4	8.3	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部高台貼り付け	床面	55% 二次焼成
691	土師器	壺	[21.6]	(9.2)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部内・外面へうナシ、輪轆み底	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
692	鉄師車	(4.0)	3.6	0.2	(12.6)	鉄	鉄製軸上下欠損	床面	P L68

第67号住居跡 (第176・177図)

位置 調査I区中央部のC2a4区に位置し、台地の中央部に立地している。

規模と形状 長軸3.10m、短軸2.78mの方形で、主軸方向はN-28°-Eである。壁高は20cm程で、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められており、壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は耕作によって削平されている。規模は焚口部から煙道部まで59cm、袖部幅100cm、壁外への掘り込みは14cmであり、袖の内壁は火熱を受けて赤変している。また、火床部は床面をわずかに掘りくぼめ、火熱を受けてわずかに赤変している。その中央部に煙が逆位の状態でごえられており、支脚と考えられる。煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

覆土層解説

1 灰褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、粘土粒子微量	8 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量	9 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、粘土粒子微量	10 褐色	ローム粒子少量
5 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	11 褐色	ローム粒子微量
6 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量		

ピット 1か所。主柱穴は確認できなかった。P1は深さ16cmで、南東壁部の壁際に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

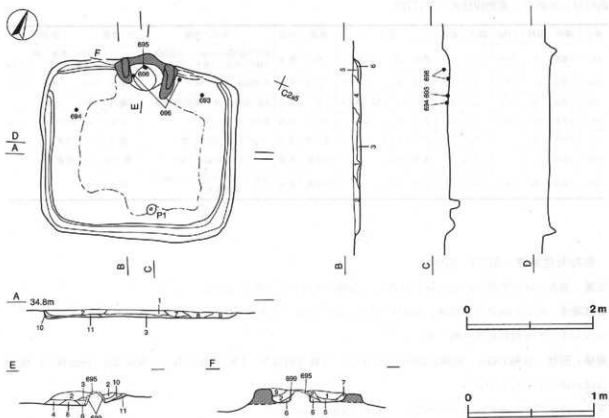
覆土 11層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

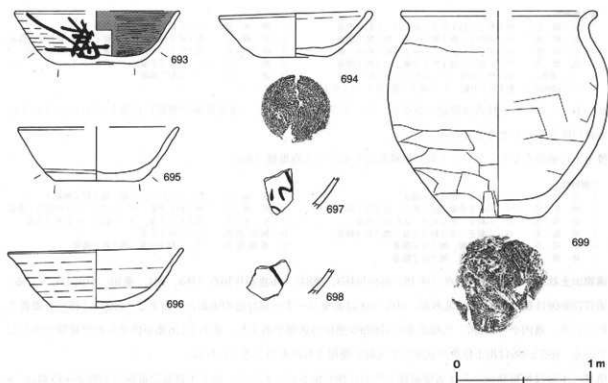
1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	10 極暗褐色	ローム粒子少量
5 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量	11 極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
6 暗褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片106点(坏19, 高台付坏3, 甕84), 須恵器片16点(坏5, 瓶1, 甕10)が出土している。第177図698は覆土中, 694は北西部, 693・696は北東コーナー部付近の床面から出土し, 693は「神」と墨書されている。竈内からは697, 火床部からは699が逆位の状態で出土し, その上に695が伏せられた状態で出土している。695と699は出土位置や状況から支脚に使用されたものと考えられる。

所見 本跡は堆積状況から住居廃絶後人為的に埋め戻されたもので, 出土土器及び遺構の形態から時期は, 9世紀後半と考えられる。



第176図 第67号住居跡実測図



第177図 第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表 (第177図)

番号	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
693	土師器 坏	[13.0]	4.3	6.0	雲母・長石・石英	橙	普通	体部下縁回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き	床面	60% 墨書「神」+ □重む文字 P.L.47
694	土師器 坏	12.1	3.7	5.2	雲母・長石・スコリア	いぶい	普通	底部回転糸切り後ナデ	床面	90% 二次焼成 P.L.47
695	土師器 坏	[12.8]	4.3	6.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下縁回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り	竈内	60% 二次焼成
696	灰土器 坏	14.1	4.7	6.9	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部ヘラ切り後ナデ	床面	90% 赤土粒子多い P.L.46
697	土師器 坏	- (2.5)	-	-	雲母・長石	明赤褐	普通	ロクロナデ、内面ヘラ磨き	竈内	5% 墨書
698	土師器 坏	- (2.1)	-	-	雲母・長石	明赤褐	普通	ロクロナデ、内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書
699	土師器 罍	[15.5]	16.8	6.9	雲母・長石	明赤褐	普通	体部下半ヘラ削り、内面ヘラナデ、底部裏面	竈内	55%

第72号住居跡 (第178・179図)

位置 調査1区中央部のC2c6区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第5号掘立柱建物跡、第109・111~115・116A・116B・117・118号土坑を掘り込んでいる。また、第6号溝との重複関係は不明である。

規模と形状 長軸3.83m、短軸3.33mの長方形で、主軸方向はN-136°-Wである。壁高は8~19cm程で、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。壁溝は周回している。

竈 南西壁の南コーナー寄りに砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1~5層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで93cm、袖部幅86cm、壁外への掘り込みは15cmであり、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。また、左袖部から雲母片岩が出土しており、袖部の補強

材と考えられる。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。

覆土層解説

1 暗褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 赤褐色	焼土粒子多量、灰少量
2 暗褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量	12 黒色	炭化粒子多量、焼土粒子微量
3 にぶい赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量	13	焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子微量
4 暗褐色	焼土粒子多量、粘土粒子微量	14 にぶい赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
5 にぶい黄褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量	15 にぶい赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・灰少量、炭化粒子微量
6 黄褐色	焼土粒子少量、炭化物微量	16 暗褐色	焼土粒子少量
7 にぶい赤褐色	粘土粒子・焼土粒子少量	17 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量
8 暗褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量	18 にぶい赤褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量
9 暗褐色	焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	19 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量
10 暗褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量		

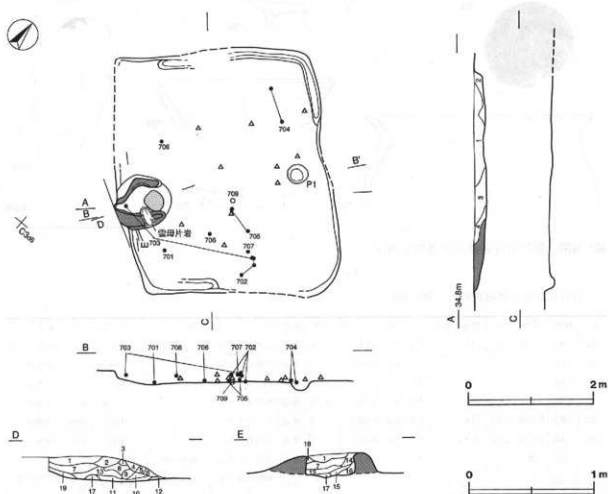
覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

ピット 1か所。主柱穴は確認できなかった。P1は深さ15cmで、北東壁部の壁際に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

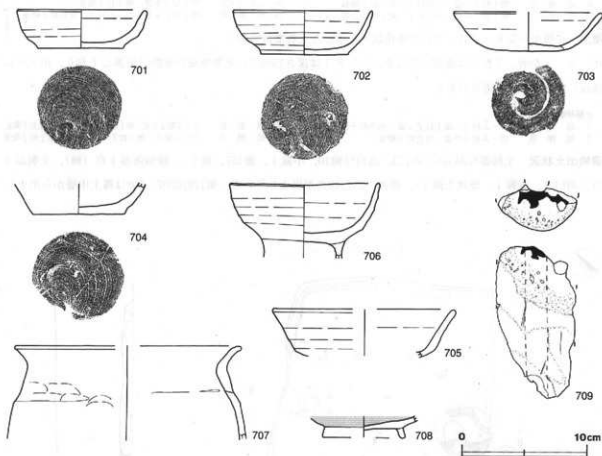
遺物出土状況 土師器片343点（環173、高台付椀10、小皿1、壺157、甗2）、緑釉陶器1点（輪）、土製品4点（羽口2、支脚1、球状土錘1）、鉄滓（△）10点が出土している。第179図707・708は覆土中層から出土し



第178図 第72号住居跡実測図

ており、708は緑釉陶器の碗である。床面からは、701・702・705・706・709が中央部から南部、704が北コーナ一部からそれぞれ出土し、706は逆位の状態で出土している。また、竈内からは703が出土している。

所見 本跡から羽刃や鉄滓等の鍛冶関連遺物が出土しているが、鍛冶を関連付ける施設が確認されていないことや、これらの遺物のほとんどが覆土中から出土していることから、本跡が廃絶後に投棄されたものと推定される。出土土器から時期は10世紀前葉と考えられる。



第179図 第72号住居跡出土遺物実測図

第72号住居跡出土遺物観察表 (第179図)

番号	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
701	土師器	小皿	10.2	3.1	6.8	雲母・長石・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り	床面	100% 二次焼成 P.L.50
702	土師器	小皿	11.0	3.1	7.0	雲母・長石・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り	床面	70% 二次焼成
703	土師器	小皿	11.9	3.2	6.2	雲母・長石・赤色粒子	にぶい	普通	口クロナデ、底面粘土巻き上げ痕	竈内	45% 二次焼成
704	土師器	小皿	—	(2.5)	7.4	雲母・長石・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り	北コーナ一部	40% 二次焼成
705	土師器	高台付碗	[14.6]	(3.8)	—	雲母・長石・赤色粒子	にぶい	普通	口クロナデ	床面	30% 二次焼成
706	土師器	高台付碗	12.0	(6.0)	—	雲母・長石・赤色粒子	にぶい	普通	底部高台貼り付け	床面	90% 二次焼成 P.L.58
707	土師器	碗	[17.8]	(7.7)	—	雲母・長石・赤色粒子	にぶい	普通	体部外面指頭痕、輪積み痕	覆土中層	5%
708	緑釉陶器	碗	—	(1.8)	[6.6]	灰黄緑	良好	輪業は硝毛塗り、底部・内面に三又トチン痕	覆土中層	30% 黒笹90号式期	

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
709	羽口	(12.3)	—	—	(146.0)	土製	ナデ	床面	

第73号住居跡（第180図）

位置 調査Ⅰ区中央部のC2・4区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第74号住居跡に南東壁，第5号掘立柱建物跡に西コーナー部付近，第223号土坑に南西壁，第224号土坑に中央部を掘り込まれている。また，北東側半分は攪乱をうけている。

規模と形状 長軸2.80m，短軸2.00mほど確認され，平面形は方形，または長方形と推定される。主軸方向はN-54°-Wである。壁高は12~20cm程で，壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほほは平坦で，硬化面はみられない。壁溝は周囲している。

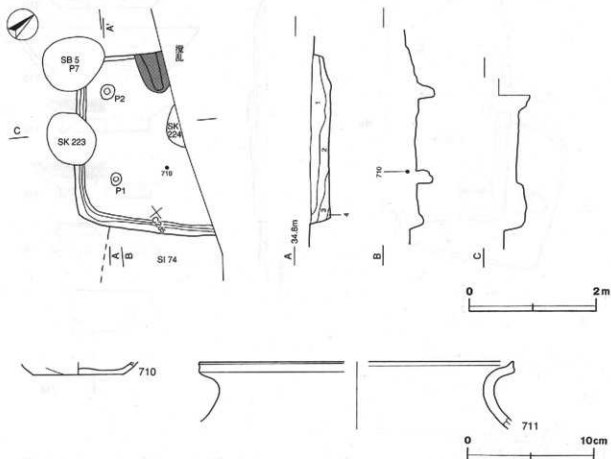
竈 北東壁に構築されているが，東側が攪乱を受けており，左袖部のみ残存している。

ピット 2か所。主柱穴はP1・P2が相当し，深さは25・27cmである。

覆土 4層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量 |



第180図 第73号住居跡・出土物実測図

遺物出土状況 土師器片96点(坏17, 堯79), 須恵器片13点(坏6, 堯7)が出土している。第180図710・711は覆土中から出土しており, 床面からはほとんど遺物が出土しなかった。

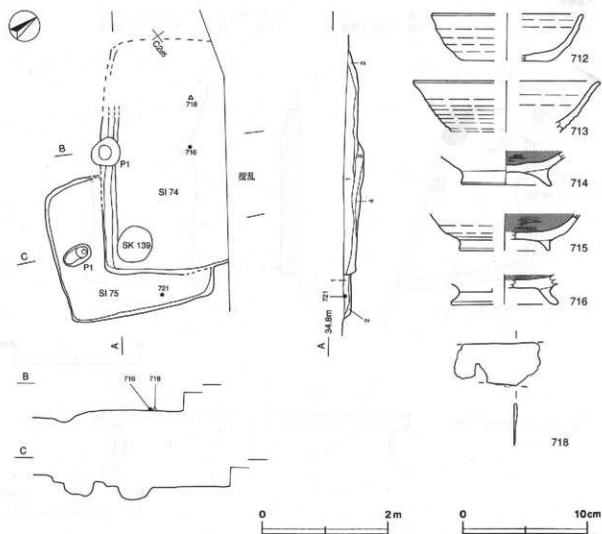
所見 本跡において, 710・711の出土遺物は住居埋没過程で流れ込んだものと考えられる。出土土器から時期は9世紀前葉以前と考えられる。

第73号住居跡出土遺物観察表 (第180図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
710	須恵器	坏	—	(1.0)	[7.2]	雲母・長石・石英	灰	良好	底部一方向のヘラ削り, 体部下縁手持ちヘラ削り	覆土中層	30%
711	土師器	甕	[24.8]	(5.3)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部ナデ, 体部内面ヘラナデ	覆土	5%

第74号住居跡 (第181図)

位置 調査1区中央部のC2 a5区に位置し, 台地の中央部に立地している。



第181図 第74・75号住居跡, 第74号住居跡出土遺物実測図

重複関係 第73号住居跡の南東壁，第75号住居跡の中央部から北コーナー，第5号掘立柱建物跡のP2・P3，第217号土坑を掘り込み，第139号土坑に南コーナーを掘り込まれている。また，北東側は攪乱をうけている。
規模と形状 長軸3.78m，短軸2.00mほどが確認され，平面形は方形，または長方形と推定される。主軸方向はN-53°-Wである。壁高は8cmほどで，壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，硬化面はみられない。壁溝は周囲している。

竈 攪乱により削平されている。

ピット 1か所。P1は深さ19cmで，南西壁中央部の壁際に配置されている。

覆土 4層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量 3 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
2 明褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片331点（坏122，高台付碗5，皿6，甕198），須恵器片25点（坏10，甕15），灰胎陶器1点（長頸瓶），鉄製品1点（鎌）が出土している。第181図712～715は覆土中，716・718は中央部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は出土土器から10世紀前葉と考えられる。

第74号住居跡出土遺物観察表（第181図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
712	土師器	坏	[12.0]	3.8	[7.0]	雲母	にぶい橙	普通	底部固軟未切り	覆土	30%
713	土師器	高台付碗	[14.9]	(4.1)	—	雲母・長石	にぶい赤黄	普通	ロクロナテ	覆土	15% 二次焼成
714	土師器	高台付碗	—	(2.8)	6.8	雲母・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面へう巻き，高台貼り付け	覆土	20% 二次焼成
715	土師器	高台付碗	—	(3.0)	[7.0]	雲母・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面へう巻き，高台貼り付け	覆土	10%
716	土師器	高台付碗	—	(2.3)	[8.6]	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	内面へう巻き，高台貼り付け	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
718	鎌	(6.9)	(3.6)	0.4	(13.0)	鉄	刃部片	床面	

第75号住居跡（第181・182図）

位置 調査I区中央部のC2a5区に位置し，台地の中央部に立地している。

重複関係 第74号住居跡に中央部から北コーナー，第139号土坑に中央部をそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.38m，短軸2.32mの方形で，主軸方向はN-26°-Eである。壁高は8cmほどで，壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，硬化面はみられない。

竈 攪乱により削平されている。

ピット 1か所。P1は深さ24cmで，南西壁中央部の壁際に配置されていることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

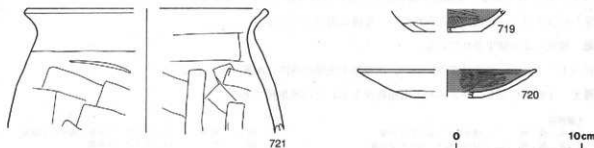
覆土 2層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片26点(坏14, 甕12), 須恵器片1点(甕), 埴片1点が出土している。第182図719~721は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第182図 第75号住居跡出土遺物実測図

第75号住居跡出土遺物観察表 (第180図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
719	土師器	坏	—	(1.9)	[5.4]	雲母・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端手持ちへう削り, 底部へう削り	覆土	30%
720	土師器	皿	[14.2]	(2.2)	—	雲母・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端へう削り, 内面へう削き	覆土	10%
721	土師器	甕	[18.5]	(10.1)	—	雲母・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へう削り, 内面へう削り	覆土上層	5%

第79号住居跡 (第183図)

位置 調査1区中央部のC2e6区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第84号住居跡・第180号土坑に南東コーナー, 第82A号住居跡に南西コーナー, 第134・135号土坑に東部, 第136号土坑に北西コーナーをそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.58m, 短軸3.20mの長方形で, 主軸方向はN-89°-Eである。壁高は16cmほどで, 壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 硬化面はみられない。壁溝は周回している。

竈 東壁の中央部付近に構築され, 火床部だけが確認できた。火床部の規模は, 長軸93cm, 短軸86cmの楕円形であり, 火床部は床面を18cm掘りくぼめており, 火熱を受けてわずかに赤変している。

甕土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 3 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化物微量

ピット 2か所。P1・P2の, 深さは59・68cmであり, 性格は不明であるが, 棒持ち柱の可能性もある。

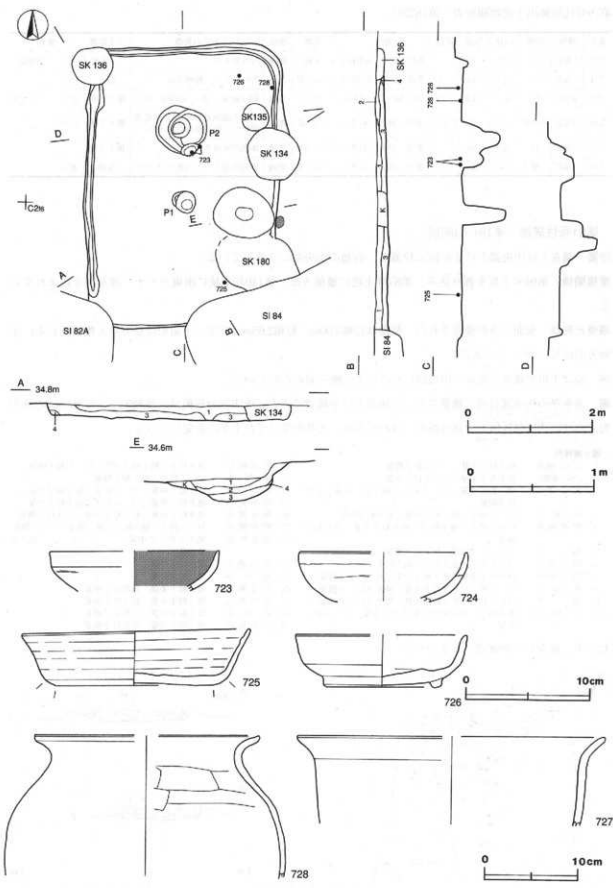
覆土 4層からなり, ローム粒子をブロック状に含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片709点(坏13, 甕696), 須恵器片4点(坏16, 甕3, 甕29)が出土している。第183図724・729は覆土中, 725・726は覆土下層から出土している。また, 723はP2の南側, 728は北東壁からそれぞれ出土している。

所見 本跡は平面形が長方形であり, 主軸方向に2本の柱穴が配置された, 特徴的な住居形態である。時期は出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第183图 第79号住居跡・出土遺物実測図

第79号住居跡出土遺物観察表 (第183図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
723	土師器	坏	[13.6]	(3.3)	—	紫母・長石・赤色粒子	灰褐	普通	内外面ナデ	P2床面	20% 二次焼成
724	土師器	坏	[13.4]	(4.0)	—	紫母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	内外面ナデ, 輪轆み痕	覆土	10%
725	須恵器	坏	18.2	4.4	12.4	紫母・長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	底部下縁回転ヘラ削り, 底部回転ヘラ削り	覆土下層	60% P L46
726	須恵器	高台付坏	[13.8]	4.3	[9.0]	紫母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部下縁回転ヘラ削り, 底部回転ヘラ削り後高台起り付け	覆土下層	70%
727	土師器	鉢	[32.6]	(9.6)	—	紫母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内外面ナデ	覆土下層	
728	土師器	壺	[24.0]	(15.2)	—	紫母・長石・石英	にぶい黄	普通	体部外面ナデ, 内面ヘラナデ	床面	20%

第81号住居跡 (第184・185図)

位置 調査I区中央部のC247区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第94号土坑を掘り込み, 第87号土坑に竈前方部, 第149号土坑に南東コーナー部を掘り込まれている。

規模と形状 床面のみが確認された。規模は長軸3.00m, 短軸2.65mほどで, 平面形は長方形と推定される。主軸方向はN-40°-Eである。

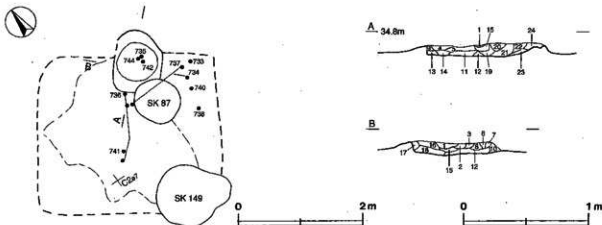
床 ほぼ平坦で竈前方部から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈 北東壁の中央部付近に構築され, 火床部だけが確認できた。火床部の規模は, 長軸93cm, 短軸86cmの楕円形であり, 火床部は床面を18cm掘りくぼめており, 火熱を受けてわずかに赤変している。

竈土層解説

- | | | | | | |
|----|--------|------------------------------|----|--------|--------------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 12 | 明赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 | にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量, ローム粒子少量 | 13 | 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 3 | にぶい褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 14 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 4 | 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量, 粘土粒子少量 | 15 | 明赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 5 | 明赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 16 | 明赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 17 | 暗赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 7 | 明赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 | 18 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・粘土粒子少量 |
| 8 | 明赤褐色 | 焼土粒子多量, 粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 19 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 |
| 9 | 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 20 | 暗褐色 | 焼土粒子少量 |
| 10 | 褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 21 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 |
| 11 | 灰褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 22 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 粘土粒子微量 |
| | | | 23 | 暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| | | | 24 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

ピット 精査したが確認できなかった。

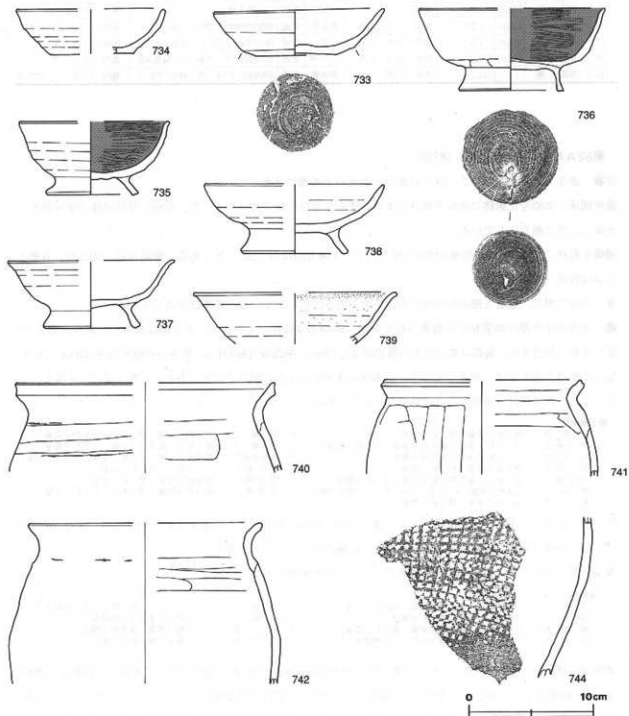


第184図 第81号住居跡実測図

覆土 掘り込みが浅いため、確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片237点(坏156, 高台付坏5, 甕75, 瓶1), 須志器片12点(坏6, 甕6), 灰釉陶器1点(碗)が出土している。第185図736が竈前方部, 741が中央部, 733・734・737・738・740が東コーナーの床面からそれぞれ出土している。竈内からは735・742・744が出土し, 細片であるが739の灰釉陶器碗も出土している。

所見 本跡の時期は出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第185図 第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表 (第185図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
733	土師器	坏	13.6	3.6	6.1	長石・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り、底部回転糸切り後回転ヘラ削り	床面	80% P L 46
734	土師器	坏	[11.7]	3.6	6.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	床面	40%
735	土師器	高台付甕	[11.7]	5.9	7.0	雲母・長石・石英	橙	普通	内面ヘラ磨き	竈内	70% 二次焼成 P L 38
736	土師器	高台付甕	[14.9]	6.6	8.4	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き、高台部回転糸切り後貼り付け	床面	40% P L 52
737	土師器	高台付甕	[13.0]	5.4	7.7	雲母・赤色粒子	にぶ赤褐	普通	体部内外面ナデ、高台貼り付け	床面	40% 二次焼成
738	土師器	高台付甕	[14.3]	5.1	8.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶ赤	普通	体部内外面ナデ、高台貼り付け	床面	40% 二次焼成
739	灰釉陶器	碗	[16.2] (4.1)	—	—	緻密	灰白	良好	内面刷毛塗り	覆土	5% 黒部時式 二次焼成
740	土師器	甕	[20.6] (7.2)	—	—	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部外面回転ヘラ削り、内面ヘラナデ	床面	5%
741	土師器	甕	[15.8] (7.5)	—	—	雲母・長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ	床面	5%
742	土師器	甕	[18.6] (12.9)	—	—	雲母・長石・石英	にぶ褐	普通	体部外面ナデ、内面ナデ、輪轆み痕	竈内	5%
744	土師器	甕	— (12.7)	—	—	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面手すり、内面ヘラ削り、内面ナデ	竈内	5% P L 65

第82A号住居跡 (第186・187図)

位置 調査I区中央部のC 2 rs区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第83号住居跡に南壁を掘り込まれ、第82B号住居跡の北コーナー部、第82C号住居跡の中央部から東壁にかけて掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.60m、短軸4.12mの長方形で、主軸方向はN-22°-Eである。壁高は41~52cmで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、竈前方部から南壁にかけてよく踏み固められている。壁溝は全周している。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1・9層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで130cm、袖部最大幅141cm、壁外への掘り込みは50cmであり、袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。また、煙道部は火床部からほぼ外傾して立ち上がる。

覆土層解説

1	暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量	8	暗褐色	粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	9	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量	10	暗赤褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子多量、粘土粒子中量	11	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
5	暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	12	暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子少量
6	暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗赤褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7	褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量			

ピット 5か所。主柱穴はP 1~P 4で、深さは60~73cmである。P 5は床面をわずかに掘りくぼめ、南西壁寄りの中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

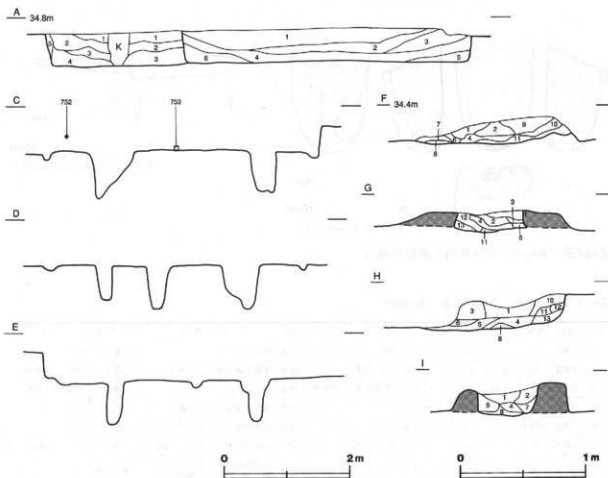
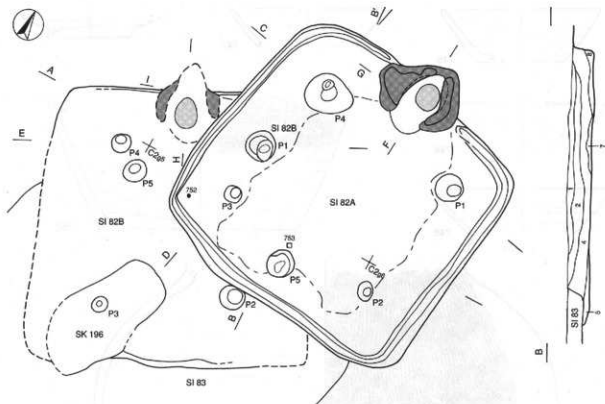
覆土 9層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

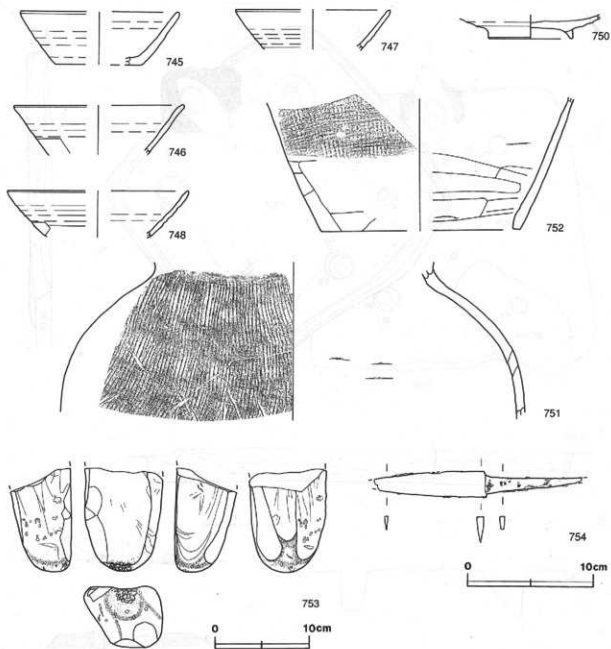
1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	7	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量	8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片591点(坏51, 壺540), 須恵器片208点(坏108, 高台付坏1, 蓋16, 長頸瓶1, 甕81, 瓶1), 鉄製品2点(刀子1, 不明1), 石器1点(砥石), 鉄滓2点が出土している。第187図の745~748・750~752・754は覆土中からそれぞれ出土している。また、753はP 5付近の床面から出土している。

所見 出土土器及び重複関係から時期は9世紀前葉と考えられる。



第186图 第82A·82B号住居跡実測図



第187図 第82A号住居跡出土遺物実測図

第82A号住居跡出土遺物観察表(第187図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
745	土製器	杯	[12.5]	(4.0)	[7.0]	雲母・長石・石英	にふい赤黄	普通	底部ヘラナデ	覆土	10%
746	須恵器	杯	[13.6]	(4.4)	-	雲母・長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土	15% 二次焼成
747	須恵器	杯	[12.3]	(3.2)	-	長石・黒色粒子	暗灰黄	普通	ロクロナデ	覆土	10% 二次焼成
748	須恵器	杯	[14.3]	(3.7)	-	長石	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土	10%
750	須恵器	素台付杯	-	(1.9)	6.7	雲母・長石	灰	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼り付け	覆土	20%
751	須恵器	壺	-	(12.6)	-	雲母・長石・石英	にふい赤黄	普通	体部外面平理キ・内面ナデ・輪轆み直	覆土	5% 二次焼成
752	須恵器	瓶	-	(10.6)	[16.0]	雲母・長石・石英	灰	良好	体部外面格子目理キ・下位ヘラ削り・内面ナデ・輪轆み直	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
753	砥石	(10.9)	8.0	6.3	(70.0)	粘板岩	欠損、四面使用	P 5 付近床面	P L 68
754	刀子	(16.5)	2.1	0.6	(44.0)	鉄	切先部欠損 基部木質部残存	覆土	P L 69

第82B号住居跡 (第186図)

位置 調査I区中央部のC 2 g5区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第82A号住居跡に北コーナー、第83号住居跡に南部、第196号土坑に南壁をそれぞれ掘り込まれ、第82C号住居跡の南壁から中央部を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.52m、短軸4.40mほどの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は26~34cmで、各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

竈 北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1~3層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部までの100cm、袖部最大幅94cm、壁外への掘り込みは10cmであり、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は火床部からほぼ外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子少量	8 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量	9 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量・ローム粒子微量
3 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量		
4 暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子	10 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
	微量	11 暗褐色	粘土粒子多量、炭化粒子・ローム粒子微量
5 暗褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量	12 暗褐色	粘土粒子多量
6 暗褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量	13 暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量		

ピット 5か所。主柱穴はP 1~P 4で、深さは60~67cmである。P 5は性格不明である。

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量	5 暗褐色	ローム粒子多量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片452点(坏70、甕382)、須恵器片1点(甕)が出土しており、これらの遺物は、ほとんどが細片のため図示できなかった。

所見 本跡は出土土器及び重複関係から時期は8世紀後半以前と考えられる。

第83号住居跡 (第188~190図)

位置 調査I区中央部のC 2 g5区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第196号土坑に中央部を掘り込まれ、第82A・82C号住居跡の南壁、第82B号住居跡の南部、第87号住居跡の北西コーナーをそれぞれ掘り込んでいる。また、北西壁・南西壁の一部は調査区域外に延びる。

規模と形状 長軸5.67m、短軸5.20mほどの方形で、主軸方向はN-16°-Eである。壁高は20cmで、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

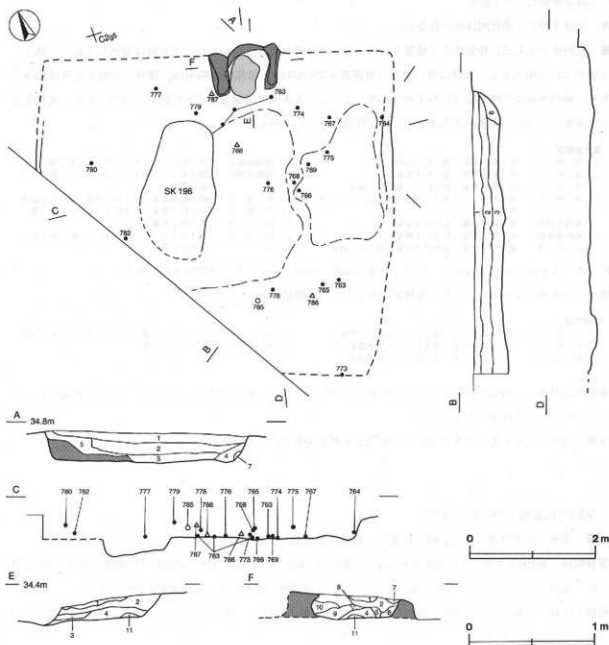
床 はほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北東壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1・2層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部までの86cm、袖部最大幅111cm、壁外への掘り込みは18cmであり、袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面と同じ高さの地山面をそのまま使用しており、火熱を受けて赤変している。煙道部は火床部からはほぼ外傾して立ち上がる。

■ 竈土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|---------|---------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 | 7 濃い赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 炭化粒子・粘土粒子中量、焼土粒子少量 | 8 暗褐色 | 灰多量、焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子、炭化粒子中量、粘土粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、灰中量 |
| 4 褐色 | 灰多量、焼土粒子・粘土粒子少量 | 10 褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量 | 11 灰褐色 | 灰多量、焼土粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量 | | |

ピット 精査したが確認できなかった。



第168図 第83号住居跡実測図

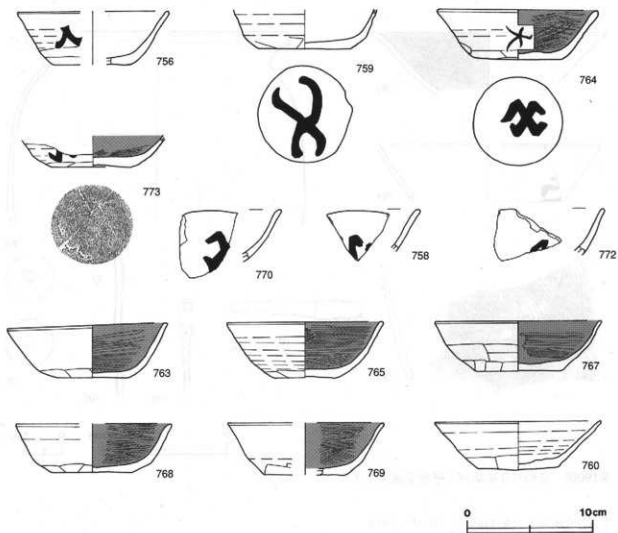
覆土 7層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

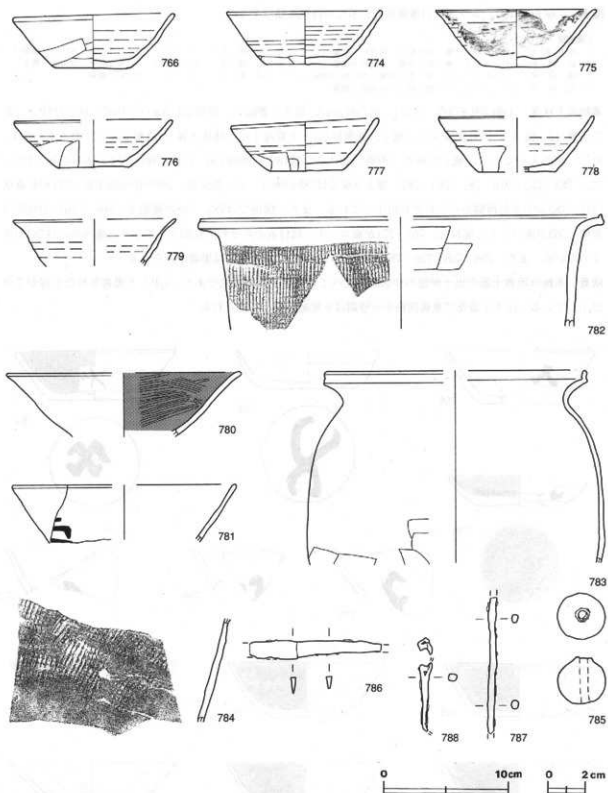
1 板 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 灰 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
2 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	6 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7 暗 褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片873点（坏231，高台付坏13，皿8，亮621），須恵器片208点（坏85，高台付坏3，蓋5，亮112，瓶3），灰釉陶器3点（碗1，長頸瓶2），土製品1点（球状土鍾），鉄製品3点（刀子1，鎌1，釘1）が出土している。覆土上層から中層にかけては第189・190図756・758～760・764・765・768・770・772・773・775・778～781・785・787，覆土下層では786が南コーナー部付近，769が中央部東側，777が北東壁付近，782が中央部西側からそれぞれ出土している。また，床面では783・788が竈前方，766・776が中央部の東側，763が南コーナー部付近，767・774が東コーナー部付近からそれぞれ出土しており，竈内からは784が出土している。また，756・758・759・764・770・772・773・781などには墨書がみられる。

所見 本跡は墨書土器の出土が他の住居跡に比べて多いことが特徴的であり，「卍」と墨書された土器が7点出土している。出土土器及び重複関係から時期は9世紀後葉と考えられる。



第189図 第83号住居跡出土遺物実測図（1）



第190図 第83号住居跡出土遺物実測図(2)

第83号住居跡出土遺物観察表(第189・190図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	産土位置	備考
756	土器	坏	[11.9]	4.3	[6.1]	雲母・赤色粒子	にぶい成	普通	体部外面下縁へツ削り、底部ナデ	産土上へ中層	25% 黒青 二次焼成 P.L.48

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
758	土師器	坏	—	(13)	—	雲母	にひい青	普通	内面ヘラ磨き	覆土上～中層	5% 墨書 二次焼成
759	土師器	坏	—	(12)	7.4	雲母・長石	橙	普通	体部外面下縁ヘラ削り、底部回転糸切り後周縁ヘラ削り	覆土上～中層	50% 墨書「記」二次焼成 P.L.G
760	須恵器	坏	13.2	3.9	6.5	雲母・長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底縁多方向ヘラ削り	覆土上～中層	90% P.L.G
763	土師器	坏	12.8	4.5	5.6	長石・黒色粒子	にひい青	普通	体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き	床面	100% 二次焼成 P.L.G
764	土師器	坏	12.6	4.1	7.2	雲母・長石	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部多方向ヘラ削り、内面ヘラ磨き	覆土中層	95% 墨書「大」「記」 P.L.G
765	土師器	坏	12.5	4.5	4.8	雲母・長石・赤色粒子	にひい青	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部ナデ、内面ヘラ磨き	覆土上～中層	90% P.L.G
766	須恵器	坏	13.0	4.4	6.1	雲母・長石・石英・赤色粒子	にひい青	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底縁一方削り	床面	90% P.L.G
767	土師器	坏	13.2	4.0	7.0	雲母・長石	にひい青	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り、内面ヘラ磨き	床面	100% 内面磨純 P.L.G
768	土師器	坏	[12]	3.9	6.4	雲母・長石・赤色粒子	にひい青	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り、内面ヘラ磨き	覆土上～中層	45%
769	土師器	坏	[12]	4.2	[6.3]	雲母・長石・赤・赤色粒子	にひい青	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部ヘラ削り、内面ヘラ磨き	覆土下層	40%
770	土師器	碗	—	(42)	—	雲母・長石	にひい青	普通	内面ヘラ磨き	覆土上～中層	5% 墨書「出」
772	土師器	坏	—	(37)	—	雲母・長石	にひい青	普通	内面ヘラ磨き	覆土上～中層	5% 墨書
773	土師器	坏	—	(25)	6.4	雲母・長石・赤色粒子	にひい青	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底部回転糸切り、内面ヘラ磨き	覆土下層	50% 墨書
774	須恵器	坏	12.2	4.3	6.2	雲母・長石・黒色粒子	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底縁一方削り	床面	95% P.L.G
775	須恵器	坏	12.8	4.7	5.5	雲母・長石・石英	灰	普通	底部ナデ	覆土上～中層	8% 墨書 二次焼成 墨書純 P.L.G
776	須恵器	坏	[12.6]	3.8	5.6	雲母・長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底縁一方削り	床面	50%
777	須恵器	坏	11.7	4.2	6.0	雲母・長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底縁一方削り	覆土下層	60% 二次焼成
778	須恵器	坏	[12.5]	4.5	[6.2]	雲母・長石・石英・赤色粒子	オリーブ灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り、底縁一方削り	覆土上～中層	30%
779	須恵器	坏	[10.0]	(37)	—	雲母・長石・石英	灰	普通	ロクロナデ	覆土上～中層	50%
780	土師器	高台付椀	[8.7]	(51)	—	雲母・長石・石英	にひい青	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土上～中層	30%
781	土師器	高台付椀	[7.9]	(46)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	洗黄橙	普通	体部内面横位のヘラ磨き	覆土上～中層	10% 墨書 二次焼成 墨書純
782	須恵器	鉢	[32.2]	(30)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面格子目付き、内面ヘラナデ	覆土下層	5%
783	土師器	鉢	[30.0]	(15.4)	—	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り、内面ナデ	床面	30%
784	須恵器	鉢	—	(32)	—	雲母・長石	にひい青	普通	体部外面格子目付き、下位ヘラ削り、内面ヘラナデ、輪縁み度	竈内	5% P.L.G

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
785	球状土師	2.5	2.5	0.5	13.4	土製	ナデ	覆土上～中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
786	刀子	(10.5)	1.2	0.4	(15.4)	鉄	切先部欠損 基部先端部欠損	覆土下層	P.L.G
787	鏃	(11.1)	0.5	0.7	(11.8)	鉄	鞘部	覆土上～中層	
788	不明鉄製品	(5.6)	1.2	0.6	(6.2)	鉄	頭部欠損Y字状に屈曲	床面	

第84号住居跡 (第191・192図)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2 17区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第180号土坑に北部を掘り込まれ、第79号住居跡の南東コーナー、第133号土坑を掘り込んでいる。

また、北東コーナーは攪乱をうけている。

規模と形状 長軸3.20m、短軸3.15mの方形で、主軸方向はN-72°-Eである。壁高は26-34cmで、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 は平坦で、中央部が硬化している。壁溝は周囲している。

竈 精査したが確認できなかった。

ピット 3か所。P1-P3は北西コーナーに配置され、深さ16-28cmで、性格は不明である。

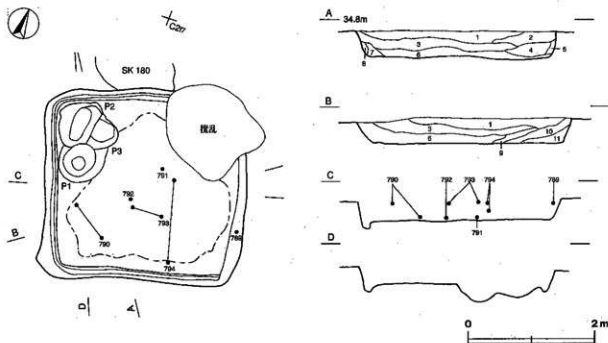
覆土 11層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物微量
4 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量
5 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量		

遺物出土状況 土師器片883点(坏128, 甕755), 須恵器片95点(坏68, 蓋2, 長頸瓶1, 甕24)が出土している。第192図789・793・794は覆土中から出土している。791・792は中央部の床面からそれぞれ出土している。また、790は南コーナー付近の床面から出土した土師器片と覆土上層から出土した土師器片が接合している。

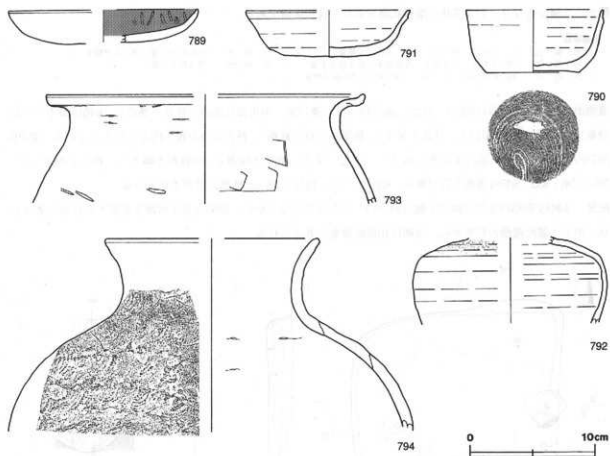
所見 本跡において、790の須恵器坏は、この時期に出土する須恵器の形態や技法に相違がみられ、常陸国外からの搬入品と考えられ、出土土器から時期は8世紀前葉と考えられる。



第191図 第84号住居跡実測図

第84号住居跡出土遺物観察表 (第192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
789	土師器	坏	[15.2]	2.6	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	底部外周ナデ、底部へリ削り、内面へリ削り	覆土上層	10%
790	須恵器	坏	[10.9]	5.0	7.5	長石・石英	灰	普通	底部回転糸切り	覆土上層・床面	80% 長石3ミリ P L 47
791	須恵器	坏	[13.1]	3.7	7.2	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	底部へリ削り後ナデ、二次底面	床面	70% 二次焼成
792	須恵器	長頸瓶	-	(6.9)	-	長石	灰	良好	下部下位回転へリ削り、肩部自然輪	床面	20%
793	土師器	甕	[25.4]	(8.8)	-	雲母・長石・石英	にぶい褐色	普通	上縁部輪縁み出し、体部外面へリ削り、体部内面へリ削り	覆土上層	10%
794	須恵器	甕	[16.8]	(15.6)	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	肩部外周円状削り、内面ナデ、輪縁み出し	覆土上・中層	10% 器面剥離



第192図 第84号住居跡出土遺物実測図

第85B号住居跡 (第193・194図)

位置 調査I区中央部のC2g6区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第86号住居跡に東壁、第4号小堅穴遺構に南壁から南西コーナーを掘り込まれており、第85A号住居跡の南西壁、第85D号住居跡の全体を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.38m、短軸3.16mの方形で、主軸方向はN-89°-Wである。壁高は39cmほどで、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。左袖部と右袖部の一部は残存するが、天井部は欠失している。規模は焚口部から煙道部まで63cm、袖部最大幅60cm、壁外への掘り込みは15cmであり、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。また、その中央部には土製羽口を転用した支脚が据えられている。煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量	5 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	6 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量
3 暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量		
4 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量		

ピット 1か所。主柱穴は確認できなかったが、P1は床面をわずかに掘り込んだ程度であり、東壁寄りの中央部に位置することから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

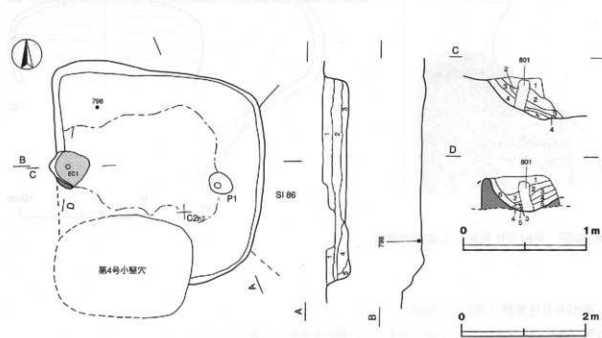
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|---------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | 焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片202点(坏21, 高台付坏2, 甕179), 須恵器片26点(坏9, 甕17), 灰釉陶器1点(長頸瓶), 土製品2点(羽口1, 球状土錘1), 鉄製品2点(鉄鏝), 軽石1点が覆土内から出土している。第194図798は北西コーナー部の床面から出土している。また、竈の火床部には801が支脚として据えられていた。795・796・833~835は墨書土器であり, 835は「上」, 他は「記」と体部に墨書されている。

所見 本跡は第85D号住居跡と主軸方向が同じであることなどから, 第85D号住居跡を拡張した住居と考えられ, 出土土器や遺構の形態から, 時期は10世紀前葉と考えられる。

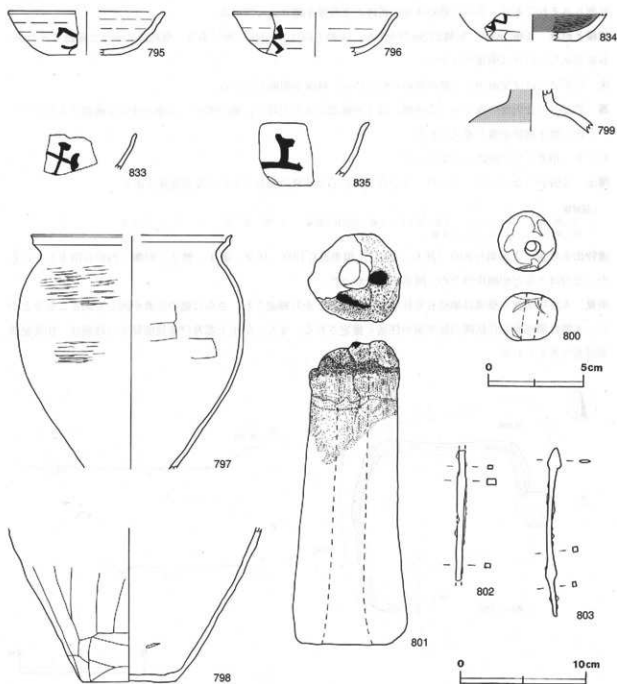


第193図 第85B号住居跡実測図

第85B号住居跡出土遺物観察表 (第194図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
795	土師器	坏	[12.6]	34	[6.0]	雲母・長石	橙	普通	底部回転糸切り	覆土	35% 墨書「出」
796	土師器	坏	[13.1]	(3.5)	—	雲母・長石	橙	普通	ロクロナデ	覆土	10% 墨書「記」
797	土師器	甕	[21.0]	(24.9)	—	雲母・長石・石英	明赤陶	普通	体部外置ヘウ具による厚き底, 内面ヘウナデ	覆土	40%
798	土師器	甕	—	(12.2)	7.5	雲母・長石・石英	にがい青	普通	体部外面ヘウ具, 内面ナデ, 輪積み底	床面	20%
799	灰釉陶器	水取	—	(3.5)	—	長石	灰白	普通	体部外面灰釉施施	覆土	10% 墨書90号室式
833	土師器	坏	—	(2.8)	—	雲母・長石	橙	普通	ロクロナデ	覆土	5% 墨書「記」 ? L48
834	土師器	坏	—	(2.9)	[7.0]	長石	橙	普通	体部下層手持ちヘウ削り, 底部ヘウ削り	覆土	10% 墨書「記」
835	土師器	坏	—	(4.4)	—	雲母・長石	にがい青	普通	内面ヘウ書き	覆土	10% 墨書「上」 P L48

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
800	球状土錘	2.5	3.0	0.7	24.4	土製	ナデ	覆土	
801	羽口	24.5	7.3~9.3	2.3~4.1	(1840.0)	土製	ナデ	竈内	支脚転用 P L67



第194図 第85B号住居跡出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
802	鏝	(10.5)	0.75	0.45	(12.5)	鉄	鏝身欠損	竈内	
803	鏝	13.6	0.45	0.40	12.3	鉄	長柄三角鏝	竈内	PLB

第85D号住居跡 (第195図)

位置 調査I区中央部のC2g6区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第85B号住居跡に全体、第86号住居跡に東壁、第4号小竪穴遺構に南壁から南西コーナーをそれぞれ

れ掘り込まれており、さらに第85A号住居跡の南西壁を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.83m、短軸2.72mの方形で、主軸方向はN-89°-Wである。壁高は4cmほど確認できたが、各壁の立ち上がりは明確ではない。

床 平坦で、ほぼ全面がよく踏み固められている。壁溝が周回している。

竈 第85B号住居跡の竈があった西壁に焼土が確認できただけで、他の壁からは竈の残存は確認できなかったことから焼土部分が竈と考えられる

ピット 精査したが確認できなかった。

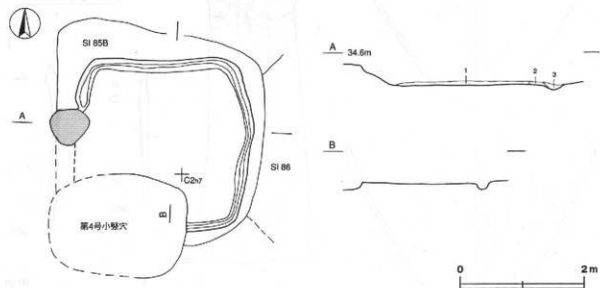
覆土 3層からなり、ロームブロックやローム粒子を多量に含むことから人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片40点（坏6、甕34）、須恵器片12点（坏9、蓋1、甕2）が覆土内から出土しているが、そのほとんどが細片のため、図示できなかった。

所見 本跡の床面や壁溝は第85B号住居跡の床面直下から確認され、さらに竈の位置が同じであることなどから、本跡は第85B号住居跡の拡張前の住居と推定される。また、出土土器及び重複関係から時期は、10世紀前葉以前と考えられる。



第195図 第85D号住居跡実測図

第86号住居跡（第196～198図）

位置 調査1区中央部のC2区7区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第85A号住居跡の中央部と第85B・第85D号住居跡の東壁をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.95m、短軸3.58mの長方形で、主軸方向はN-43°-Eである。壁高は22cmほどで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、竈前方部から中央部がよく踏み固められている。

竈 北東壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1層

がこれに相当する。規模は笑口部から煙道部までの112cm、袖部最大幅74cm、壁外への掘り込みは70cmであり、袖の内壁はほとんど焼けていない。火床部は床面と同じ高さの地山面をわずかに掘りくぼめ、火熱を受けてわずかに赤変している。煙道部は火床部からはほぼ外傾して立ち上がる。

覆土層解説

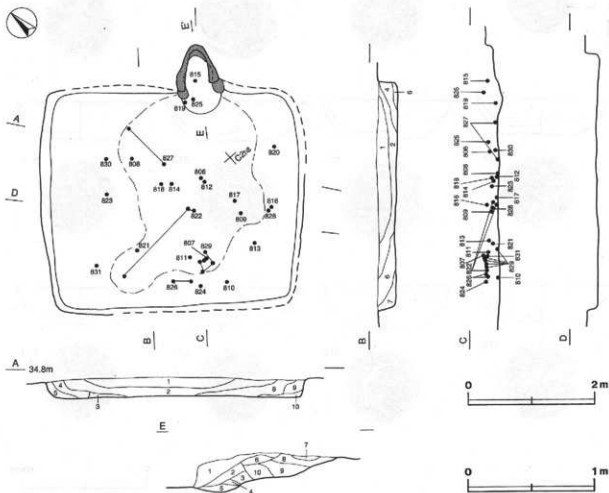
- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 6 暗褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 地上粒子・粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 9 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

ビット 精査したが確認できなかった。

覆土 10層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

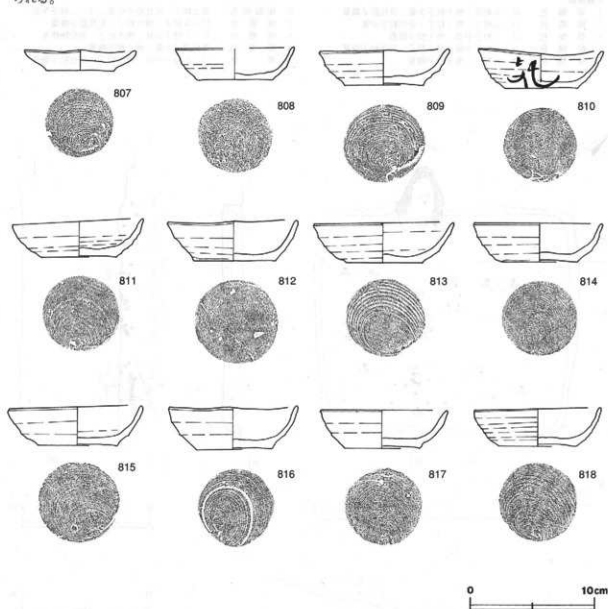
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量・炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |



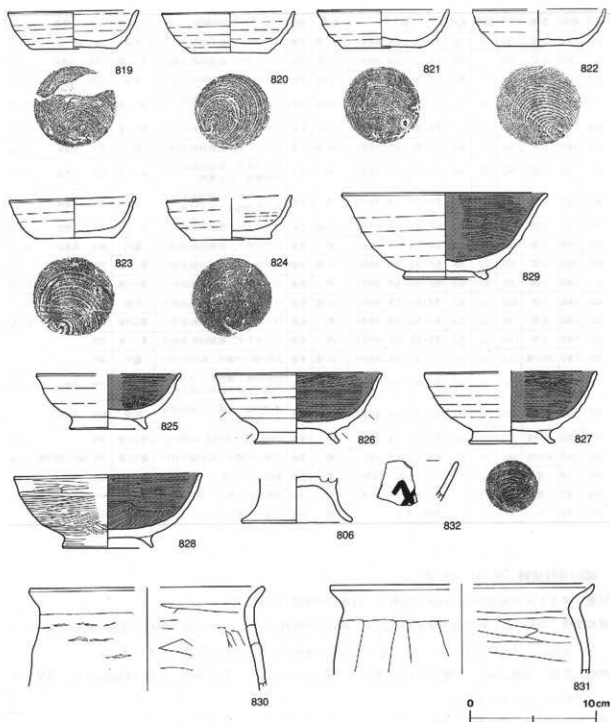
第196図 第86号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片978点（坏392，高台付坏29，足高高台付碗1，甕556），灰釉陶器片9点（長頸瓶），土製品4点（支脚），鉄滓4点，軽石1点が出土している。覆土上層からは第197・198図807・811・813・816・820・824・826・829・831が出土し，覆土中層から下層にかけては，814・818が中央部付近，808・823・830が中央部北側，821が南西壁中央付近，809・828が南東壁中央付近からそれぞれ出土している。また，床面からは，806・812・822が中央部，827が中央部北側付近，817が南東壁中央付近，810が南西壁中央付近からそれぞれ出土しており，竈内からは815・819・825が出土している。これらの遺物の中には810・832の墨書土器が出土しており，810が「花」と墨書されているが，832は細片であるが「祀」と推定される。

所見 本跡の遺物は，上層から床面にかけてほぼ同じ大きさの小皿類が多く出土しており，接合関係においても上層から出土した土器片と床面から出土した土器片が接合している。このことから住居廃絶後，これらの遺物がほぼ同時期に一括投棄されたものと推定できる。時期は遺構の重複関係や出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第197図 第86号住居跡出土遺物実測図（1）



第198図 第86号住居跡出土遺物実測図(2)

第86号住居跡出土遺物観察表(第197・198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	差度	手法の特徴	出土位置	備考
806	土師器	足縁台付碗	—	(3.8)	8.7	雲母・長石・石英・赤色辰子	にぶい橙	普通	ロクロナデ、高台貼り付け	床面	20% 二次焼成
807	土師器	小皿	8.8	1.7	5.4	雲母・長石・石英・赤色辰子	にぶい橙	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土上層	100% P L.51
808	土師器	小皿	[9.4]	2.6	6.0	雲母・長石・石英・赤色辰子	橙	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土中層	50%
809	土師器	小皿	19.1	3.0	6.4	雲母・長石・石英	橙	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土中層	100% 二次焼成 P L.51

番号	種別	部種	口径	部高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
810	土師器	小皿	9.9	3.2	5.6	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	床面	100% 器蓋「花」 P.L51
811	土師器	小皿	10.4	3.1	6.0	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土層	100% 二次焼成 P.L51
812	土師器	小皿	10.4	3.3	6.1	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	床面	100% 二次焼成 P.L51
813	土師器	小皿	11.2	3.4	5.8	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り、内面指ナデ	覆土層	95% 二次焼成 P.L51
814	土師器	小皿	10.2	3.1	6.0	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土下層	90% 二次焼成 P.L51
815	土師器	小皿	10.5	3.2	6.4	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	竈内	80% 二次焼成 P.L51
816	土師器	小皿	10.2	3.4	6.0	雲母・炭石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り、内面焼成による黒斑	覆土層	95% 二次焼成 P.L51
817	土師器	小皿	10.1	3.1	6.0	雲母・炭石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り、内・外面焼成による黒斑	床面	90% 二次焼成 P.L51
818	土師器	小皿	10.1	3.2	6.2	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土中層	70% 二次焼成 P.L51
819	土師器	小皿	10.2	3.0	6.4	雲母・炭石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	竈内	80% 二次焼成 P.L52
820	土師器	小皿	10.5	3.3	6.0	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土層	75% 二次焼成
821	土師器	小皿	10.3	3.1	6.0	雲母・炭石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土下層	80% 二次焼成 P.L52
822	土師器	小皿	[10.6]	3.1	6.7	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	床面	70% 二次焼成
823	土師器	小皿	9.9	3.2	6.4	雲母・炭石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土中層	80% 二次焼成 P.L52
824	土師器	小皿	[9.8]	3.5	6.4	雲母・炭石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土層	70%
825	土師器	高台付筒	[11.4]	4.4	6.0	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部内面へう磨き、高台貼り付け	竈内	65%
826	土師器	高台付筒	13.1	5.6	6.4	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	体部外面下層回転へう磨り、内面へう磨き、高台貼り付け	覆土上層	70% 二次焼成 P.L59
827	土師器	高台付筒	[13.6]	5.7	6.7	雲母・炭石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面へう磨き、底部糸切り、高台貼り付け	床面	60% 二次焼成
828	土師器	高台付筒	14.7	6.0	7.0	雲母・炭石・石英・赤色粒子	黒	普通	内外面へう磨き、黒色炭質、高台貼り付け	覆土中層	90% P.L59
829	土師器	高台付筒	16.2	6.8	6.5	雲母・炭石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面へう磨き、高台貼り付け	覆土上層	90% 内面一部黒銅質 P.L59
830	土師器	壺	[18.4]	(8.2)	—	雲母・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外側ナデ、内面へうナデ、輪縁面	覆土下層	10%
831	土師器	壺	[20.8]	(7.1)	—	雲母・炭石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へう磨り、内面へうナデ	覆土上層	5%
832	土師器	杯	—	(3.2)	—	雲母・炭石	橙	普通	内面へう磨き	覆土	5% 器蓋「花」

第87号住居跡 (第199～201区)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2h6区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第89号住居跡の北東壁を掘り込み、第83号住居跡に北西コーナー部、第85B号住居跡に北東コーナー部、第90号住居跡に南東コーナー部、第4号小堅穴遺構に東壁をそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.58m、短軸4.53mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は61cmほどで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、竈前方から南壁にかけてよく踏み固められている。壁溝は全周している。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1層が崩落土に相当する。規模は焚口部から煙道部まで81cm、袖部最大幅150cm、壁外への掘り込みは45cmであり、袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。また、煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

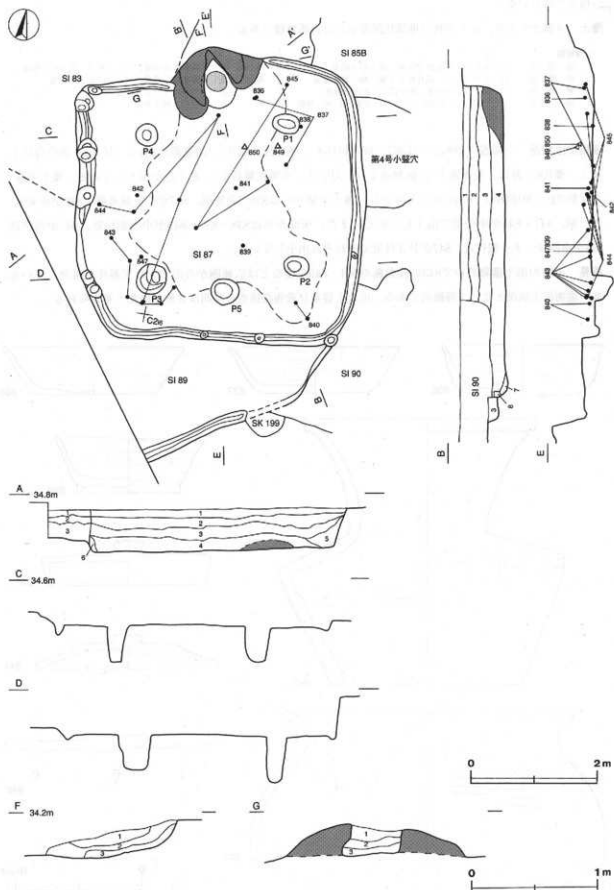
竈土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量

3 暗赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子中量

2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、粘土粒子中量

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4で、深さは54～73cmである。P5は深さ34cmで、南壁寄りの中央部に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。また、壁柱穴と考えられる小ピット10か所が壁溝内か



第199图 第87·89号住居跡实测图

ら検出されている。

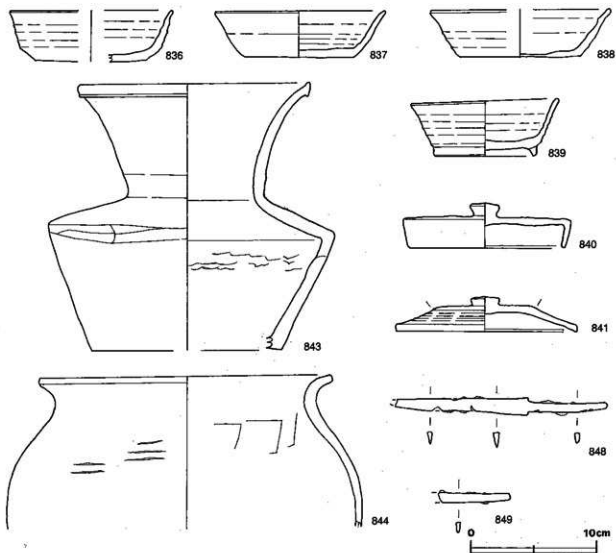
覆土 8層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

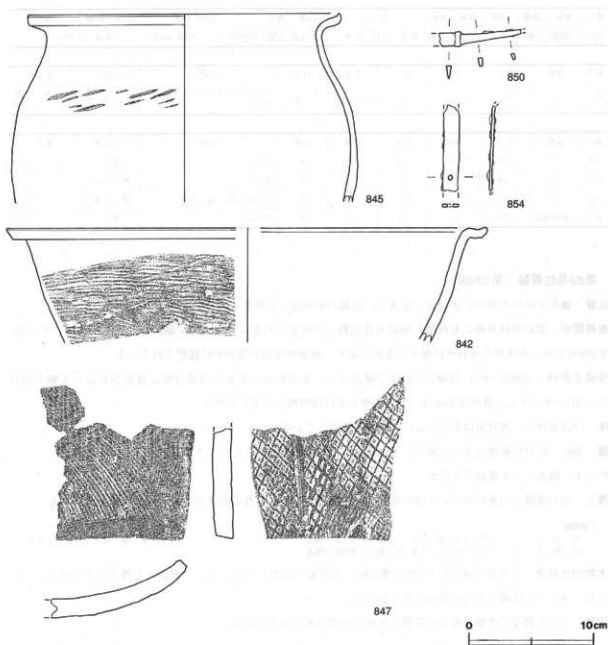
1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	5 暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 褐色	粘土粒子多量、ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子、炭化物微量	7 褐色	ロームブロック多量
4 新暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量	8 褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片1996点(坏367, 高台付坏8, 甕1612, 甕9), 須恵器片281点(坏161, 高台付坏1, 鉢1, 甕106, 蓋11, 長頸瓶1), 鉄製品4点(刀子3, 不明鉄製品1), 瓦1点が出土している。覆土中層からは第200・201区849・850が出土しており、覆土下層からは836が北壁部, 837が中央部東側, 840が南東コーナー部, 841・844が中央部で出土している。また、床面からは838・839・845が中央部付近, 842が西壁部, 843が南西コーナー部付近, 847がP3付近でそれぞれ出土している。

所見 本跡の出土遺物の中で843の長頸瓶や844・845の甕などは広範囲から出土した土器片と接合している。他の遺物出土状況と比べて特徴的である。出土土器及び重複関係から時期は8世紀中葉と考えられる。



第200図 第87号住居跡出土遺物実測図(1)



第201図 第87号住居跡出土遺物実測図(2)

第87号住居跡出土遺物観察表(第200・201図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
836	須恵器	環	[12.8]	4.1	[8.8]	雲母・長石・石英	にぶい褐色	普通	ロクロナデ, 底部ナデ	覆土下層	30% 二次焼成
837	須恵器	環	13.5	3.8	8.5	雲母・長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ, 底部ナデ	覆土下層	70% P L 47
838	須恵器	環	[14.2]	3.8	9.6	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	底面回転ヘラ切り後刷毛ヘラ削り	床面	50% 二次焼成
839	須恵器	南台付環	11.5	4.6	7.8	長石・針状鉱物	灰黄	普通	底面ヘラ切り後刷毛ヘラ削り	床面	90% P L 52
840	須恵器	蓋	12.4	3.6	-	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ, 天井部輪組み痕・自然物	覆土下層	95% P L 59
841	須恵器	蓋	[14.5]	2.8	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	50%
842	須恵器	鉢	[38.4]	[9.2]	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	外部外面縁位の平行押し・内面ナデ	床面	10%
843	須恵器	長頸瓶	18.3	21.4	[15.0]	雲母・長石・石英	明赤期	普通	底部指ナデ, 胴部ヘラナデ, 内面輪組み痕	床面	70% P L 61
844	土師器	甕	23.2	(12.3)	-	雲母・長石・石英	にぶい黄	普通	外部外面ナデ, ヘラ具痕, 内面ヘラナデ	覆土下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	直径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
845	土師器	壺	24.8	(15.1)	—	雲母・長石・石英	にいり赤褐色	普通	体部外面ナア、ヘウ具痕、内面ナア	床面	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
847	平瓦	(18.4)	(16.5)	2.1	(664.0)	土製	凹面に布目痕、凸面に斜格子跡	床面	胎土石英、色調灰色 P L66

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
848	刀子	(16.9)	1.9	0.4	(26.9)	鉄	茎部	覆土	P L69
849	刀子	(5.8)	0.9	0.3	(5.0)	鉄	茎部	覆土中層	
850	刀子	(6.6)	1.1	0.35	(7.3)	鉄	刃身部欠損 鞘口金具	覆土中層	P L69
854	不明鉄製品	(6.9)	1.3	0.2	(9.5)	鉄	径3mm穴	覆土	P L69

第89号住居跡 (第199図)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2ie区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第83号住居跡に北西敷、第87号住居跡に中央部から北コーナー部、第90号住居跡に東コーナー部、第199号土坑に南東壁をそれぞれ掘り込まれており、南東壁周辺が部分的に確認されている。

規模と形状 長軸5.30m、短軸3.37mほど確認され、平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はN-35°-Wである。壁高は50cmほどで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。壁溝が周回している。

竈 第83・87号住居跡によって掘り込まれているため、確認することができなかった。

ピット 精査したが確認できなかった。

覆土 他の遺構との重複のため3層が部分的に確認されたが、堆積状況は自然堆積の状況を示している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片202点(坏96, 壺106), 須恵器片62点(坏32, 蓋1, 壺29)が覆土中から出土しているが、ほとんどは細片のため図示できなかった。

所見 出土土器及び重複関係から時期は8世紀中葉以前と考えられる。

第90号住居跡 (第202・203図)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2ie区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第87・89号住居跡の南東コーナー付近、第199号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.45m、短軸2.38mの長方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁高は35cmほどで、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、竈前部から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈 北壁の中央部東寄りに砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで83cm、袖部最大幅83cm、壁外への掘り込みは50cmであり、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。

覆土層解説

1 暗褐色	粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
3 褐色	粘土粒子中量, 炭化粒子少量
4 極暗赤褐色	灰中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・灰少量, 炭化粒子微量
6 褐色	焼土粒子少量, ローム粒子微量
7 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
8 にぶい褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量

9 明褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
10 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
11 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
12 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
13 明赤褐色	焼土粒子多量, 粘土ブロック中量, 炭化粒子少量
14 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 精査したが確認することはできなかった。

覆土 14層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

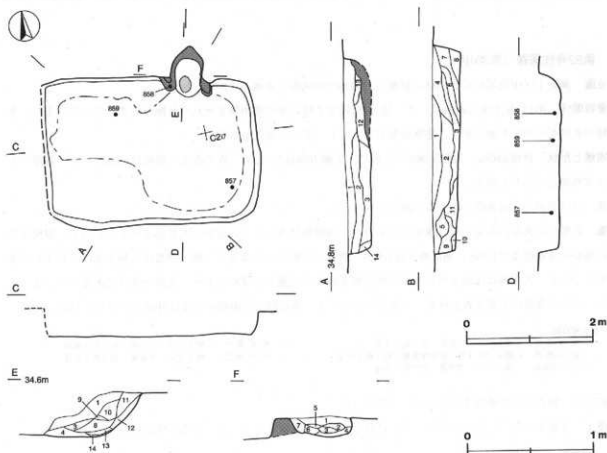
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
7 極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量

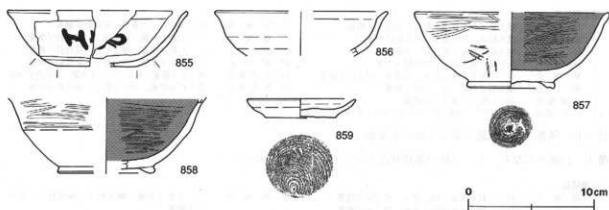
9 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10 褐色	ローム粒子多量
11 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
12 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
13 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
14 暗褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片504点(坏215, 高台付坏12, 高台付碗3, 小皿1, 甕273), 須恵器片60点(坏24, 甕36), 灰釉陶器1点(長頸瓶), 土製品1点(不明), 鉄滓5点が出土している。第203図855の墨書土器・灰釉陶器の長頸瓶・鉄滓は覆土中から出土している。857は南東コーナ一部, 859は中央部北西側, 858は竈左袖部の覆土下層から出土している。

所見 本跡は出土土器及び遺構の形態から時期は、10世紀中葉と考えられる。



第202図 第90号住居跡実測図



第203図 第90号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表 (第203図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
855	土師器	杯	[4.2]	4.5	[6.4]	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下縁手持ちへう削り、底部回転へう削り、内面へう磨き	覆土	20% 墨書
856	土師器	高台付椀	[13.8]	(3.6)	—	雲母・長石・石英	にぶい	普通	ロクロナデ	覆土	10% 二次焼成
857	土師器	高台付椀	[15.7]	6.1	6.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	口縁部外面へう磨き、内面へう磨き、底部糸切り後高台貼り付け	覆土下層	50% 外面へう具痕
858	土師器	高台付椀	—	(6.0)	[7.6]	雲母・長石・石英	にぶい	普通	体部内・外面へう磨き、底部糸切り後高台貼り付け	覆土下層	20%
859	土師器	小皿	8.7	1.5	5.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	良好	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土下層	100% 二次焼成 PLS2

第92号住居跡 (第204図)

位置 調査I区中央部のC2f9区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第145号土坑に南西コーナー部、第172号土坑に中央部南側をそれぞれ掘り込まれている。また、本跡の北側から中央上面にかけて遺物が集中して出土している地点がある。

規模と形状 長軸3.65m、短軸3.28mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は15cmほどで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、全体的によく踏み固められている。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されており、両袖部は残存しているが、天井部は欠失している。規模は焚口部から煙道部まで110cm、袖部最大幅129cm、壁外への掘り込みはなく、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は床面と同じ高さの地山面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。また、その中央部に土製支脚が直立して据えられている。煙道部は火床部からほぼ外傾して立ち上がる。

竈土層解説

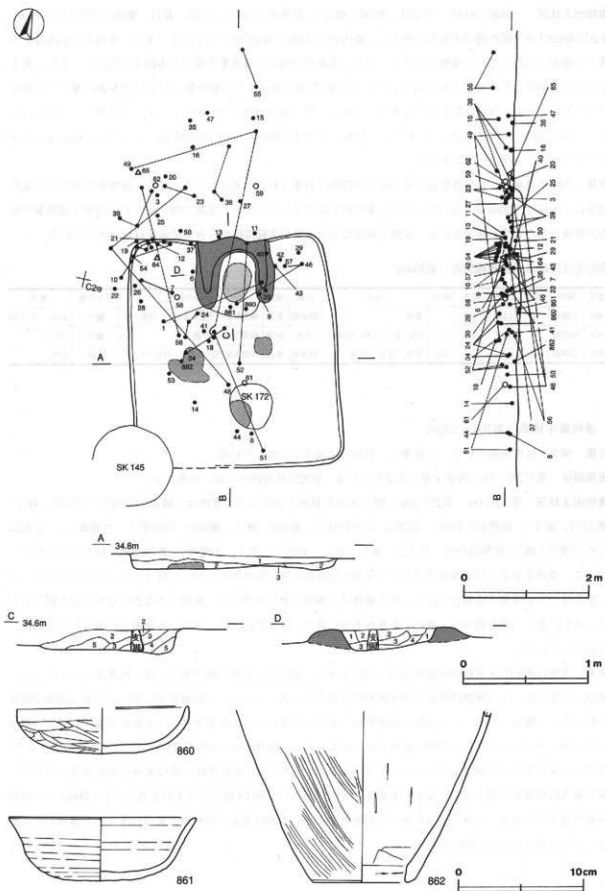
1 暗赤褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子少量	4 暗赤褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子微量
2 暗赤褐色	焼土ブロック・炭化物多量、粘土粒子少量	5 暗赤褐色	焼土ブロック多量、粘土粒子少量
3 にぶい赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子少量		

ピット 精査したが確認することはできなかった。

覆土 3層からなり、ロームブロックや貝殻を含む層が堆積することから人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量、炭化物中量、焼土粒子少量	3 褐色	ロームブロック多量、炭化物少量
2 黒褐色	貝殻片多量、ロームブロック・炭化物中量		



第204圖 第92号住居跡・遺物集中地点，第92号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片816点(坏179, 甕636, 瓶1), 須恵器片154点(坏73, 蓋41, 甕40)が出土している。第204図862は中央部西側の床面から出土し, 竈内からは860・861が出土している。また, 床面から10cmほどの覆土上層中ではたくさんの遺物が出土しており, 本跡の北側から遺物集中心地点が本跡まで広がる。また, 覆土中からは貝層が3か所確認されており, そのうち第172号土坑出土の貝層を除いたものが本跡の覆土中に投棄されたものである。貝殻は総量7,071g出土しており, その割合はキサゴ43.0%, ハマグリ17.3%, アカニシ6.0%, シジミ5.2%, アサリ3.1%, オキシジミ0.9%, サルボウ0.6%, シオフキ0.6%, ホソコオロギ0.3%, ヒメシラトリ0.1%, 不明22.9%であった。

所見 本跡の貝塚は, 住居廃絶後に埋め戻しの段階で投棄されたと考えられる。また, 遺物集中心地点との重複関係は, 床面から10cmほど高いレベルから集中的に出土することから, 本跡が埋め戻される段階で遺物集中心地点が形成されたものと推定される。本跡の時期は出土土器や重複関係から8世紀前葉以前と考えられる。

第92号住居跡出土遺物観察表(第204図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
860	土師器	坏	[13.8]	3.9	—	雲母	明赤褐	普通	外部外縁へう割り後ナデ, 内面ナデ	竈内	60% P L 48
861	須恵器	坏	14.9	5.0	7.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	底部回転ヘウ割り	竈内	65%
862	土師器	瓶	—	(13.7)	8.4	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	外部外縁下位ヘウ割り, 内面ヘラナデ	床面	10%

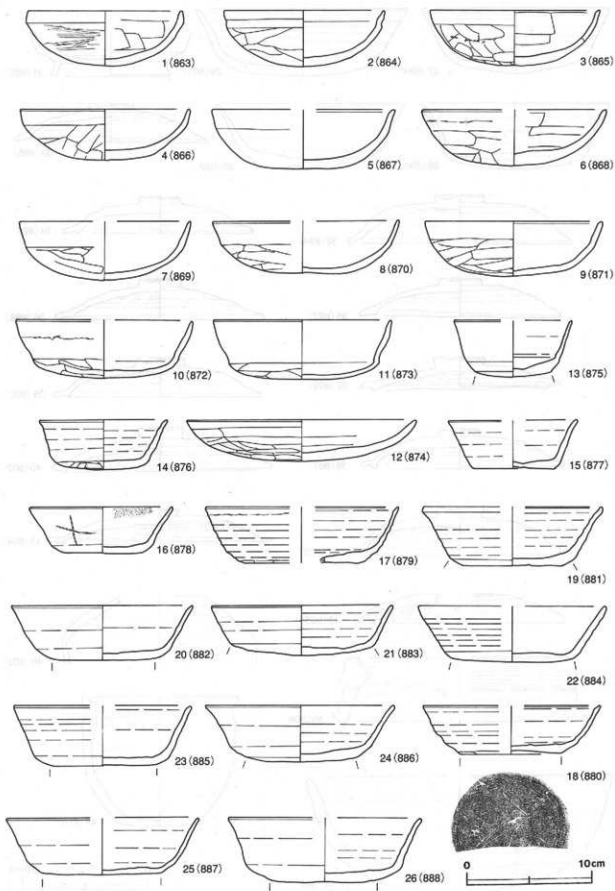
遺物集中心地点(第204~208図)

位置 調査I区中央部のC2e9に位置し, 台地の中央部に立地している。

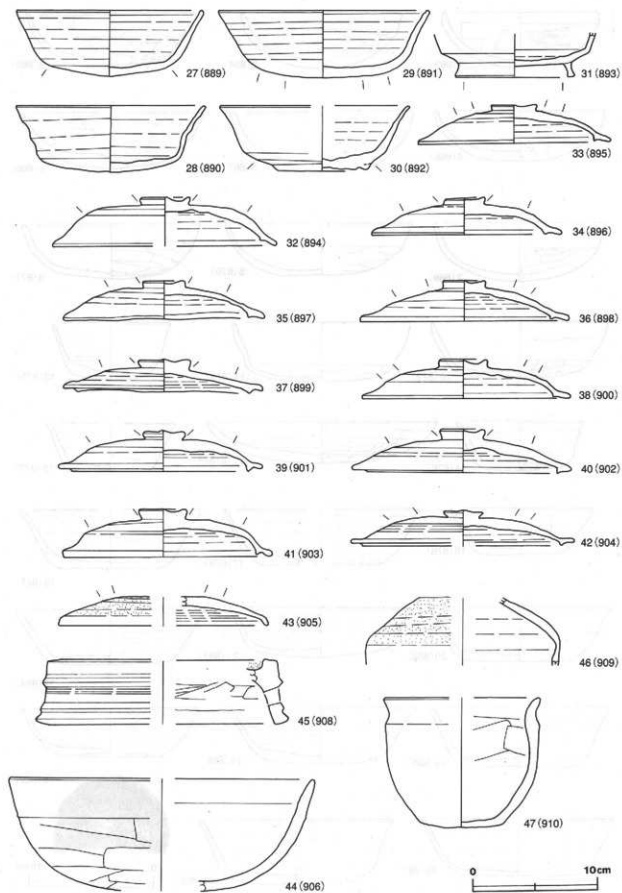
重複関係 第172号土坑に南側を掘り込まれている。第92号住居跡の上面に分布する。

遺物出土状況 南北6.00m, 東西3.50m, 厚さ30cmの範囲で分布する。遺物は土師器片2,606点(坏370, 鉢1, 甕2,231, 瓶4), 須恵器片770点(坏293, 高台付坏5, 蓋130, 鉢1, 甕339, 円面甕1, 長頸瓶1), 土製品5点(球状土錘), 鉄製品10点(刀子2, 鍬2, 釘1, 釣針1, 門1, 不明3), 鉄滓28点, 軽石5点が出土している。遺物集中心地点は密集状況からC2e9区北側中央部と南西部の2か所に細分することができるが, 特に南西部の方が密集する割合が高い。出土遺物は土師器の甕片が多いが, 接合できなかったものが大部分である。それと比べて須恵器の坏・蓋の完形率が非常に高い。分布状況については, 特徴ある分布はなく, 散在して出土している。

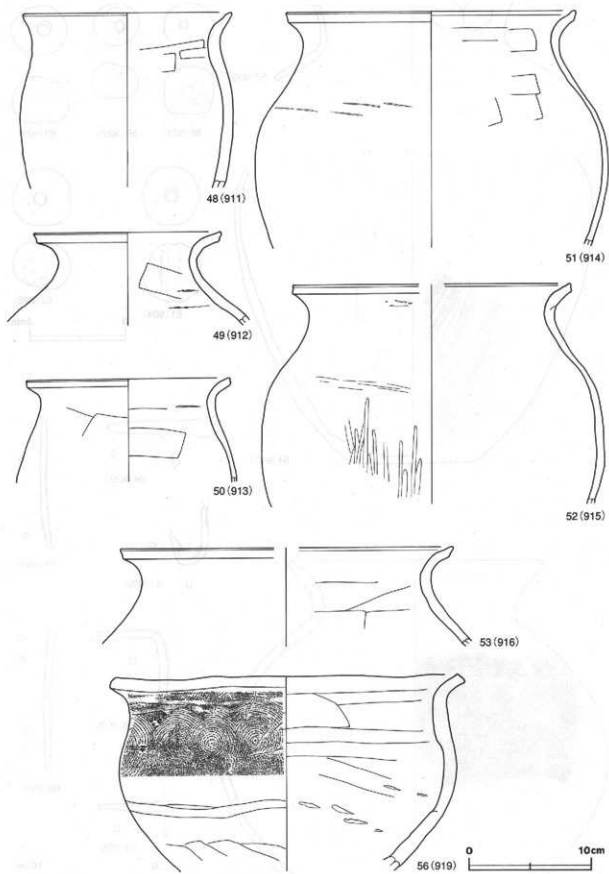
所見 遺物は第92号住居跡の床面10cmほどの高さから, 第92号住居跡の確認面より高い位置から出土し, 広い範囲に分布する。この遺物は第92号住居跡が埋め戻された後のくぼみから旧地表面にかけて大量の遺物が投棄されたものと推定される。出土遺物は須恵器坏・蓋が主体を占め, 7世紀末葉から8世紀前葉にかけての遺物が多く出土しており, 投棄の時期に幅が認められる。また, 第206図893の須恵器高台付坏(8世紀前葉終末期)のように集中心地点の上層から出土しているものもあり, 909の須恵器長頸瓶(竈投棄折戸10号窯式)のように集中心地点の中層から出土しているものもある。このことについて893は混入したものと考えられ, 909については調査で捉えられなかった落ち込みがあった可能性がある。本跡は遺物の器種や大量の投棄された遺物から祭祀などの行為が行われた可能性がある。



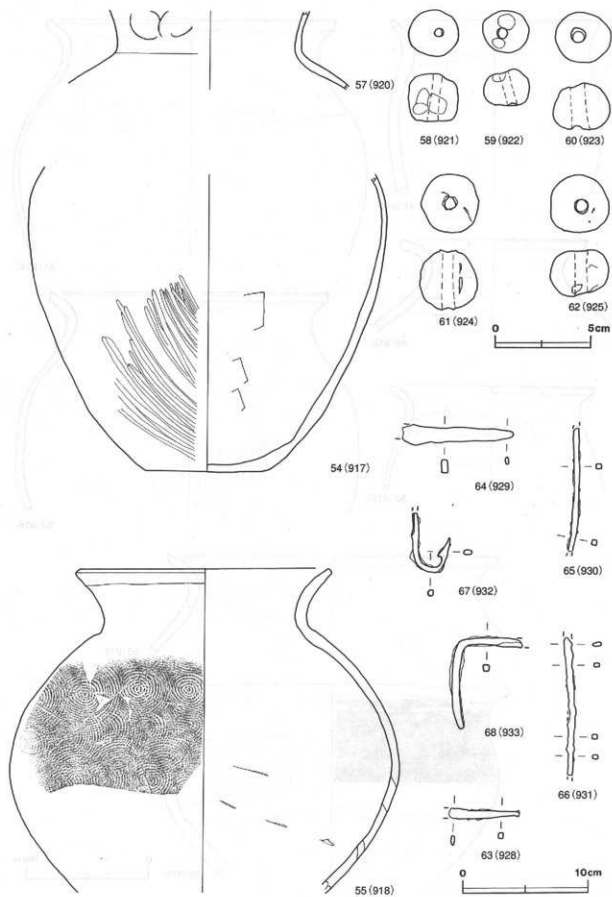
第205图 遗物集中地点出土遗物实测图(1)



第206图 遗物集中地点出土遗物实测图(2)



第207图 遗物集中地点出土遗物实测图(3)



第208图 遺物集中地点出土遺物実測図(4)

遺物集中地点出土遺物観察表 (第205~208図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1 (863)	土師器	坏	12.4	4.5	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	外部外面へう削り、内面へうナテ、輪積み痕	覆土	55%
2 (864)	土師器	坏	12.9	4.1	-	雲母・長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	外部外面へう削り後ナテ、内面ナテ	覆土	90% 二次焼成 P L48
3 (865)	土師器	坏	13.7	4.5	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外部外面へう削り後ナテ、内面へうナテ、輪積み痕	覆土	70% P L48
4 (866)	土師器	坏	13.6	4.2	-	雲母・長石	にぶい褐	普通	外部外面へう削り後ナテ、内面ナテ	覆土	80% P L48
5 (867)	土師器	坏	[14.8]	4.9	-	雲母・赤色粒子	にぶい黄	普通	外部外面ナテ、内面ナテ	覆土	60% 二次焼成
6 (868)	土師器	坏	[14.8]	4.6	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	外部外面へう削り後ナテ、内面へうナテ、外面輪積み痕	覆土	45% 二次焼成
7 (869)	土師器	坏	[13.7]	4.7	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外部外面へう削り後ナテ、内面へうナテ	覆土	50% 二次焼成
8 (870)	土師器	坏	[14.9]	4.2	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外部外面へう削り後ナテ、内面へうナテ	覆土	50% 二次焼成
9 (871)	土師器	坏	14.3	4.5	-	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	外部外面へう削り後ナテ、内面ナテ	覆土	90% P L48
10 (872)	土師器	坏	[14.2]	4.7	-	雲母・長石・石英	黒褐	普通	外部外面へう削り、内面ナテ、輪積み痕	覆土	70% P L48
11 (873)	土師器	坏	14.5	4.8	-	雲母・長石・石英	灰褐	普通	外部外面へう削り、内面ナテ	覆土	60%
12 (874)	土師器	藍灰坏	18.6	3.3	-	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	外部外面へう削り後ナテ、内面へうナテ	覆土	75% P L50
13 (875)	須恵器	坏	[9.4]	4.6	6.2	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	底部回転へう削り	覆土	80%
14 (876)	須恵器	坏	10.2	4.0	6.1	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部手持ちへう削り	覆土	70% P L49
15 (877)	須恵器	坏	[10.4]	3.9	6.1	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転へう削り後ナテ	覆土	65%
16 (878)	須恵器	坏	11.5	3.8	6.6	雲母・石英	灰	普通	底部不定方向の手持ちへう削り	覆土	90% [X]へう削り
17 (879)	須恵器	坏	[15.6]	4.5	[9.0]	雲母・長石・赤色粒子	黄灰	普通	底部下縁手持ちへう削り、底部不定方向の手持ちへう削り	覆土	40%
18 (880)	須恵器	坏	[14.3]	3.9	8.4	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部不定方向の手持ちへう削り	覆土	50% [X]へう削り
19 (881)	須恵器	坏	[14.8]	4.8	8.1	雲母・長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	底部下縁回転へう削り、底部回転へう削り	覆土	60% P L49
20 (882)	須恵器	坏	14.6	4.5	8.3	長石・石英	褐灰	普通	底部回転へう削り	覆土	60%
21 (883)	須恵器	坏	14.6	4.0	11.2	雲母・長石・石英	灰黄	普通	底部回転へう削り	覆土	55%
22 (884)	須恵器	坏	[15.0]	4.5	9.9	雲母・長石・石英	灰白	普通	底部回転へう削り	覆土	70%
23 (885)	須恵器	坏	[14.3]	4.8	8.6	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転へう削り	覆土	70% P L49
24 (886)	須恵器	坏	15.2	4.5	8.8	雲母・長石・石英	灰	普通	底部回転へう削り	覆土	75% P L49
25 (887)	須恵器	坏	[15.6]	4.6	9.8	雲母・長石・石英	灰褐	普通	底部回転へう削り	覆土	60% P L49
26 (888)	須恵器	坏	[15.4]	5.2	8.6	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転へう削り	覆土	80% P L49
27 (889)	須恵器	坏	14.9	5.3	9.8	雲母・長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	底部回転へう削り	覆土	60% P L49
28 (890)	須恵器	坏	15.1	5.4	8.8	雲母・長石・石英	灰黄	普通	一方方向の手持ちへう削り	覆土	70%
29 (891)	須恵器	坏	16.9	5.4	9.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	底部周縁回転へう削り後手持ちへう削り	覆土	90% P L49
30 (892)	須恵器	高台付坏	[15.1]	5.3	7.0	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転へう削り後高台貼り付け	覆土	50%
31 (893)	須恵器	高台付坏	-	(3.5)	9.5	長石・石英・小石	黄灰	普通	底部回転へう削り後高台貼り付け	覆土	20%
32 (894)	須恵器	蓋	[17.8]	3.9	-	雲母・長石	灰黄褐	普通	天井部回転へう削り	覆土	30%
33 (895)	須恵器	蓋	[15.4]	3.1	-	雲母・長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	天井部回転へう削り	覆土	60%
34 (896)	須恵器	蓋	15.2	3.0	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	天井部回転へう削り	覆土	95% P L60
35 (897)	須恵器	蓋	16.0	3.2	-	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	天井部回転へう削り	覆土	90% P L60
36 (898)	須恵器	蓋	15.6	3.3	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	天井部回転へう削り	覆土	60% P L60
37 (899)	須恵器	蓋	15.9	2.7	-	雲母・長石・石英	褐灰	普通	天井部回転へう削り	覆土	90%
38 (900)	須恵器	蓋	16.6	3.1	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	天井部回転へう削り	覆土	15% P L60
39 (901)	須恵器	蓋	16.3	3.3	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	天井部回転へう削り	覆土	90% P L60
40 (902)	須恵器	蓋	17.6	3.5	-	雲母・長石・石英	灰	良好	天井部回転へう削り	覆土	100% P L60
41 (903)	須恵器	蓋	16.5	3.9	-	雲母・長石・石英	黄灰	普通	天井部回転へう削り	覆土	100% P L60

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
42 (904)	須臾器	蓋	[17.8]	2.9	—	雲母・長石・石英	褐灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土	75%
43 (905)	須臾器	蓋	[16.7]	(2.3)	—	長石	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り, 自然熱	覆土	50%
44 (906)	土師器	鉢	[24.2]	(4.9)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外部外面ヘラ削り後ナダ, 内面ナダ	覆土	40%
45 (908)	須臾器	円蓋	[18.0]	5.2	[18.0]	長石・針状鉱物	褐灰	良好	外面自然熱, 内面ナダ, 方形透し孔	覆土	10% P L 63
46 (909)	須臾器	長頸瓶	—	(5.3)	—	長石	灰	良好	口コロナダ, 外部外面自然熱	覆土	3% 形跡不明
47 (910)	土師器	甕	[12.4]	10.4	6.4	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	内部内面ヘラナダ	覆土	45% 器底摩耗
48 (911)	土師器	甕	[27.0]	(14.3)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	内部内面ヘラナダ	覆土	50% 器底摩耗
49 (912)	土師器	甕	15.1	(7.8)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	外部外面ナダ, 内面ヘラナダ, 輪縁のみ	覆土	20%
50 (913)	土師器	甕	16.6	(8.6)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	内部内外面ヘラナダ	覆土	20% 器底摩耗
51 (914)	土師器	甕	[23.6]	(13.5)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	外部外面ヘラ削り, 内面ヘラナダ	覆土	20%
52 (915)	土師器	甕	[27.2]	(13.2)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	外部外面ヘラ削り, 内面ヘラナダ, 輪縁のみ	覆土	30%
53 (916)	土師器	甕	[22.6]	(8.1)	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	内部内面ヘラナダ	覆土	5%
54 (917)	土師器	甕	—	(10.0)	9.6	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	外部外面ヘラ削り, 内面ヘラナダ, 底部ヘラ削り	覆土	50%
55 (918)	須臾器	甕	19.8	(10.0)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰	普通	口縁脱, 外部外面同心円状の跡, 輪縁のみ	覆土	30%
56 (919)	須臾器	甕	28.0	(15.1)	—	雲母・長石・石英	灰	普通	外部ヘラナダ, 外部同心円状の跡, 下部ヘラ削り, 内面ヘラナダ, 輪縁のみ	覆土	60% P L 63
57 (920)	須臾器	甕	—	(6.3)	—	長石	黄灰	良好	口縁部凹形跡, 外部外面平行印後ナダ	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
58 (921)	球状土師	2.5	2.7	0.6	17.4	土製	ナダ	覆土	
59 (922)	球状土師	2.2	2.5	0.5	9.0	土製	ナダ	覆土	
60 (923)	球状土師	2.7	3.1	0.8	16.1	土製	ナダ	覆土	
61 (924)	球状土師	3.2	3.1	0.6	26.0	土製	ナダ	覆土	
62 (925)	球状土師	2.4	3.1	0.7	21.5	土製	ナダ	覆土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
63 (928)	刀子	(5.6)	0.8	0.4	(4.5)	鉄	茎部	覆土	
64 (929)	刀子	(9.0)	1.0	0.5	(16.7)	鉄	茎部	覆土	
65 (930)	鎌	(9.9)	0.45	0.4	(8.8)	鉄	柄部	覆土	
66 (931)	鎌	(11.1)	0.4	0.4	(8.7)	鉄	柄部	覆土	
67 (932)	釣り針	(4.7)	0.4~0.5	0.4	(5.8)	鉄	輪部欠損	覆土	P L 69
68 (933)	門	7.3	(5.2)	0.5	(17.0)	鉄	右部欠損	覆土	P L 69

第93号住居跡 (第209図)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2 f0区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第96号住居跡の北コーナー部を掘り込んでいる。西壁周辺は確認できたが, 東側の大部分は調査区域外に延びる。

規模と形状 長軸3.66m, 短軸1.10mほど確認され, 平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はN-30°-Wである。壁高は40cmで, 壁はほぼ外傾して立ち上る。

床 ほぼ平坦で, 西壁周辺が踏み固められている。

竈 西壁周辺には確認されなかった。

ピット 1か所。柱穴はP1のみ確認でき, 深さは42cmである。

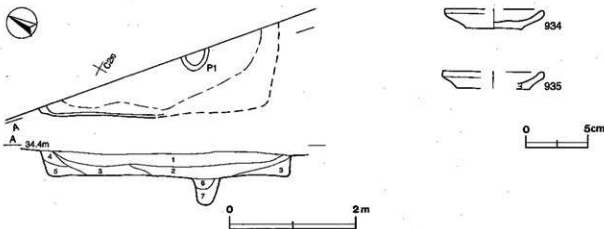
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。第6・7層はP1の土層である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック多量	5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子多量、炭化物少量
2 暗褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量	6 黒褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ロームブロック多量、炭化物少量	7 褐色	ロームブロック多量
4 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量		

遺物出土状況 土師器片62点（小皿2，坏4，寛56）が出土している。第209図の934・935は覆土中から出土している。

所見 出土土器及び重複関係から時期は11世紀代と考えられる。



第209図 第93号住居跡・出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表（第209図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
934	土師器	小皿	[7.8]	1.6	4.3	雲母	橙	普通	ロクロナデ，底部回転糸切り	覆土	50%
935	土師器	小皿	[8.0]	1.4	[5.8]	雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ，底部回転糸切り	覆土	5%

第97号住居跡（第210・211図）

位置 調査I区中央部のC3h1区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第2号土器焼成遺構に東壁を掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.11m，短軸3.86mの方形で，主軸方向はN-56°-Wである。壁高は30~48cmで，各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，竈前方から中央部にかけてよく踏み固められ，壁溝が全周している。また，北コーナー部の落ち込みは長軸60cm，短軸45cmの楕円形で深さ15cmであり，覆土は焼土ブロック，灰，炭化物等が検出されていることから，灰溜と考えられる。

竈 北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが，天井部は崩落しており，第1層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで118cm，袖部最大幅108cm，壁外への掘り込みは30cmであり，袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受けて赤変している。煙道部は火床部からほぼ外傾して立ち上がる。

竈土層解説

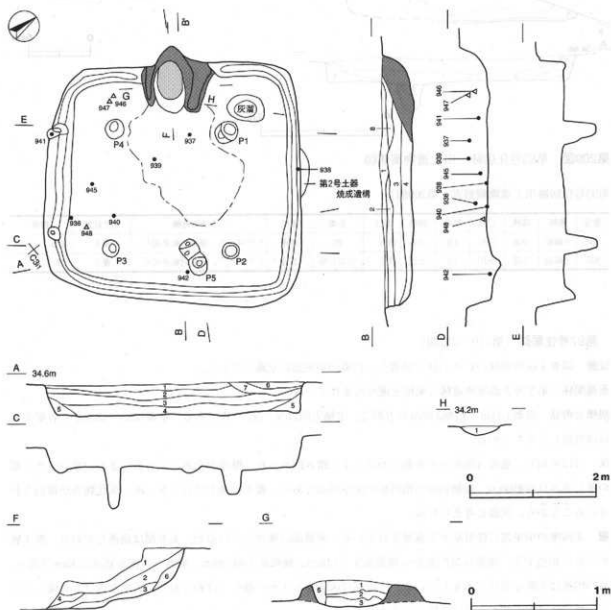
- | | | | |
|----------|----------------------------|---------|--------------------------|
| 1 におい赤褐色 | ローム粒子・粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子少量 | 4 暗赤褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 | 5 照暗赤褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 3 におい赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子多量、灰多量 | 6 照暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 |

ピット 5か所。主柱穴はP1～P4で、深さは42～64cmである。P5は深さ24cmで南東壁際の中央部に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。その他のピットは2か所あり、性格は不明である。

覆土 8層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

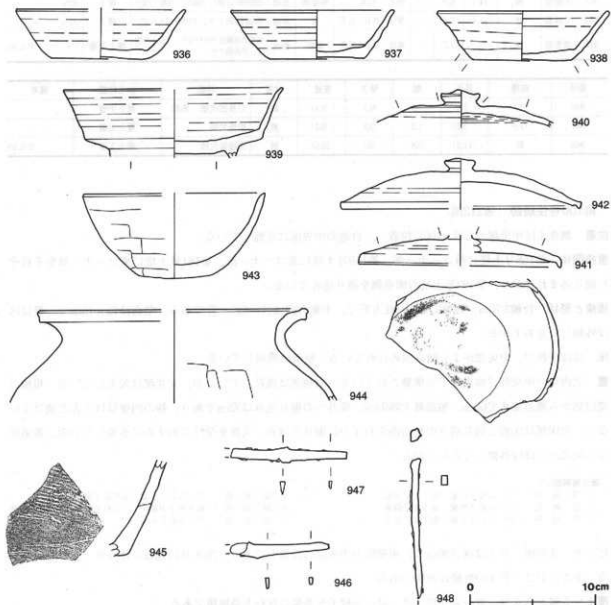
- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化物少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 | 8 黒褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化物中量 |



第210図 第97号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片1158点(坏234, 高台付坏2, 椀1, 甕920, 甌1), 須恵器片164点(坏88, 高台付坏1, 蓋19, 甕55, 甌1), 土製品1点(支脚), 鉄製品3点(刀子2, 釘1), 鉄滓2点, 軽石1点が出土している。覆土上層からは第211図937・939・943・944・947, 覆土中層からは936・941・946が出土しており, 941は裏面を硯として転用している。覆土下層からは942が南東壁, 945が南西壁, 948が北西コーナー部付近からそれぞれ出土している。938は東壁に横位の状態で, 940は北西コーナー部付近の床面からそれぞれ出土している。また, 940は竈内から出土した土器片と接合している。

所見 出土土器及び遺構の形態から, 本跡の時期は8世紀後半と考えられる。



第211図 第97号住居跡出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表 (第211図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色質	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
936	須臈器	坏	[13.4]	4.0	7.6	雲母・長石・石英	灰	普通	底部不定方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	45%
937	須臈器	坏	13.0	3.9	7.5	長石・石英・針状磁物	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	40%
938	須臈器	坏	13.6	4.1	7.8	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部下層回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り	床面	90% 二次焼成 P L 49
939	須臈器	高台付坏	[17.6]	(5.5)	—	長石・石英・針状磁物	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼り付け	覆土上層	20%
940	須臈器	壺	—	(3.0)	—	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	80% 二次焼成
941	須臈器	壺	[16.2]	(2.5)	—	長石・石英・針状磁物	灰	普通	天井部回転ヘラ削り、内面回転用	覆土中層	50%
942	須臈器	壺	[19.0]	4.0	—	長石・石英・針状磁物	灰	普通	口コロナテ、天井部自然軸	覆土下層	40%
943	土師器	椀	[14.4]	6.9	5.7	長石・石英	明赤褐	普通	外部外側ヘラ削り、内面ナテ、底部ヘラ削り	覆土	50%
944	土師器	壺	[21.4]	(7.5)	—	雲母・長石・石英	灰	普通	外部外面ナテ、内面ヘラナテ	覆土	20%
945	須臈器	壺	—	(7.7)	—	雲母・長石・石英	黄灰	普通	外部外面軸位の平行向き 下位ヘラ削り、内面ナテ	覆土下層	5% P L 65

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
946	刀子	(7.9)	1.3	0.3	(8.4)	鉄	刀身部分欠損 基部	覆土中層	
947	刀子	(9.3)	1.3	0.4	(9.1)	鉄	切先欠損	覆土上層	
948	釘	(11.2)	0.8	0.5	(18.5)	鉄	先端部分欠損	覆土下層	P L 69

第100号住居跡 (第212図)

位置 調査 I 区中央部の C 2 ha 区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第158号土坑に西コーナー部、第159号土坑に北コーナー部、第161号土坑に東コーナー部をそれぞれ掘り込まれており、第193号土坑の南東側を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.70m、短軸2.85mの長方形で、主軸方向はN-69°-Wである。壁高は12~15cmで、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。壁溝は周回している。

竈 北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は残存しているが、天井部は欠失している。規模は突口部から煙道部まで62cm、袖部最大幅92cm、壁外への掘り込みは32cmであり、袖の内壁はほとんど焼けていない。火床部は床面と同じ高さの地山面をわずかに掘りくぼめ、火熱を受けてわずかに赤変している。煙道部は火床部からほぼ外傾して立ち上がる。

覆土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量	4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量	5	暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物微量
3	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子中量

ピット 4か所。P 1は深さ26cmで、東壁際の中央部に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。また、P 2~P 4の性格は不明である。

覆土 5層からなり、ロームブロック・ローム粒子を多量に含む人為堆積である。

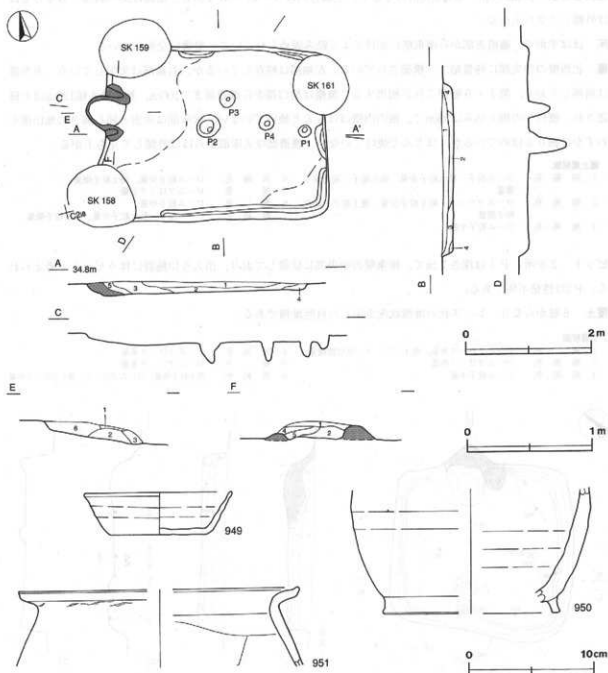
土層解説

1	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量	4	暗褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ロームブロック中量	5	暗褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック少量
3	褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 土師器片234点(坏56, 皿1, 甕176, 瓶1), 須臈器片30点(坏11, 長頸瓶4, 壺15), 鉄洋2点が出土している。第212図950・951は覆土上層から中層にかけて出土しており、949は東壁付近の覆土下層から

ら出土している。

所見 本跡の覆土は、上層から下層までロームブロックとローム粒子を多量に含んでおり、住居廃絶後間もなく埋め戻されたと考えられる。出土遺物から時期は8世紀後半と考えられる。



第212図 第100号住居跡・出土遺物実測図

第100号住居跡出土遺物観察表 (第212図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
949	須恵鉢	坏	11.8	3.4	7.8	雲母・長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	90% P L 49
950	須恵器	長頸瓶	—	(10.1)	[14.1]	長石・石英	細灰	普通	ロクロナデ	覆土中層	5%
951	土師器	甕	[22.3]	6.3	—	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部外削ナデ、内面ヘラナデ、輪轆み覆	覆土中層	5%

第101号住居跡 (第213・214図)

位置 調査I区中央部のC2h9区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第171号土坑に南東壁を掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.90m、短軸2.75mの方形で、主軸方向はN-48°-Wである。壁高は38~44cm、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、竈前方から南東壁にかけてよく踏み固められている。壁溝は全周している。

竈 北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。左袖部は残存しているが、右袖部は欠失している。天井部は崩落しており、第1・5層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで100cm、袖部最大幅120cmほど確認され、壁外への掘り込みは35cmで、袖の内壁はほとんど焼けていない。火床部は床面と同じ高さの地山面をわずかに掘りくぼめているが、ほとんど焼けていない。煙道部は火床部からはほぼ外傾して立ち上がる。

土層解説

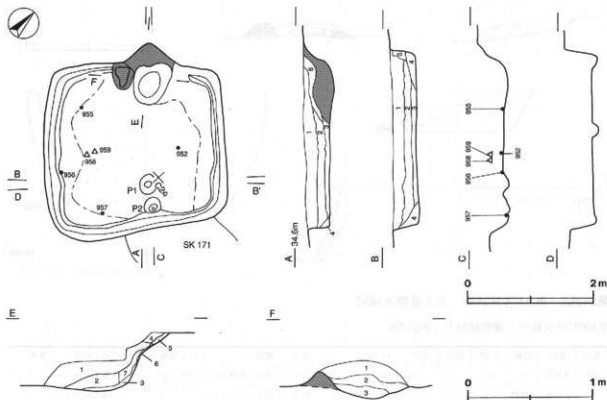
- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量 |
| | | 7 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量 |

ピット 2か所。P1は深さ7cmで、南東壁の中央部に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は性格不明である。

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

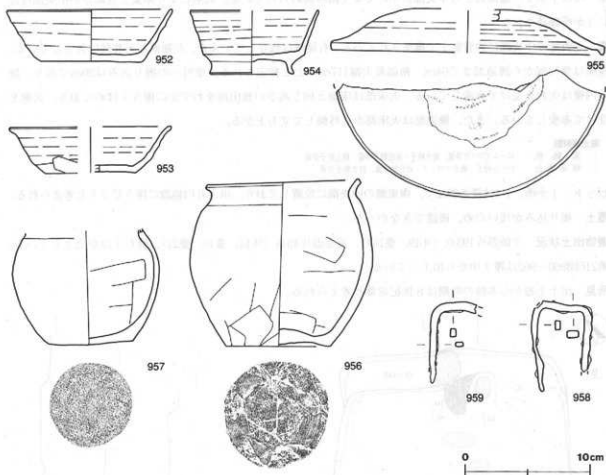
- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 6 黒褐色 | 粘土粒子多量、ロームブロック・焼土ブロック中量 |



第213図 第101号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片354点(杯57, 甕297), 須恵器片76点(杯46, 高台付杯1, 蓋1, 甕28), 鉄製品2点(門2), 軽石2点が出土している。覆土上層から中層にかけては, 第214図953・954・958・959が出土している。床面からは, 952が中央部東側, 955が西コーナー部付近, 956が南西壁際で正位の状態, 957が南コーナー部付近からそれぞれ出土している。また, 955の蓋は裏面に硯に転用している。

所見 本跡の時期は出土土器や遺構の形態から, 8世紀後葉と考えられる。



第214図 第101号住居跡出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表(第214図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
952	須恵器	杯	13.2	4.3	8.0	雲母・長石・石英	灰白	普通	体部下端手持ちへら削り, 底部回転へら切り後ナデ	床面	100% 二次焼成 P.L.49
953	須恵器	杯	[12.8]	3.5	[7.3]	雲母・長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端手持ちへら削り, 底部一方のへら削り	覆土中層	45%
954	須恵器	高台付杯	[10.2]	5.1	6.7	雲母・長石・石英	灰	良好	底部回転へら切り後ナデ	覆土中層	80% P.L.53
955	須恵器	蓋	[21.7]	(3.4)	—	長石・石英・針状炭物	灰	普通	天井部自然焼, 内面硯転用	床面	40%
956	土師器	甕	12.1	13.4	8.3	雲母・長石・石英	暗赤	普通	体部外面へら削り後ナデ, 内面へらナデ, 底部木炭焼, 輪轆み張	床面	70% 器面摩耗
957	土師器	甕	—	(9.1)	6.7	雲母・長石・石英	にがい色	普通	体部外面ナデ, 内面へらナデ, 底部ナデ	覆土中層	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
958	門	7.2	4.9	0.5~0.7	(22.1)	鉄	右部欠損	覆土中層	P.L.69
959	門	(6.6)	(3.7)	0.35~0.4	(9.6)	鉄	右部欠損	覆土中層	P.L.69

第104A号住居跡 (第215・216図)

位置 調査I区中央部のC3j1区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第104B号住居跡の南東側を掘り込んでいる。掘り込みが浅いため南東壁は確認できなかった。

規模と形状 長軸3.80m、短軸3.76mほど確認され、平面形は方形と推定される。主軸方向はN-32°-Wである。壁高は5cmほどで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、南前方から中央部にかけてよく踏み固められている。火熱により赤変した部分が中央部付近に3か所確認された。

竈 北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。右袖部は残存しているが、左袖部と天井部は欠失している。規模は焚口部から煙道部まで64cm、袖部最大幅117cmほどと推定される。壁外への掘り込みは20cmであり、袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面と同じ高さの地山面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。また、煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、炭土粒子・炭化粒子中量、粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物多量、粘土粒子少量

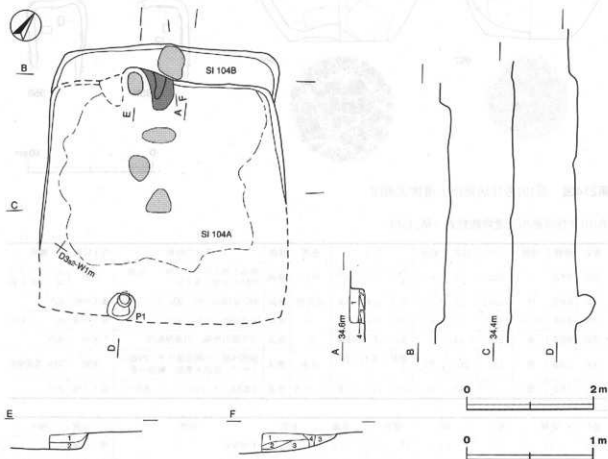
ピット 1か所。P1は深さ38cmで、南東側の中央部に位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 掘り込みが浅いため、確認できなかった。

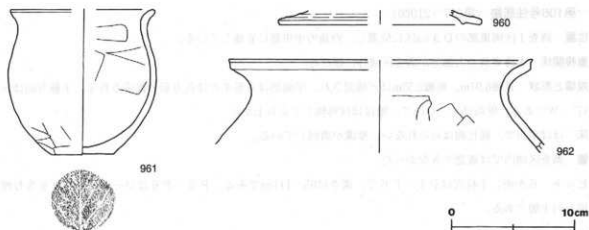
遺物出土状況 土師器片193点(坏49, 甕144), 須恵器片45点(坏14, 蓋10, 甕21), 軽石1点が出土している。

第216図960-962は覆土中から出土している。

所見 出土土器から本跡の時期は8世紀前葉と考えられる。



第215図 第104A・104B号住居跡実測図



第216図 第104A号住居跡出土遺物実測図

第104A号住居跡出土遺物観察表（第216図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
960	須恵器	蓋	[16.2]	(1.2)	—	雲母・長石	黄赤	普通	ロクロナデ	覆土	5%
961	土師器	甕	[11.5]	11.8	5.0	雲母・長石・石英	灰黄	普通	体部外面下位ヘラナデ、内面ヘラナデ、底部本業振	覆土	40% 器面摩耗
962	土師器	甕	[24.4]	(7.5)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ、内面ヘラナデ	覆土	10%

第104B号住居跡（第215図）

位置 調査I区中央部のC3j1区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第104A号住居跡に南東側を掘り込まれており、北東壁が確認できた。

規模と形状 長軸3.55m、短軸0.50mほど確認され、平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はN-32°-Wである。壁高は20cmほどで、北東壁は外傾して立ち上がる。

床 北西壁際に一部残存するが、硬化面はみられない。

竈 北西壁の中央部に構築されているが、第104A号住居跡の竈に掘り込まれているため火床部だけ確認できた。火床部の規模は長径60cm、短径42cmで床面と同じ高さの地山面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。また、煙道部は火床部から外傾して立ち上がる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|--------|----------------|
| 1 灰褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック少量 | 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック中量、炭化物少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量 |

ピット 精査したが確認できなかった。

覆土 北西壁周辺に確認されただけなので、堆積状況は明確ではない。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量、炭化物中量、焼土ブロック少量 | 3 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック多量 |
| 2 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック多量、炭化物少量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片3点(寛3)が竈内から出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 重複関係から時期は、8世紀前葉以前と考えられる。

第106号住居跡 (第217~219図)

位置 調査I区南東部のD3b4区に位置し、台地の中央部に立地している。

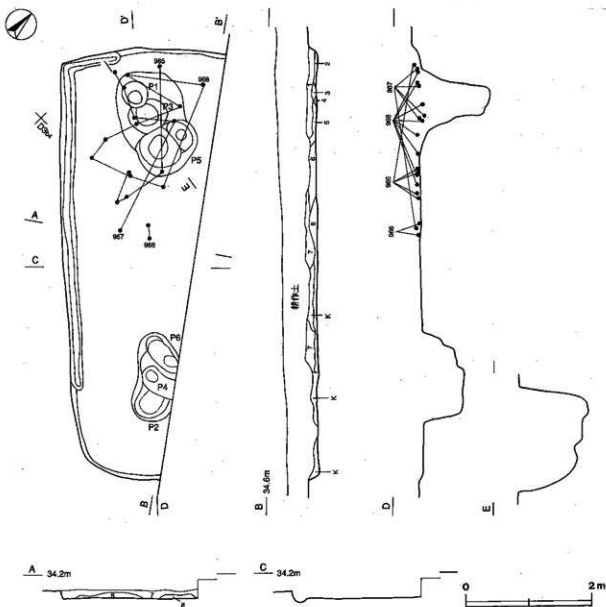
重複関係 本跡東側の大部分が調査区域外に延びる。

規模と形状 長軸6.91m、短軸2.53mほど確認され、平面形は方形または長方形と推定される。主軸方向はN-47°-Wである。壁高は6~9cmで、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。壁溝が周囲している。

竈 調査区域内では確認できなかった。

ピット 6か所。主柱穴はP1~P6で、深さは65~111cmである。P3~P6はロームブロックを含む埋め戻しの土層である。



第217図 第106号住居跡実測図

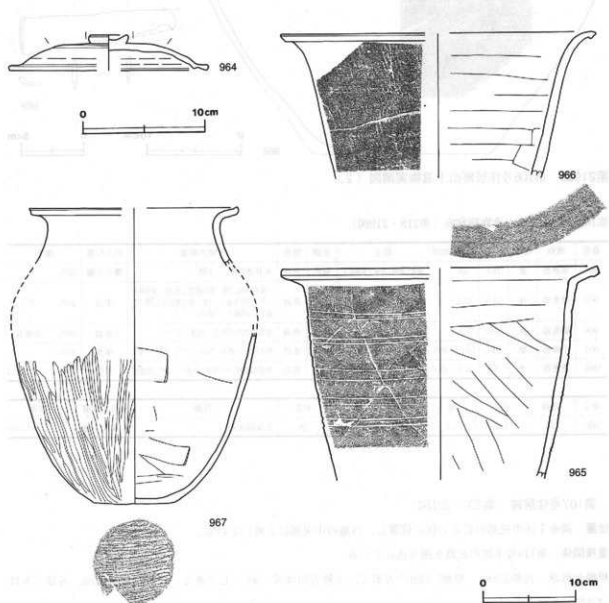
覆土 8層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

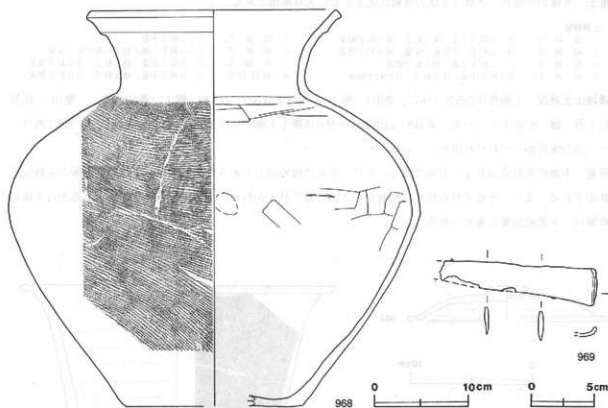
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 極暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片295点(坏77, 壺217, 瓶1), 須恵器片52点(坏30, 壺1, 釜10, 鉢1, 甕10), 鉄製品1点(鎌)が出土している。第218・219図964・969は覆土上層から出土している。また、965～968は西コーナ一部の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の主柱穴はP1～P6である。P3～P6は埋め戻してあるためP1とP2が最終段階の主柱穴と推定される。また、それぞれの柱穴は配置から3回の建て替えが行われたと考えられる。出土土器から本跡の時期は、8世紀前葉と考えられる。



第218図 第106号住居跡出土遺物実測図(1)



第219図 第106号住居跡出土遺物実測図(2)

第106号住居跡出土遺物観察表(第218・219図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
964	須臾器	蓋	[16.1]	2.9	—	雲母・長石・石英・黒色粒子	褐色	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	30%
965	須臾器	鉢	[34.0]	(23.1)	—	雲母・長石・赤色粒子	灰	普通	口周部内面に7本一糸の波状文を2段、外部外周に同心円可き亀文、7本一糸の波状文と2本の円周が5〜6段滑下、内面はヘラナデ	床面	40% P L 61
966	須臾器	鉢	[34.0]	(15.6)	—	雲母	灰白	普通	外部外面平行可き、内面ヘラナデ	床面	30% 二次焼成
967	土師器	甕	[22.4]	[32.0]	8.5	雲母・長石・石英	いぶ境	普通	外部下手ヘラ巻き、内面ヘラナデ、底部ヘラ巻き	床面	40%
968	須臾器	甕	26.0	42.1	19.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外部外面位平行可き、内面ヘラナデ、新磁面	床面	50% P L 63

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
969	鉢	(12.6)	0.4	3.2	(32.5)	鉄	先端部欠損	覆土上層	P L 69

第107号住居跡(第220・221図)

位置 調査I区中央部のC2j7区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第119号土坑の北側を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.30m、短軸3.03mの方形で、主軸方向はN-50°-Eである。壁高は12~16cm、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、中央部がよく踏み固められている。また、竈右袖部前方の落ち込みは径68cmの円形で、深さ23cmであり、覆土は焼土粒子、炭化粒子等を含む暗褐色土が検出されていることから、竈に関連する落ち込み

と考えられる。

竈 北東壁の中央部に砂質粘土で構築されている。両袖部は一部残存しているが、天井部は崩落しており、第1・2層がこれに相当する。規模は突口部から煙道部までの75cm、袖部最大幅112cm、壁外への掘り込みは42cmであり、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は床面と同じ高さの地山面を11cm掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は火床部からはほぼ外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|---------------|--------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子少量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量 | | |

ピット 4か所。P1は深さ23cmで、南西壁の西コーナー寄りに位置しており、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2～P4は性格不明である。

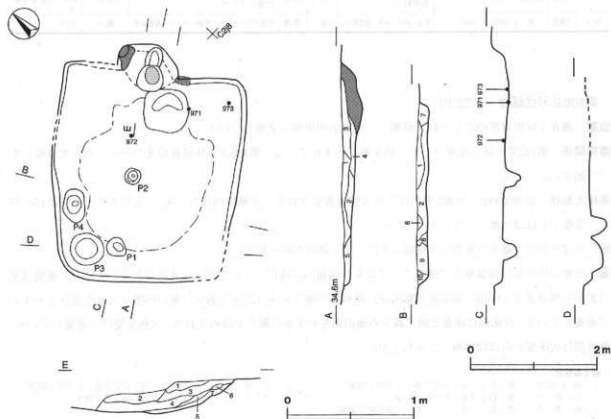
覆土 10層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

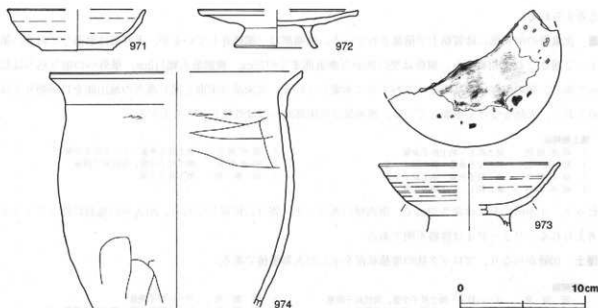
- | | | | |
|--------|---------------------|---------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片241点(坏87, 小皿1, 高台付皿1, 高台付椀20, 甕132), 須恵器片31点(坏7, 甕2, 甕22), 鉄滓2点が出土している。第221図973は東コーナー部, 971は竈右袖の前方部, 972は中央部付近の床面からそれぞれ出土している。また, 974は竈内から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器や遺構の形態から10世紀中葉と考えられる。



第220図 第107号住居跡実測図



第221図 第107号住居跡出土遺物実測図

第107号住居跡出土遺物観察表 (第221図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
971	土師器	小皿	[11.0]	3.3	5.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	ロクロナデ, 底部回転糸切り	床面	50% 二次焼成
972	土師器	高台付皿	[12.8]	3.1	6.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	ロクロナデ, 高台貼り付け	床面	70% 二次焼成
973	土師器	高台付鉢	[14.5]	(3.5)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	体部下縁へ割り接高台貼り付け, 内面ヘラナデ	床面	40% 内面塗付着
974	土師器	甕	[20.2]	(19.0)	—	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	体部下手へラナデ, 内面ヘラナデ, 輪轆ろ面	竈内	20%

第108B号住居跡 (第222図)

位置 調査I区南東部のC2j8区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第142号土坑に北東コーナー部を掘り込まれている。第108A号住居跡の北コーナーから北東壁にかけて掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.00m, 短軸2.95mほどの方形と推定される。主軸方向はN-90°-Eである。壁高は15~23cm, 各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 竈前方部から中央部にかけてよく踏み固められている。

竈 東壁の中央部に砂質粘土で構築されており, 両袖部は残存しているが, 天井部は欠失している。規模は焚口部から煙道部まで68cm, 袖部最大幅91cm, 壁外への掘り込みは25cmであり, 袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は床面と同じ高さの地山面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している。煙道部は火床部からほぼ外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 1か所。P1は深さ17cmで西壁際の中央部に位置しており, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

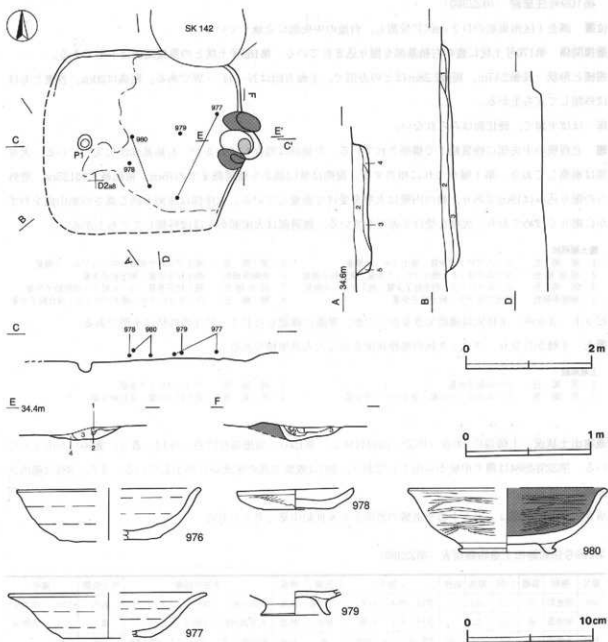
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	4 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック少量	5 暗褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、炭土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片77点（坏35，小皿1，高台付椀2，甕39），鉄製品1点（不明）が出土している。第222回976は覆土中から出土している。また，覆土下層からは977・979が竈の前方部付近，978・980が中央部付近でそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は出土土器や遺構の形態から10世紀中葉と考えられる。



第222図 第108B号住居跡・出土遺物実測図

第108B号住居跡出土遺物観察表 (第222図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
976	土師器	坏	[14.6]	4.2	[7.9]	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	覆土	30% 二次焼成
977	土師器	坏	[15.8]	3.6	[7.2]	雲母・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土下層	45% 二次焼成
978	土師器	小皿	9.3	1.7	5.6	雲母・長石・石英	橙	普通	底部糸切り直し後、底部回転糸切り	覆土下層	90% P L 52
979	土師器	高台付輪	—	(1.9)	5.6	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面へう磨き、高台貼り付け	覆土下層	10% 二次焼成
980	土師器	高台付輪	[15.8]	5.2	7.4	雲母・長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面へう磨き、内面へう磨き、底部糸切り後高台貼り付け	覆土下層	50% 二次焼成

第109号住居跡 (第223図)

位置 調査I区南東部のD2c9区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第170号土坑に竈の右袖基部を掘り込まれている。第169号土坑との重複関係は不明である。

規模と形状 長軸2.47m、短軸2.28mほどの方形で、主軸方向はN-41°-Wである。壁高は20cm、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

竈 北西壁の中央部に砂質粘土で構築されている。左袖部は残存しているが、右袖基部が欠失している。天井部は崩落しており、第1層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部までの76cm、袖部最大幅125cm、壁外への掘り込みは19cmであり、袖の内壁は火熱を受けて赤変している。火床部は床面と同じ高さの地山面をわずかに掘りほめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は火床部からほぼ外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	5 黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量
2 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	6 暗暗赤褐色	焼土粒子中量、粘土粒子少量
3 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土ブロック微量	7 暗赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 3か所。主柱穴は確認できなかったが、壁際に確認したP1~P3の性格は不明である。

覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

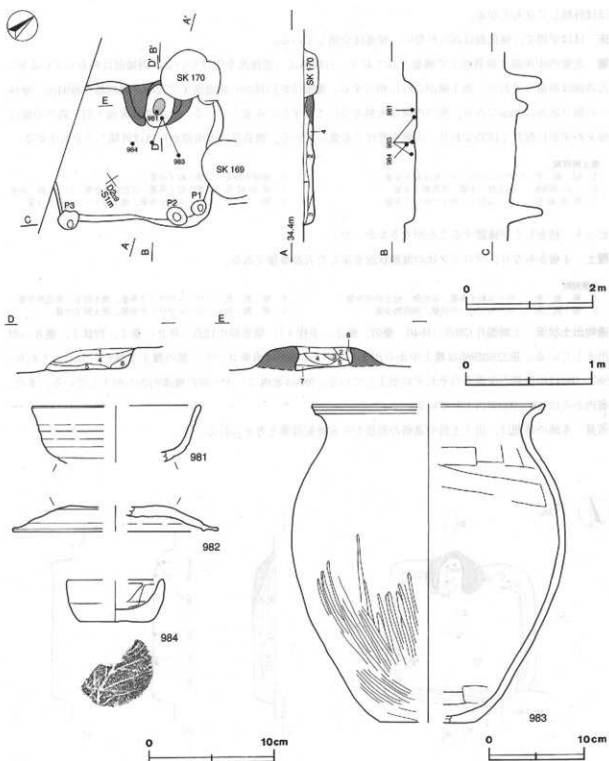
1 黒褐色	ローム粒子中量	3 暗褐色	ロームブロック多量
2 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	4 黒褐色	焼土粒子中量、炭化物少量

遺物出土状況 土師器片190点(坏32, 高台付坏2, 甕156), 須恵器片27点(坏12, 蓋5, 甕10)が出土している。第223図984は覆土中層から出土しており, 983は竈前方部の床面から出土している。また, 981は竈内から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土土器や遺構の形態から8世紀中葉と考えられる。

第109号住居跡出土遺物観察表 (第223図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
981	須恵器	坏	[13.4]	(24.5)	—	雲母・長石・石英	にぶい褐	普通	底部回転糸切り	竈内	10% 二次焼成
982	須恵器	蓋	[16.2]	(2.1)	—	雲母・長石・石英	褐灰	普通	天井部回転糸切り	覆土	20% 二次焼成
983	土師器	甕	[24.4]	33.7	[10.0]	雲母・長石・石英・赤色粒子	褐	普通	体部外面へう磨き、内面へう磨き、底部木葉痕	床面	20%
984	土師器	坏	[7.6]	3.4	5.6	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	体部内外面へう磨き、底部木葉痕	覆土中層	45%



第223図 第109号住居跡・出土遺物実測図

第110号住居跡 (第224・225図)

位置 調査I区中央部のD 2 b 9区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第8号溝に南東コーナー部を掘り込まれている。第169号土坑との重複関係は不明である。

規模と形状 長軸2.33m、短軸2.22mの方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は22~35cmで、各壁とも

ほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。壁溝は全周している。

竈 北壁の中央部に砂質粘土で構築されており、右袖部に一部攪乱を受けている。両袖部は残存しているが、天井部は崩落しており、第1層がこれに相当する。規模は焚口部から煙道部まで72cm、袖部最大幅94cm、壁外への掘り込みは20cmであり、袖の内壁は火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は床面と同じ高さの地山面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。煙道部は火床部からほぼ外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|----------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 2 濃い黄褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子少量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土ブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット 精査したが確認することができなかった。

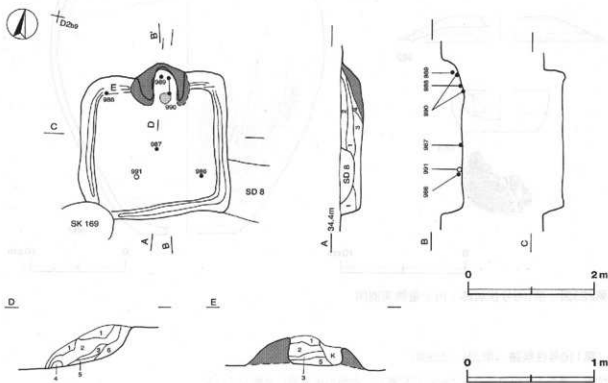
覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

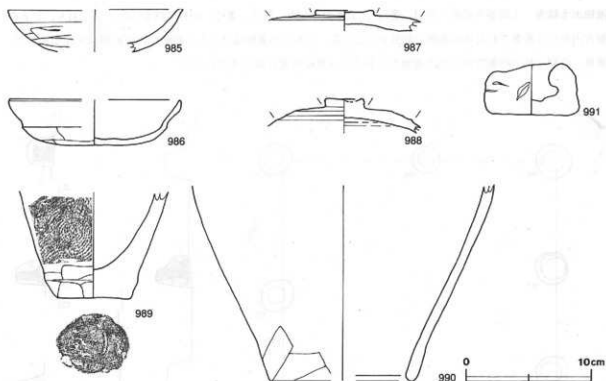
- | | | | |
|-------|--------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化物・粘土粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片139点(坏40, 甕97, 瓶1, 手捏1), 須恵器片12点(坏2, 蓋1, 捏鉢1, 甕8)が出土している。第225図985は覆土中から出土している。986は南東コーナー部の覆土下層から出土しており、987・991は中央部の床面からそれぞれ出土している。988は北西コーナー部の壁溝内から出土している。また、竈内からは989・990が出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器や遺構の形態から8世紀前葉と考えられる。



第224図 第110号住居跡実測図



第225図 第110号住居跡出土遺物実測図

第110号住居跡出土遺物観察表 (第225図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
985	土師器	坏	[3.8]	[3.9]	-	雲母	明赤褐色	普通	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ、輪轆み痕	覆土	20%
986	土師器	坏	[3.6]	3.8	-	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ	覆土下層	40%
987	須恵器	蓋	-	[1.7]	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	天井部回転へラ削り	床面	20%
988	須恵器	蓋	-	[2.8]	-	雲母・長石・石英	灰黄	普通	天井部回転へラ削り	壺溝内	50%
989	須恵器	椀鉢	-	[8.7]	5.7	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	胴部回転(内面のみ)、下底へラ削り、口縁へラ削り	壺内	35%
990	土師器	碗	-	[3.6]	[1.4]	雲母・長石・石英	灰黄褐色	普通	体部下縁へラ削り	壺内	25%
991	土師器	手捏	3.3	4.2	5.1	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	指ナデ、輪轆み痕、へラ具痕	床面	100% P.L63

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第226図)

位置 調査Ⅱ区中央部のE3 b6区に位置し、台地の東部に立地している。

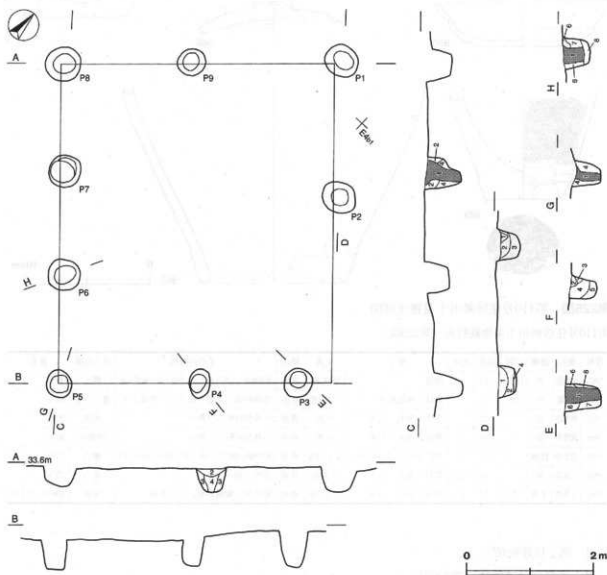
規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行方向N-45°-Wの南北棟である。規模は桁行5.12m、梁行4.36mであり、柱間寸法は桁行1.68m、梁行2.16mをそれぞれ基調としているが、桁行の西側柱穴列は3間、東側柱穴列は2間である。

柱穴 平面形は径43~57cmの円形、または長径36~50cm、短径32~49cmの楕円形を呈し、深さは28~60cmである。柱痕はP3・P5~P7から確認されており、第1層に相当する。掘方の土層はローム混じりの締まった土層である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 暗褐色	ローム粒子・炭化物微量	5 暗褐色	ローム粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量
4 褐色	ローム粒子中量	8 暗褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片85点（坏14，甕71），須恵器片5点（坏3，甕2）が柱穴内から出土しており，P6の掘方内からは墨書された坏の体部片が出土している。これらの遺物はほとんどが細片のため図示できなかった。
 所見 時期は柱穴の掘方内の出土遺物からおよそ9世紀後葉以降と考えられる。



第226図 第1号掘立柱建物跡実測図

第2号掘立柱建物跡（第227図）

位置 調査Ⅱ区中央部のD3j0区に位置し，台地の東部に立地している。

重複関係 第15号住居跡の南東コーナーを掘り込んでいる。

規模と構造 桁行2間，梁行1間の側柱式の建物跡で，桁行方向をN-40°-Eの南北棟である。規模は桁行2.46m，梁行2.46mあり，柱間寸法は桁行1.22m，梁行2.46mをそれぞれ基調とし，梁行，桁行ともほぼ同じ寸法で，正方形を呈している。

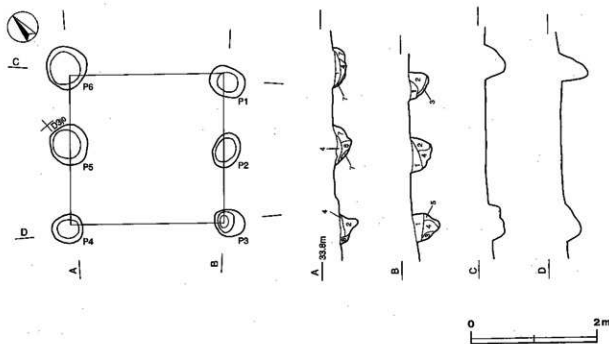
柱穴 平面形は径50~64cmの円形，または長径56~58cm，短径39~48cmの楕円形を呈し，深さは20~42cmである。柱痕，または抜き取り痕は確認できなかった。

土層解明 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|-----------|-------|----------------|
| 1 灰褐色 | ローム粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・地土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 8点(坏1, 壺7)が柱穴の掘方内から出土している。これらの遺物はほとんどが細片のため図示できなかった。

所見 時期は出土遺物が少なく時期は不明である。



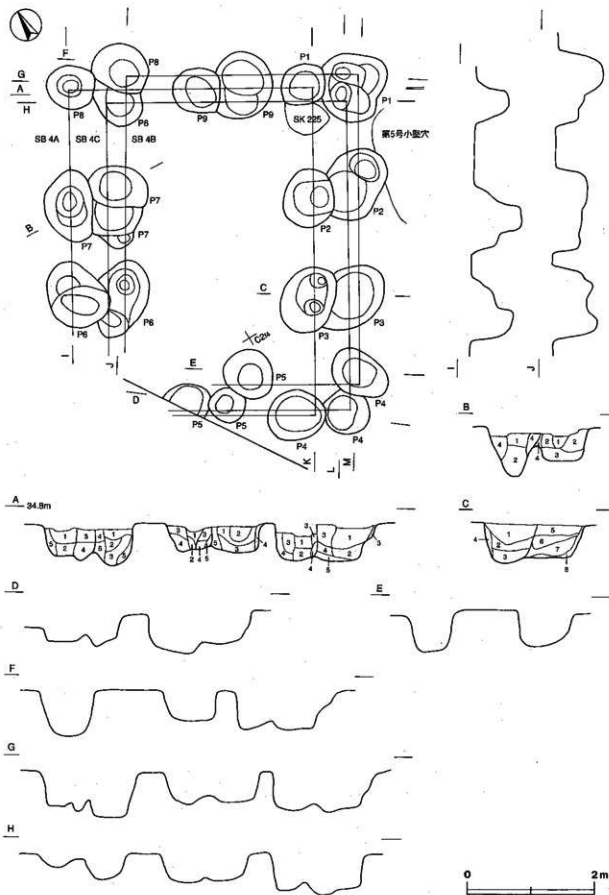
第227図 第2号掘立柱建物跡実測図

第4A・4B・4C号掘立柱建物跡 (第228・229図)

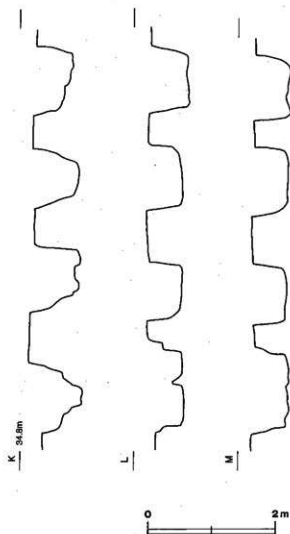
位置 調査I区中央部のC2e4区に位置し，台地の中央部に立地している。

重複関係 第4A号掘立柱建物跡が第4B号掘立柱建物跡を掘り込み，第4B号掘立柱建物跡が第4C号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，さらに第4B号掘立柱建物跡のP2は第5号小竪穴遺構に掘り込まれている。また，掘立柱建物跡の北西側は調査区域外に延びている。

規模と構造 第4A，4B，4C号掘立柱建物跡は，いずれも桁行3間，梁行2間の側柱式の建物跡で，桁行方向N-29°-Eとする南北棟である。第4A号掘立柱建物跡の規模は，桁行5.20m，梁行3.80mであり，柱間寸法は桁行1.76m，梁行1.90mをそれぞれ基調としている。第4B号掘立柱建物跡の規模は，桁行4.90m，梁行3.70mであり，柱間寸法は桁行1.63m，梁行1.85mをそれぞれ基調としている。さらに，第4C号掘立柱建物跡の規模は，桁行4.90m，梁行3.80mであり，柱間寸法は桁行1.63m，梁行1.93mをそれぞれ基調としており，三棟とも規模はほぼ同じである。



第228图 第4A·4B·4C号掘立柱建物跡実測図(1)



第229図 第4A・4B・4C号掘立柱建物跡実測図(2)

柱穴 第4A号掘立柱建物跡の平面形は径80~88cmの円形、または長径92~110cm、短径76~80cmの楕円形を呈し、深さは32~79cmである。柱穴抜き取り痕はP1, P7~P9の第1・2層が相当する。第4B号掘立柱建物跡の平面形は長径80~100cm、短径68~80cmの楕円形を呈し、深さは50~74cmである。柱痕、または抜き取り痕は確認できなかった。第4C号掘立柱建物跡の平面形は径80~88cmほどの円形を呈し、深さは41~72cmである。柱の抜き取り痕は、P1・P8の第1~3層が相当する。また、抜き取り痕の土層はいずれもロームが混入した土層である。

第4A号掘立柱建物跡(各柱穴共通) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

第4B号掘立柱建物跡(各柱穴共通) 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量
- 8 暗褐色 ロームブロック微量

第4C号掘立柱建物跡(各柱穴共通) 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片17点(坏1, 高台付坏1, 壺15), 須恵器片6点(坏3, 壺3)が柱穴内のいずれの掘方からも出土しているが、これらの遺物はほとんどが時期的に大差がなく、細片のため図示できなかった。所見 3棟の掘立柱建物跡が重複しており、柱穴の土層から掘立柱建物跡は3期に分けることができ、第1期が第4C号掘立柱建物跡、第2期が第4B号掘立柱建物跡、第3期が第4A号掘立柱建物跡である。これらの掘立柱建物跡は主軸方向、規模などがほぼ同じであることから3期にわたって建て替えられたものと推定され、出土遺物から時期は9世紀後半以降と考えられる。

第3号掘立柱建物跡(第230図)

位置 調査Ⅱ区中央部のE340区に位置し、台地の東部に立地している。

重複関係 第4号住居跡の北東側を掘り込み、第1号小堅穴遺構にP1~P3が掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の傾柱式の建物跡で、桁行方向N-45°-Wの南北棟である。規模は桁行2.36m、梁行2.24mあり、柱間寸法は桁行1.04~1.36m、梁行2.26mをそれぞれ基調とし、梁行、桁行ともほぼ同じ寸法で、正方形を呈している。

柱穴 平面形は径50~67cmの円形、または長径72cm、短径60cmの楕円形を呈し、深さは18~62cmである。柱痕、または抜き取り痕は確認できなかった。

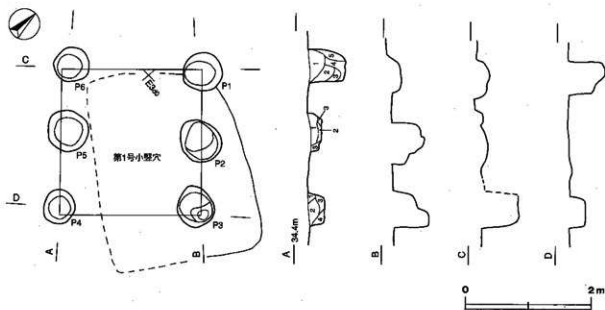
P4 土層解説	
1 褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子少量

P5 土層解説	
1 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量
3 褐色	ロームブロック微量

P6 土層解説	
1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック少量
4 褐色	ロームブロック微量
5 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片15点(坏4、甕11)が柱穴の掘方内から出土している。これらの遺物はほとんどが細片のため図示できなかった。

所見 時期は第1号小壁穴遺構に掘り込まれていることから10世紀以前と考えられる。



第230図 第3号掘立柱建物跡実測図

第5号掘立柱建物跡(第231図)

位置 調査I区中央部のC2cs区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第73号住居跡の西コーナー部を掘り込み、第74号住居跡にP2・P3、第220号土坑にP4・P5、第216号土坑にP8をそれぞれ掘り込まれている。

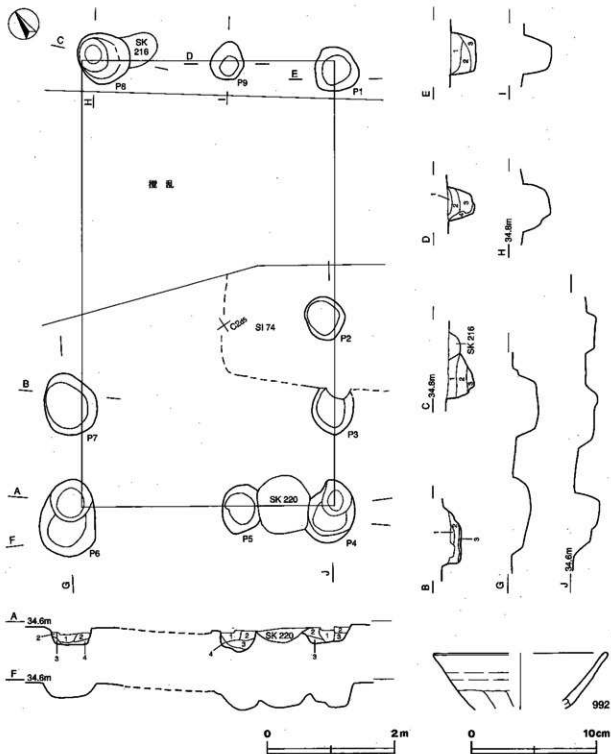
規模と構造 桁行4間、梁行2間の側柱式の建物跡で、桁行方向N-33°-Eの南北棟である。桁行は攪乱区域に延びるが、その北側には妻の柱穴列がある。柱穴は配列的に本跡の柱穴と並ぶもので、4間と考えられる。規模は桁行7.12mと推定され、梁行4.00mを測る。また、柱間寸法は桁行1.53m、梁行1.34mをそれぞれ基調としている。

柱穴 平面形は径60~73cmの円形、または長径68~120cmの楕円形を呈し、深さは16~42cmである。柱痕は確認できなかったが、P4とP6にロームが混入する抜き取り痕が確認された。

- P1 土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子少量
 2 暗褐色 ロームブロック少量
 3 褐色 ロームブロック微量

- P4 土層解説
 1 暗褐色 ロームブロック少量
 2 褐色 ローム粒子中量
 3 褐色 ロームブロック少量

- P5 土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子少量
 2 暗褐色 ローム粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量
 4 褐色 ローム粒子少量



第231図 第5号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

P6 土層解説	
1 褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック少量
3 褐色	ローム粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量

P8 土層解説	
1 褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子少量

P7 土層解説	
1 暗褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ローム粒子少量
3 褐色	ロームブロック微量

P9 土層解説	
1 暗褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子少量
4 褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片169点(坏33, 甕136), 須恵器片35点(坏22, 蓋1, 甕11, 瓶1)が柱穴内から出土している。第231図992はP9の掘方の覆土中から出土している。

所見 出土遺物が少ないため, 第73号住居跡と第74号住居跡との重複関係から時期はおよそ9世紀前葉から10世紀前葉の間と考えられる。

第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第231図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
992	須恵器	坏	[13.8]	(4.4)	-	黄母・長石・石英	灰黄	普通	体部下端手持ちへ張り	覆土	10%

(3) 土器焼成遺構

第1号土器焼成遺構(SX9)(第232~235図)

位置 調査I区中央部のC2a8区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第162号土坑の北側を掘り込んでいる。

規模と形状 全長2.69m, 最大幅1.64mの不整形円形で, 長軸方向N-124°-Wで, 壁はほぼ外傾して立ち上がる。

焚口部 長さ1.12m, 幅0.85~1.45m, 深さ29cmである。焚口部はほぼ平坦で火熱を受けわずかに赤変している。

焼成部 径1.57mの不整形円形で, 深さ50cmである。壁は火熱を受け赤変しており, 底面は鍋底状で10cmほど焼土が堆積し, その下層には炭化粒子を含む薄い層が堆積する。底面は火熱を受け, 厚さ2cmほどが赤変している。

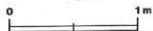
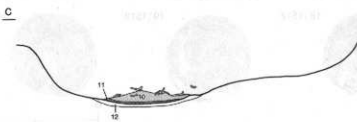
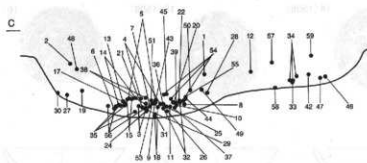
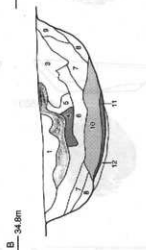
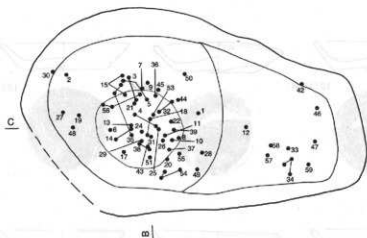
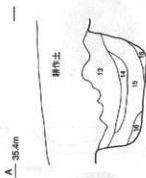
覆土 16層からなり, レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。また, 第2層に灰の層を検出している。

土層解説

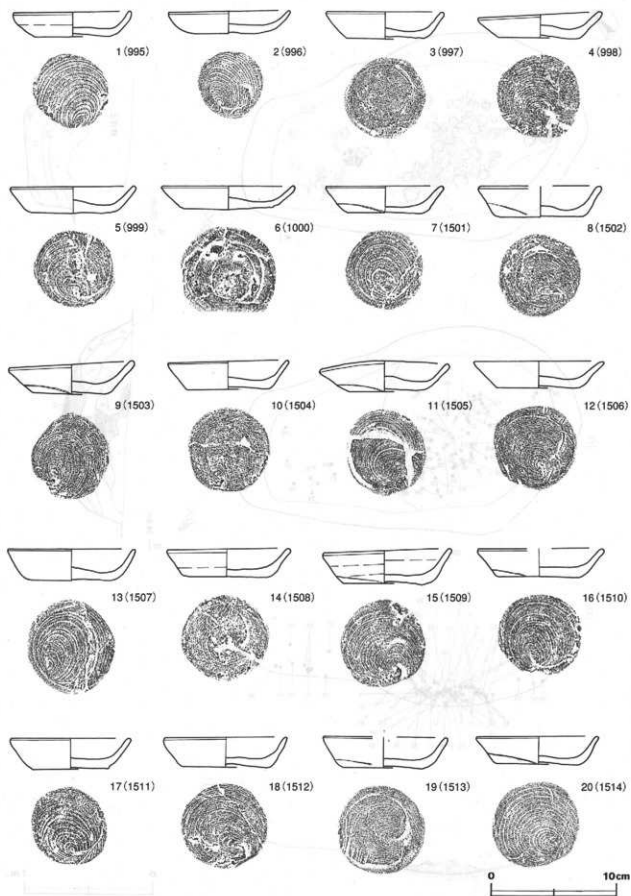
1 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量	9 暗褐色	ローム粒子, 焼土粒子少量
2 黒褐色	灰多量, 焼土粒子・炭化粒子中量	10 灰黄褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量
3 黒褐色	炭化粒子多量, 焼土粒子・灰少量	11 黒色	炭化粒子多量
4 黒褐色	炭化物多量, 焼土粒子微量	12 赤褐色	焼土ブロック多量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	13 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子多量, 焼土ブロック中量
6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	14 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量
7 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	15 黒褐色	焼土ブロック中量, 炭化物少量
8 赤褐色	焼土粒子多量	16 暗褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片503点(坏38, 高台付坏4, 高台付碗10, 小皿429, 甕22), 鉄製品1点(刀子)が出土している。遺物は, 第233~235図1~59(995~1553)の59点が出土しており, その大部分は焼成部の第10層内から出土している。焚口部からは小皿を中心に高台付坏が9点ほど覆土上層から下層にかけて出土している。

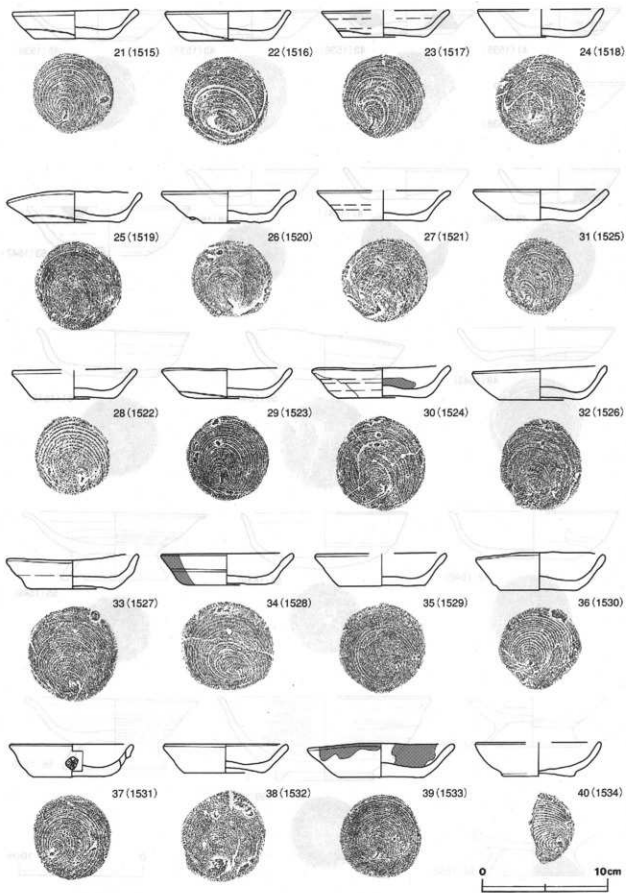
所見 出土土器は焼成部の焼土内から出土しており, 器種は土師器の小皿が主体を占め, わずかに坏・高台付坏・高台付碗が混ざる。出土遺物は焼成時にひび, 割れ, 黒斑が入ったものや歪んだものなどがそのまま遺棄された状態で出土している。これらの土器は焼成部底面の第10層上面から出土しており, その下面からの出土はなく, 底面の被熱による赤変の状態をみると短期間の操作と想定され, 時期は10世紀後葉と考えられる。



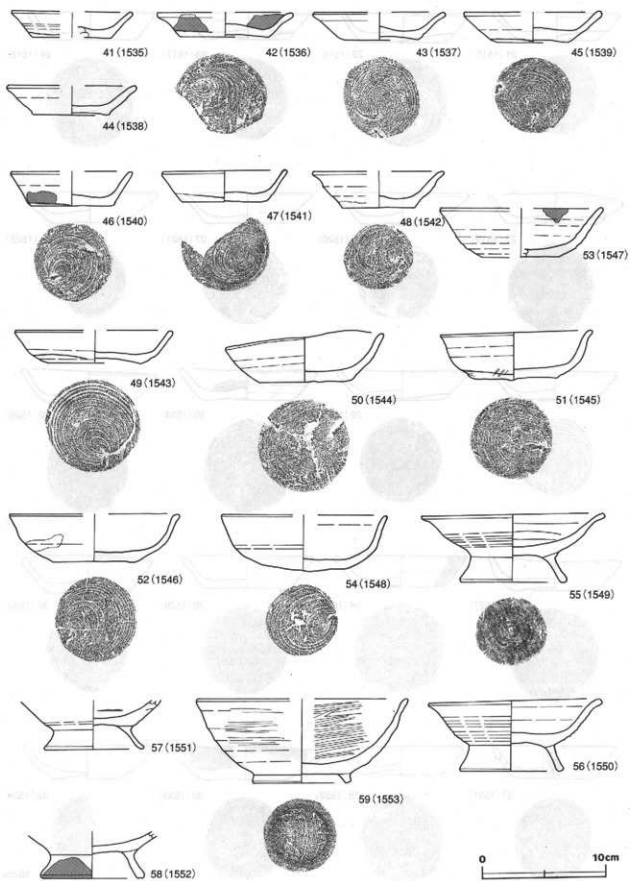
第232图 第1号土器烧成遺構実測図



第233图 第1号土器烧成遺構出土遺物実測図(1)



第234图 第1号土器烧成遺構出土遺物実測図(2)



第235图 第1号土器烧成遺構出土遺物実測図(3)

第1号土器焼成遺構出土遺物観察表 (第233~235図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1 (995)	土師器	小皿	9.3	2.0	6.0	長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	甌土中層	100% P L 53
2 (996)	土師器	小皿	9.8	1.8	5.4	長石・石英	灰黄褐色	普通	底部回転糸切り	甌土上層	100% 二次焼成 P L 53
3 (997)	土師器	小皿	9.2	2.2	6.5	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	底部回転糸切り	底面	95% P L 53
4 (998)	土師器	小皿	9.8	2.2	6.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	100% P L 53
5 (999)	土師器	小皿	9.8	2.2	6.6	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	60% P L 54
6 (1000)	土師器	小皿	10.4	2.0	7.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	底面	70% P L 54
7 (1501)	土師器	小皿	9.3	2.2	6.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	95% P L 54
8 (1502)	土師器	小皿 [9.5]	2.5	6.4	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	底面	60% P L 54	
9 (1503)	土師器	小皿	9.7	2.7	5.6	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	底面	95% P L 54
10 (1504)	土師器	小皿	9.4	2.3	6.4	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	底面	75% P L 54
11 (1505)	土師器	小皿	9.9	2.4	6.4	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	95% P L 54
12 (1506)	土師器	小皿	10.2	2.2	6.5	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	甌土中層	70% P L 54
13 (1507)	土師器	小皿	10.0	2.5	6.5	雲母・長石・石英・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	底面	90% P L 54
14 (1508)	土師器	小皿	9.8	2.3	6.8	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	底面	90% P L 54
15 (1509)	土師器	小皿	10.0	2.8	6.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	90% P L 54
16 (1510)	土師器	小皿 [9.8]	2.2	6.4	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	底面	55% P L 54	
17 (1511)	土師器	小皿	9.2	2.5	6.1	雲母・長石・石英・赤色粒子	浅黄褐色	普通	底部回転糸切り	底面	75% P L 54
18 (1512)	土師器	小皿	9.7	2.5	7.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	90% P L 55
19 (1513)	土師器	小皿 [9.7]	2.5	6.5	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	甌土中層	75% P L 55	
20 (1514)	土師器	小皿	9.6	2.4	6.7	雲母・長石・石英	橙	不良	底部回転糸切り	底面	80% P L 55
21 (1515)	土師器	小皿	9.6	2.4	6.2	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	底面	60% P L 55
22 (1516)	土師器	小皿	9.6	2.4	6.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	70% P L 55
23 (1517)	土師器	小皿 [10.1]	2.2	6.4	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	75% P L 55	
24 (1518)	土師器	小皿 [9.9]	2.3	7.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	底面	75% P L 55	
25 (1519)	土師器	小皿	10.4	2.6	7.2	雲母・長石・石英	にぶい橙	不良	底部回転糸切り	底面	100% P L 55
26 (1520)	土師器	小皿	10.3	2.6	6.1	雲母・長石・石英・赤色粒子	浅黄褐色	普通	底部回転糸切り	底面	60% P L 55
27 (1521)	土師器	小皿 [10.5]	2.4	6.7	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	甌土下層	70% P L 55	
28 (1522)	土師器	小皿 [9.8]	2.3	6.4	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	底面	70% P L 55	
29 (1523)	土師器	小皿	10.0	2.4	6.6	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	底面	80% P L 56
30 (1524)	土師器	小皿	10.8	2.5	7.2	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	不良	底部回転糸切り, 黒塵	甌土下層	100% P L 56
31 (1525)	土師器	小皿	10.4	2.5	5.5	雲母・長石・石英・針状鉱物	橙	普通	底部回転糸切り	底面	60% P L 56
32 (1526)	土師器	小皿	10.5	2.7	6.4	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	底面	85% P L 56
33 (1527)	土師器	小皿	10.3	2.8	6.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	甌土下層	85% P L 56

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
34 (1528)	土師器	小皿	10.3	2.5	7.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り、黒斑	覆土下層	55% P L56
35 (1529)	土師器	小皿	[10.3]	2.6	6.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り	底面	55% P L56
36 (1530)	土師器	小皿	10.1	3.0	6.1	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	不良	底部回転糸切り	底面	90% P L56
37 (1531)	土師器	小皿	9.4	2.7	5.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	灰黄	不良	底部回転糸切り、体部に外面からの穿孔	底面	100% P L56
38 (1532)	土師器	小皿	9.8	2.3	6.4	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	不良	底部回転糸切り	底面	60% P L56
39 (1533)	土師器	小皿	11.5	2.7	6.6	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り、黒斑	底面	100% P L56
40 (1534)	土師器	小皿	[9.8]	2.7	[5.6]	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	30%
41 (1535)	土師器	小皿	[9.8]	2.1	[6.4]	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	不良	底部回転糸切り	底面	35%
42 (1536)	土師器	小皿	[11.0]	2.0	7.2	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り、黒斑	覆土中層	40%
43 (1537)	土師器	小皿	[10.5]	2.2	6.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部回転糸切り	底面	60%
44 (1538)	土師器	小皿	[10.1]	2.4	[6.4]	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り	底面	30%
45 (1539)	土師器	小皿	[11.0]	2.5	6.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	不良	底部回転糸切り	底面	60%
46 (1540)	土師器	小皿	[9.8]	2.9	6.5	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り、黒斑	覆土下層	60%
47 (1541)	土師器	小皿	10.1	2.7	6.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り	覆土下層	50%
48 (1542)	土師器	小皿	[10.5]	3.0	6.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	明赤褐	不良	底部回転糸切り	覆土上層	50%
49 (1543)	土師器	坏	[12.6]	2.7	7.5	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	60% P L53
50 (1544)	土師器	坏	12.8	3.9	7.4	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	90% P L53
51 (1545)	土師器	坏	12.2	4.1	7.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	底面	70% P L53
52 (1546)	土師器	坏	[13.5]	3.8	6.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り	底面	45% 焼成 P L53
53 (1547)	土師器	坏	[13.2]	4.0	[6.2]	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り、内面黒斑	底面	20% 二次焼成
54 (1548)	土師器	坏	[13.4]	4.5	7.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	底部回転糸切り	底面	60% P L53
55 (1549)	土師器	高台付坏	14.8	5.5	8.6	雲母・長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	口ロナテ後内面指ナテ	底面	90% P L57
56 (1550)	土師器	高台付坏	14.0	5.8	8.2	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口ロナテ	底面	60% P L57
57 (1551)	土師器	高台付坏	-	(4.0)	7.8	雲母・長石・石英・赤色粒子	黒褐	不良	口ロナテ	覆土上層	50%
58 (1552)	土師器	高台付坏	-	(3.8)	8.0	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口ロナテ、高台部黒斑	覆土下層	30%
59 (1553)	土師器	高台付坏	[17.0]	6.8	7.8	雲母・長石・石英	にぶい	普通	体部外面ヘラ磨き、内面ヘラ磨き、底部糸切り後高台貼り付け	覆土上層	30% 二次焼成

第2号土器焼成遺構 (SK156) (第236・237図)

位置 調査I区中央部のC3h1区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第97号住居跡の北コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.85m、短軸1.41mの楕円形で、長軸方向はN-73°-Eである。壁高は8cmで、緩やかに外傾して立ち上がる。底面は皿状を呈する。

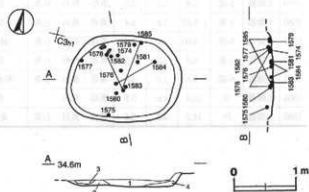
覆土 4層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

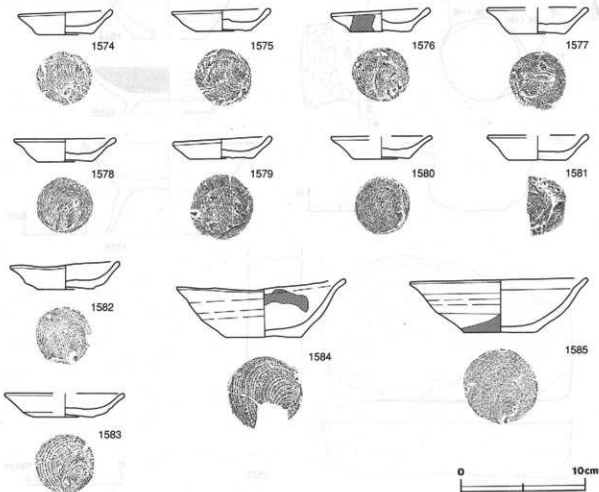
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|---------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 3 根暗褐色 | 炭化粒子中量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片182点(坏56、高台付坏3、小皿104、寛19)が出土している。第237図1574~1585はほとんどが底面から出土し、特に中央部から集中して出土している。

所見 覆土と底面には炭化粒子を含む層が堆積し、出土土器も黒斑、焼成時の割れ等が見られる。また、底面はあまり被熱していないことから、採集期間については短期間と推定される。本跡の時期は、小皿を主体にしていることから11世紀前葉以降と考えられる。



第236図 第2号土器焼成遺構実測図



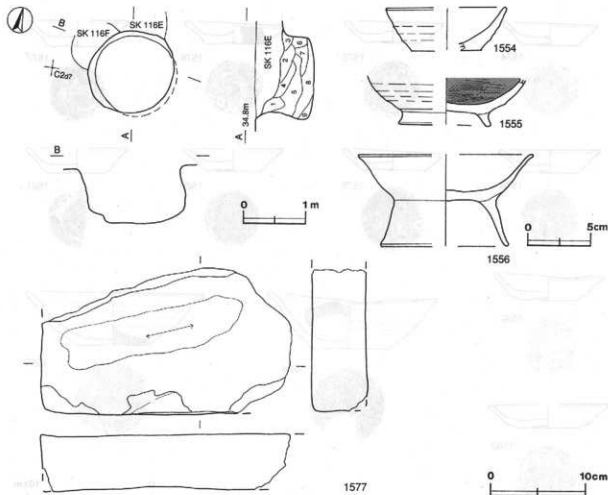
第237図 第2号土器焼成遺構出土遺物実測図

第2号土器焼成遺構出土遺物観察表(第237図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1574	土師器	小皿	7.4	1.9	4.4	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	底面	90% P L 56
1575	土師器	小皿	7.4	1.8	4.4	雲母・長石・石英	にぶい橙	不良	底部回転糸切り	覆土中層	70% P L 57
1576	土師器	小皿	7.8	1.8	4.8	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	不良	底部回転糸切り, 黒斑	底面	90% P L 57
1577	土師器	小皿	[8.0]	2.1	4.4	雲母・長石・石英	にぶい黄橙	不良	底部回転糸切り	覆土下層	50%
1578	土師器	小皿	8.0	1.8	4.4	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	底面	70% P L 57
1579	土師器	小皿	7.8	1.7	2.5	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	底面	80% P L 57
1580	土師器	小皿	[8.0]	1.8	4.4	雲母・長石・石英	橙	不良	底部回転糸切り	覆土下層	50%
1581	土師器	小皿	[8.0]	2.0	4.6	雲母・長石・石英	褐色	不良	底部回転糸切り	底面	40%
1582	土師器	小皿	8.8	2.2	4.5	雲母・長石・石英	橙	普通	底部回転糸切り	底面	100% P L 57
1583	土師器	小皿	[9.4]	1.9	4.6	雲母・長石・石英	明赤褐	普通	底部回転糸切り	底面	60% P L 57
1584	土師器	坏	13.4	4.6	5.9	雲母・長石	橙	不良	底部回転糸切り, 黒斑	底面	65% P L 57
1585	土師器	坏	14.2	4.3	5.8	雲母・長石・石英	黄橙	不良	底部回転糸切り, 黒斑	底面	80% P L 57

(4) 土墳墓

第1号土墳墓 (SK 85) (第238図)



第238図 第1号土墳墓・出土遺物実測図

位置 調査Ⅰ区中央部のC2 a7区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第116E・116F号土坑に北側を掘り込まれている。

規模と形状 径1.38mほどの円形で、深さは91cmである。底面は平坦で、壁はほぼ袋状に立ち上がる。

覆土 9層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量	6 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
2 暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量	7 褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
4 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量
5 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量		

遺物出土状況 土師器片99点(坏62, 高台付碗5, 甕32), 埴1点, 人骨が出土している。第238図1554~1556は覆土中, 1557は東側壁際の覆土下層から出土しており, 骨片と骨粉は底面中央部から出土している。

所見 出土土器から時期は10世紀前葉と考えられる。

第1号土坑墓出土遺物観察表(第238図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1554	土師器	坏	[9.4]	3.4	[5.4]	雲母	橙	普通	底部回転糸切り	覆土	10% 二次焼成
1555	土師器	高台付碗	-	(3.8)	[7.1]	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面へう磨き, 底部糸切り段高台貼り付け	覆土	30% 二次焼成
1556	土師器	足高台付甕	[13.8]	7.4	[10.0]	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ, 高台貼り付け	覆土	50% P.L59

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1557	埴	(26.1)	(15.1)	5.8	(3060)	土製	ナデ	覆土下層	P.L66

第2号土坑墓(SK92)(第239・240図)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2 a7区に位置し、台地の中央部に立地している。

規模と形状 長軸1.52m, 短軸1.32mの不整楕円形で、長軸方向はN-44°-Eである。壁高は58cmで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がり、底面は平坦である。

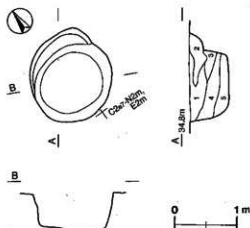
覆土 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

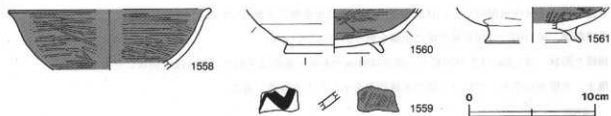
1 暗褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片6点(坏1, 高台付碗4, 甕1)が出土している。第240図1558~1561はすべて覆土中から出土しており, 1559は体部に墨書されているが, 文字は不明である。骨粉は底面中央部から出土している。

所見 出土土器及び第1号土坑墓との位置関係から本跡の時期は10世紀前葉と考えられる。



第239図 第2号土坑墓実測図



第240図 第2号土墳墓出土遺物実測図

第2号土墳墓出土遺物観察表(第240図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1558	土師器	高台付鉢	[15.8]	(4.9)	—	雲母・炭石・石英・赤色粒子	にぶい緑	普通	体部外面へラ磨き, 内面へラ磨き	覆土	15%
1559	土師器	坏	—	(1.5)	—	雲母	にぶい緑	普通	内面へラ磨き	覆土	5% 黒書
1560	土師器	高台付鉢	—	(3.6)	[7.6]	雲母・長石・石英	にぶい緑	普通	体部外面下位縁部へラ磨り, 内面へラ磨き, 足部縁部へラ磨り高台貼り付け	覆土	30%
1561	土師器	高台付鉢	—	(2.9)	[7.4]	雲母・長石・石英	にぶい緑	普通	体部外面下位へラ磨り, 内面へラ磨き, 高台貼り付け	覆土	15%

(5) 小竪穴遺構

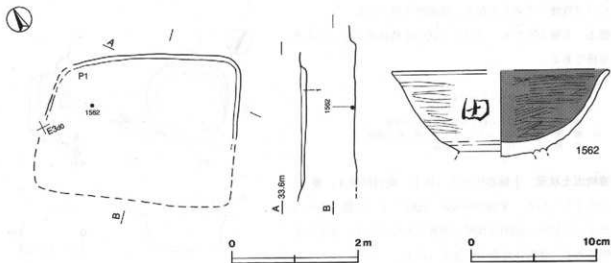
第1号小竪穴遺構(SK1)(第241図)

位置 調査Ⅱ区中央部のE3a0区に位置し, 台地の東部に立地している。

重複関係 第3号掘立柱建物跡のP1~P3, 第4号住居跡の北東壁, 第5号住居跡の北壁を掘り込んでいる。
規模と形状 長軸3.02m, 短軸2.47mほどの長方形と推定され, 長軸方向はN-62°-Wである。壁高は9cmで, 壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 硬化面はみられない。

ピット 精査したが, 確認できなかった。



第241図 第1号小竪穴遺構・出土遺物実測図

覆土 単一層であるため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片14点(坏2, 高台付坏1, 甕11)が出土している。第241図1562は北コーナー付近の覆土下層から正位の状態で出土しており、「田」と墨書されている。

所見 出土土器及び重複関係から時期は10世紀代と考えられる。

第1号小竪穴遺構出土遺物観察表(第241図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1562	土師器	高台付碗	[17.2]	(6.8)	—	黄母・長石・石英・赤色粒子	にぶい曜	普通	体部外面へラ磨き、内面へラ磨き、底部余切り後高台貼り付け	覆土下層	50%墨書「田」

第2号小竪穴遺構(SK27)(第242図)

位置 調査Ⅱ区中央部のE4e1区に位置し、台地の東部に立地している。

重複関係 第5号住居跡の東コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.67m、短軸2.04mの長方形で、長軸方向はN-53°-Wである。壁高は8cmで、各壁ともほぼ緩やかに外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

ピット 精査したが、確認できなかった。

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

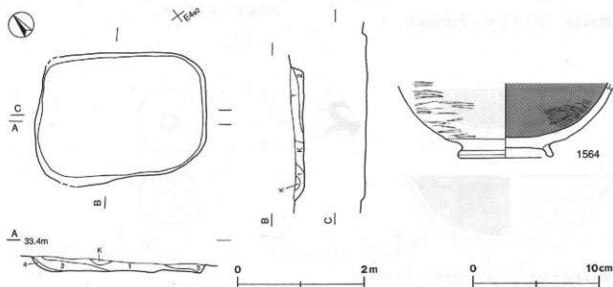
2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量

3 褐色 ローム粒子少量

4 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土師器片39点(坏10, 高台付碗2, 甕27)が出土している。第242図1564は覆土中から出土している。

所見 出土土器及び遺構の形態から、本跡の時期は10世紀代と考えられる。



第242図 第2号小竪穴遺構・出土遺物実測図

第2号小竪穴遺構出土遺物観察表 (第242図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1564	土師器	高台付椀	-	(6.0)	7.2	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ磨き、内面へラ磨き。底面糸切り後高台貼り付け	覆土	50%

第3号小竪穴遺構 (SK197) (第243・244図)

位置 調査1区中央部のC2f8区に位置し、台地の中央部に立地している。

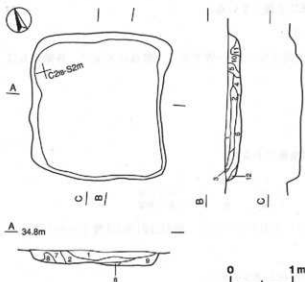
重複関係 第85A号住居跡の北コーナー付近を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.40m、短軸2.08mの長方形で、長軸方向はN-18°-Eである。壁高は19cmで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

ピット 精査したが、確認できなかった。

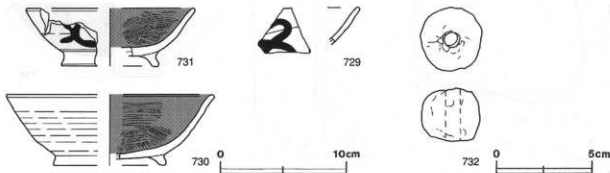
覆土 12層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。



第243図 第3号小竪穴遺構実測図

土層解説		
1	褐色	ロームブロック少量
2	褐色	ローム粒子少量
3	灰褐色	ローム粒子少量
4	灰褐色	ローム粒子中量
5	褐色	ロームブロック中量
6	褐色	ローム粒子中量、ロームブロック少量
7	褐色	ローム粒子微量
8	褐色	ローム粒子中量
9	褐色	ローム粒子少量、ロームブロック微量
10	褐色	ロームブロック中量
11	褐色	ローム粒子多量
12	褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片91点(坏10, 高台付椀3, 甕78), 土製品1点(球状土錘)が出土している。第244図729~732は覆土中から出土し, 729・731には「日」¹⁾と墨書されている。所見 出土土器及び遺構の形態から本跡の時期は10世紀代と考えられる。



第244図 第3号小竪穴遺構出土遺物実測図

第3号小竪穴遺構出土物観察表 (第244図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
729	土師器	坏	—	(3.1)	—	雲母・石英	橙	普通	ロクロナデ	覆土	5% 墨書「社」
730	土師器	高台付椀	[16.4]	5.7	[9.0]	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面下位回転ヘラ削り、内面ヘラ削き、底部糸切り後高台貼り付け	覆土	40%
731	土師器	高台付椀	[13.4]	4.7	[7.6]	雲母・長石・黒色粒子	橙	普通	体部外面下位回転ヘラ削り、内面ヘラ削き、底部高台貼り付け	覆土	25% 墨書「出」 P.L.57

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
732	球状土鉢	3.4	3.2	0.8	25.4	土製	ナデ	覆土	

第4号小竪穴遺構 (SK198) (第245図)

位置 調査I区中央部のC2h6区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第85A住居跡の西壁、第85B・85D号住居跡の南壁、第87号住居跡の東壁を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.21m、短軸1.64mほど確認され、平面形は長方形と推定され、長軸方向はN-81°-Wである。壁高は50cmほどで、壁はほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面はみられない。

ピット 精査したが、確認できなかった。

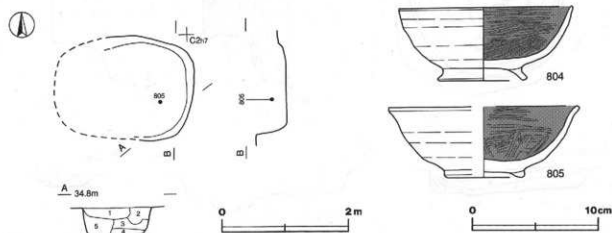
覆土 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量	4	暗褐色	炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量	5	暗褐色	ローム粒子・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量			

遺物出土状況 土師器片9点(高台付椀3、甕6)が出土している。第245図804は覆土中、805は中央部東側の覆土中層から出土している。

所見 出土土器及び重複関係から本跡の時期は10世紀前葉以降と考えられる。



第245図 第4号小竪穴遺構・出土遺物実測図

第4号小竪穴遺構出土遺物観察表 (第245図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
804	土師器	高台付碗	13.8	5.9	6.6	雲母・長石	にぶい黄褐色	普通	内面へう磨き, 底部高台貼り付け	覆土	P L.59
805	土師器	高台付碗	[15.0]	6.8	[5.8]	雲母・長石	にぶい黄褐色	普通	内面へう磨き, 底部回転糸切り縁高台貼り付け	覆土中層	40%

第5号小竪穴遺構 (SK194) (第246・247図)

位置 調査I区中央部のC2es区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第82C号住居跡の北壁, 第96号土坑の東部, 第97号土坑の北部, 第4B号掘立柱建物跡P2の東側をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.40m, 短軸2.55mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-7°-Wである。壁高は30~35cmで, 各壁ともほぼ外傾して立ち上がるが, 南壁には厚さ40~50cm, 高さ16cmの周堤帯を馬蹄形状に巡らしている。

床 ほぼ平坦で, 硬化面はみられない。

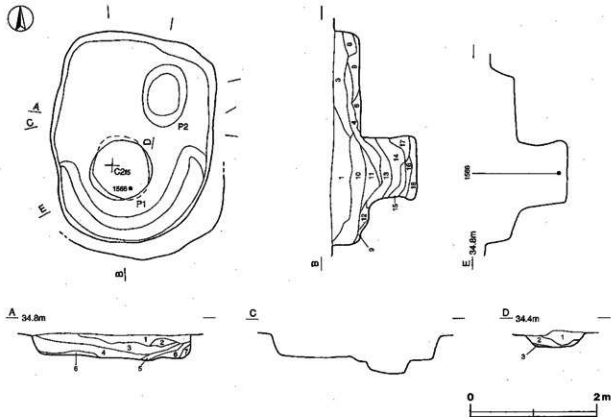
ピット 2か所。P1は径95cmの円形で深さ77cm, P2は長径100cm, 短径68cmの楕円形で深さ20cmである。

P1・P2ともに性格は不明である。

P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
 2 暗褐色 炭化粒子多量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量
 3 褐色 ローム粒子中量

覆土 18層からなり, レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



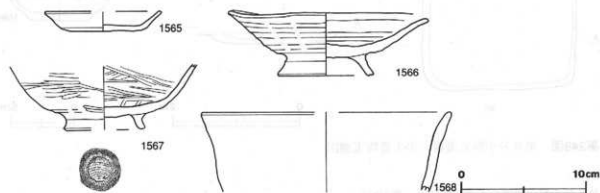
第246図 第5号小竪穴遺構実測図

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	11	暗褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	12	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
5	黒褐色	炭化物多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	15	極暗褐色	焼土粒子中量、炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	16	黒褐色	炭化粒子多量、灰中量、焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	17	褐色	ローム粒子多量
8	暗褐色	ロームブロック多量	18	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
9	暗褐色	ロームブロック多量			
10	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量			

遺物出土状況 土師器片192点(杯52, 高台付椀17, 鉢1, 甕122), 鉄滓1点が出土している。第247図1565・1567・1568はいずれも覆土中から出土し, 1566はP1の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は出土土器や重複関係から10世紀後葉と考えられる。



第247図 第5号小竪穴遺構出土遺物実測図

第5号小竪穴遺構出土遺物観察表(第247図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1565	土師器	小皿	[9.2]	1.6	[5.0]	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	不良	底部回転糸切り	覆土	5%
1566	土師器	高台付椀	16.0	5.3	7.5	雲母・長石・石英・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ	覆土下層	100% P.L.59
1567	土師器	高台付椀	-	(5.3)	[6.0]	雲母・長石・石英	にぶい橙	普通	体部内外面ヘタ磨き, 底部糸切り後高台貼り付け	覆土	50% 二次焼成
1568	土師器	鉢	[20.0]	(6.5)	-	雲母・長石・赤色粒子	橙	普通	体部内外面ナデ	覆土	5%

第6号小竪穴遺構(SK195)(第248図)

位置 調査I区中央部のC2g0区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第94号住居跡の北西壁, 第96号住居跡の中央部付近, 第173号土坑の西側, 第174号土坑上面をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.46m, 短軸1.95mの長方形で, 長軸方向はN-80°-Wである。壁高は20cmで, 各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 硬化面はみられない。

ビット 精査したが, 確認できなかった。

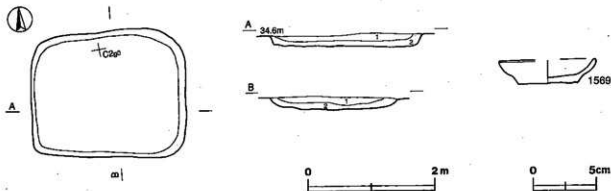
覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化物微量 2 黒褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片184点(坏49, 高台付坏4, 小皿1, 壺130)が出土している。第248図1569は覆土中から出土しており、その他の土器片はいずれも細片であった。

所見 本跡の時期はおよそ10世紀代以降と考えられる。



第248図 第6号小堅穴遺構・出土遺物実測図

第6号小堅穴遺構出土遺物観察表 (第248図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
1569	土師器	小皿	[7.7]	1.9	[4.6]	雲母・長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	底部回転糸切り	覆土	40%

(6) 土坑

第32号土坑 (第249図)

位置 調査Ⅱ区北部のD319区に位置し、舌状台地縁辺部の緩やかな斜面に立地している。

重複関係 第15号住居跡の南東部を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は径1.20mの円形で、深さ13cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

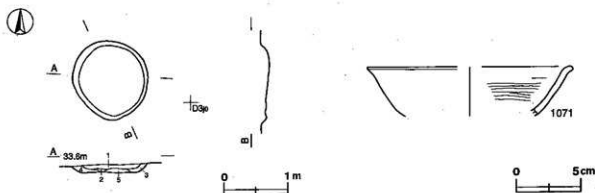
覆土 5層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし、ロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 4 暗褐色 ローム中ブロック微量
2 暗褐色 ローム小ブロック微量 5 褐色 ローム大ブロック少量
3 暗褐色 ローム中ブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片44点(坏11, 壺33), 須恵器片3点(坏2, 高台付坏1)が出土している。第249図1071は覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第249図 第32号土坑・出土遺物実測図

第32号土坑出土遺物観察表 (第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1071	土師器	坏	[15.6]	(4.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ、体部内面ヘラ磨き	覆土	10%

第40号土坑 (第250図)

位置 調査Ⅱ区中央部のE4c2区に位置し、舌状台地縁辺部の緩やかな斜面に立地している。

重複関係 第8号住居跡の中央部を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は径1.19mの円形で、深さ44cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

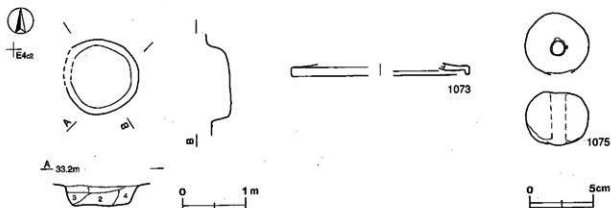
覆土 4層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし、ロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭土小ブロック・炭化物微量 3 暗褐色 ローム中ブロック少量
 2 暗褐色 ローム大ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量 4 暗褐色 ローム大ブロック少量

遺物出土状況 土師器片30点(坏5、高台付坏1、甕24)、須恵器片2点(蓋)、土製品(球状土錘)が出土している。第250図1073・1075はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第250図 第40号土坑・出土遺物実測図

第40号土坑出土遺物観察表 (第250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1073	須恵器	蓋	[11.8]	(0.9)	-	長石・雲母	暗青灰	普通	ロクロナデ	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1075	球状土師	2.77	3.33	0.92	(27.6)	土師	ナデ	覆土	

第46号土坑 (第251図)

位置 調査Ⅰ区北西部のA115区に位置し、台地の西部に立地している。

重複関係 第17号住居跡の北部を掘り込み、北西部は調査区域外に延びる。

規模と形状 長径1.14m、短径0.80mほどが確認され、平面形は楕円形と推定される。深さ23cmで、長径方向はN-27-Eである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

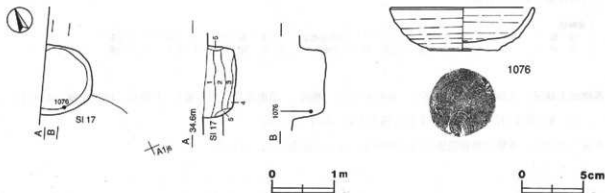
覆土 5層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし、第1～3層がほぼ均等に堆積していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片30点(坏14, 甕16), 須恵器片3点(壺3)が出土している。第251図1076は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土遺物から10世紀中葉と考えられる。



第251図 第46号土坑・出土遺物実測図

第46号土坑出土遺物観察表 (第251図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1076	土師器	坏	11.4	3.5	5.8	長石・雲母・赤色粒子	にない黄粉	普通	ロクロナデ、底部回転成形	覆土中層	75% P.L.50

第58号土坑 (第252図)

位置 調査Ⅰ区北西部のB119区に位置し、台地の西部に立地している。

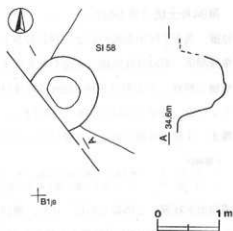
重複関係 第57号住居跡の南部を掘り込み、第58号住居跡に東部を掘り込まれ、西側半分は調査区域外に延びる。

規模と形状 長径1.16m、短径0.89mほどが確認され、平面形は楕円形と推定される。深さ73cmで、長径方向は不明である。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 第58号住居跡に掘り込まれていることから、覆土の最下層部のみが確認されている。ローム粒子を含む褐色土で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は遺構の重複関係から8世紀中葉以前と考えられる。



第252図 第58号土坑実測図

第88号土坑（第253図）

位置 調査I区中央部のC2・7区に位置し、台地の中央部に立地している。

規模と形状 平面形は径0.75mの円形で、深さ12cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

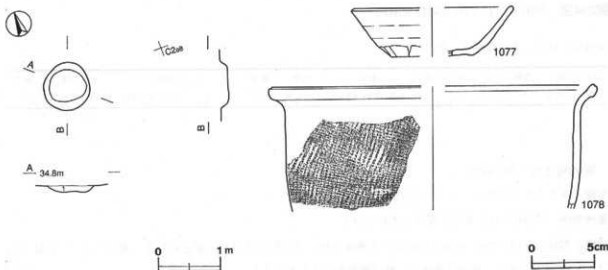
覆土 単一層で、ロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

I 略褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片28点（坏5、高台付坏4、甕19）、須惠器片4点（坏2、鉢2）、土製品2点（不明土製品）が覆土中から出土している。第253図1077・1078はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第253図 第88号土坑・出土遺物実測図

第88号土坑出土遺物観察表（第253図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1077	須惠器	坏	[12.5]	(3.9)	[6.4]	雲母	灰黄	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り	覆土	15%
1078	須惠器	鉢	[26.3]	(10.0)	-	石英・雲母	灰黄	普通	体部外面縦格子目叩き	覆土	5%

第94号土坑 (第254図)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2d6区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第81号住居跡に東部を掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径1.32m、短径1.00mの楕円形で、深さ49cmである。底面は凹凸で、壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-50°-Wである。

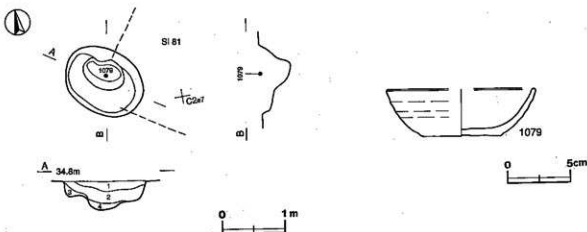
覆土 4層に分層される。下層にロームブロックを多量に含む人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|---------------------|---|----|------------|
| 1 | 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 3 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 | 褐色 | ローム大ブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片34点(坏15, 甕19), 須恵器片4点(坏2, 甕2), 土製品1点(支脚)が出土している。第254図1079は中央部覆土上層から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土遺物から10世紀前葉以前と考えられる。



第254図 第94号土坑・出土遺物実測図

第94号土坑出土遺物観察表 (第254図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1079	土師器	坏	[11.6]	3.8	[6.4]	石灰・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土上層	15%

第98号土坑 (第255図)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2e7区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第99号土坑に東部を掘り込まれている。

規模と形状 長径0.93m、短径0.73mほどが確認され、平面形は楕円形と推定される。深さ27cmで、長径方向はN-37°-Eである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。

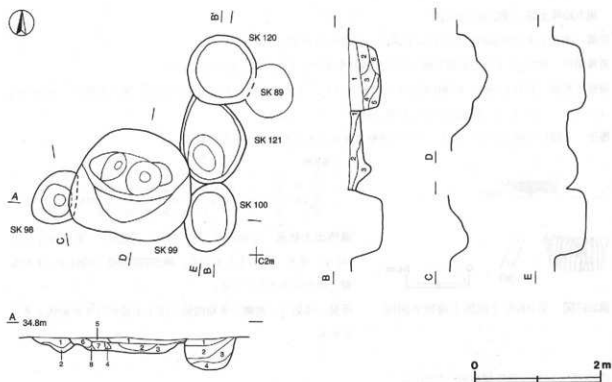
覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|----|---------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片8点(坏3, 甕5), 須恵器片1点(甕)が覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第255図 第98～100・120・121号土坑実測図

第99号土坑（第255・256図）

位置 調査I区中央部のC2e7区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第98号土坑の東部，第100号土坑の西部，第121号土坑の南部をそれぞれ掘り込んでいる。

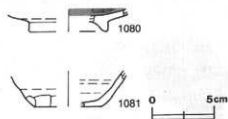
規模と形状 平面形は長径1.97m，短径1.72mの楕円形で，深さ52cmである。底面には凹凸があり，壁は緩やかに立ち上がる。長径方向はN-84°-Wである。

覆土 8層に分層される。暗褐色土を基調とし，ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説			
1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化物微量	6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ローム粒子少量	8 褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片91点（坏25，高台付坏2，甕64），須恵器片16点（坏4，甕12），灰軸陶器片1点（瓶または壺）が出土している。第256図1080・1081はいずれも覆土中から出土している。また，出土した灰軸陶器は猿投窯産（黒笹14号または90号窯式）のものである。

所見 時期は，遺構の重複関係と出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第256図 第99号土坑出土遺物実測図

第99号土坑出土遺物観察表（第256図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1080	土師器	高台付坏	—	(1.8)	[6.2]	雲母・赤色粒子	明赤靨	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土	5%
1081	須恵器	坏	—	(2.9)	[5.5]	石英・雲母	灰黄	普通	体部外面下縁手持ちヘラ削り	覆土	5%

第100号土坑（第255・257図）

位置 調査1区中央部のC2e7区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第121号土坑の南部を掘り込み、西部を第99号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.13m、短径0.87mほどが確認され、平面形は楕円形と推定される。深さ52cmで、長径方向はN-18°-Eである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。



第257図 第100号土坑出土遺物実測図

土層解説

- | | | |
|---|-----|---------------------|
| 1 | 褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片26点（坏5、甕21）、須恵器片10点（坏4、甕6）が出土している。第257図1082・1083はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土土器から9世紀代と考えられる。

第100号土坑出土遺物観察表（第257図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1082	土師器	坏	-	(1.4)	[6.6]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ、内面ヘラ磨き	覆土	5%
1083	須恵器	甕	-	(2.6)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面縦方向の平行叩き	覆土	5%

第120号土坑（第255・258図）

位置 調査1区中央部のC2e7区に位置し、台地の中央部に立地している。

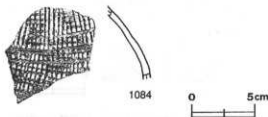
重複関係 第121号土坑の北部を掘り込んでいる。第89号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は径1.09mの円形で、深さ49cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 6層に分層される。暗褐色土を基調とし、ロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------|---|-----|--------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 6 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |



第258図 第120号土坑出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片50点（坏22、高台付坏3、甕25）、須恵器片19点（坏6、甕13）が出土している。第258図1084は覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土土器から9世紀代と考えられる。

第120号土坑出土遺物観察表（第258図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1084	須恵器	甕	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面縦格子目印き	覆土	5%

第121号土坑 (第255図)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2e7区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第99・100号土坑に南部、第120号土坑に北部をそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長径1.30m、短径1.03mほどが確認され、不整楕円形と推定される。深さ38cmで、長径方向はN-20°-Wである。底面には凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。

覆土 3層に分層される。ローム粒子を多く含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ローム粒子中量

3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片16点(坏4, 甕12)、須惠器片6点(坏2, 甕4)が出土しているが細片のため図示できなかった。

所見 時期は、遺構の重複関係から9世紀代あるいはそれ以前と考えられる。

第140号土坑 (第259図)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2e8区に位置し、台地の中央部に立地している。

規模と形状 平面形は長径1.57m、短径1.19mの楕円形で、深さ24cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。長径方向はN-69°-Wである。

覆土 6層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし、ロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

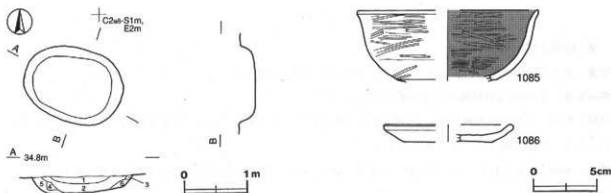
土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック少量
2 暗褐色 ローム中ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子少量

4 灰褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 暗褐色 ローム粒子微量
6 褐色 ローム大ブロック少量

遺物出土状況 土師器片41点(坏25, 高台付坏3, 小皿2, 高台付碗1, 甕10)、須惠器片5点(坏1, 甕4)、鉄滓が出土している。第259図1085・1086はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は出土遺物から10世紀前葉と考えられる。



第259図 第140号土坑・出土遺物実測図

第140号土坑出土遺物観察表 (第259図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1085	土師器	高台付碗	[14.3]	(5.7)	—	赤母・長石	にぶい橙	普通	体部内・外面へう磨き	覆土	20%
1086	土師器	小皿	[9.7]	1.4	[7.1]	長石・赤母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口コナダ、底部回転余切り	覆土	15%

第141号土坑 (第260図)

位置 調査I区中央部のC 2 es区に位置し、台地の中央部に立地している。

規模と形状 平面形は長径1.79m、短径1.20mの楕円形で、深さ24cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-20°-Eである。

ピット 4か所。P1-P4は深さ46-62cmで、性格は不明である。

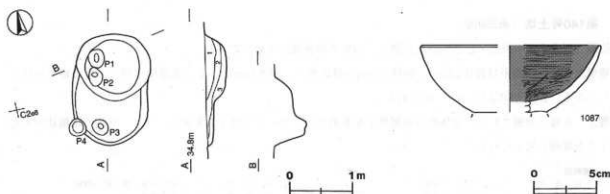
覆土 3層に分層される。暗褐色土を基調とし、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片64点(坏26, 高台付碗4, 甕34), 須恵器片3点(坏1, 蓋1, 甕1), 猿投産の灰釉陶器片2点(碗1, 長頸瓶1), 鉄滓1点が出土している。第260図1087は覆土中から出土している。

所見 時期は出土遺物から10世紀前葉と考えられる。



第260図 第141号土坑・出土遺物実測図

第141号土坑出土遺物観察表 (第260図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
1087	土師器	高台付碗	[14.3]	(5.4)	-	長石・赤色粒子	にぶい霞	普通	体部内面へラ磨き	覆土	10%

第142号土坑 (第261図)

位置 調査I区中央部のC 2 js区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第108B号住居跡の北部を掘り込んでいます。

規模と形状 平面形は長軸1.65m、短軸1.43mの楕円形で、深さ50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-43°-Wである。

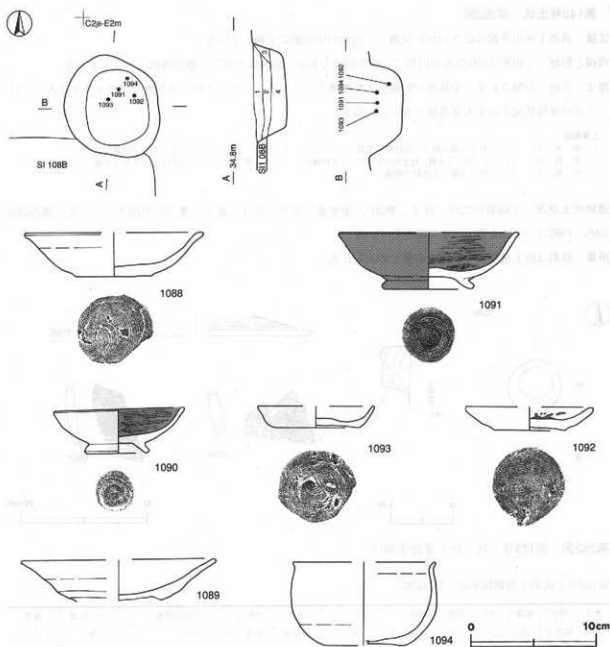
覆土 4層に分層される。ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 3 褐色 ローム中ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量 4 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片87点(坏29, 高台付碗8, 小皿2, 碗1, 甕47), 須恵器片11点(坏4, 甕7)が出土している。第261図1091-1093は中央部の覆土上層, 1092は東部の覆土中層, 1094は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土土器から10世紀中葉と考えられる。



第261図 第142号土坑・出土遺物実測図

第142号土坑出土遺物観察表 (第261図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1088	土師器	坏	[14.0]	3.5	6.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい肌	普通	ロクロナデ, 底部同軸糸切り	覆土	40%
1089	土師器	坏	[15.2]	(3.3)	-	石英・赤色粒子・白色粒子	灰肌	普通	外部外面下層同軸ヘラ削り	覆土	25%
1090	土師器	高台付椀	10.2	3.6	4.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい肌	普通	縁部内面ヘラ削り	覆土	95% P L 53
1091	土師器	高台付椀	[14.1]	4.5	6.3	石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい肌	普通	体部内面ヘラ削り	覆土上層	30%
1092	土師器	小皿	[9.9]	1.9	5.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい肌	普通	ロクロナデ, 底部同軸糸切り	覆土中層	50% 油耀付着
1093	土師器	小皿	[9.3]	1.7	[6.6]	石英・赤色粒子	にぶい肌	普通	ロクロナデ, 底部同軸糸切り	覆土上層	60%
1094	土師器	蓋	[11.1]	6.7	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい肌	普通	ロクロナデ	覆土上層	40% P L 63

第143号土坑（第262図）

位置 調査I区中央部のC2f7区に位置し、台地の中央部に立地している。

規模と形状 平面形は径0.75mの円形で、深さ45cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

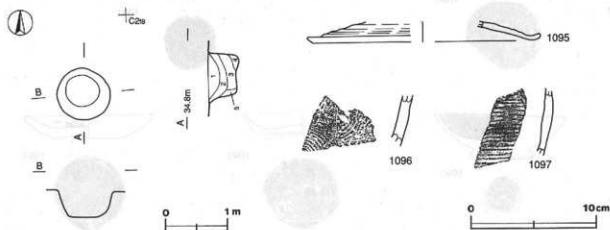
覆土 5層に分層される。全体的に暗褐色土を基調としている。ロームブロックと焼土ブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ローム小ブロック中量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物微量	5 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片22点（坏2，甕20），須恵器片9点（坏3，蓋1，甕5）が出土している。第262図1095～1097はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第262図 第143号土坑・出土遺物実測図

第143号土坑出土遺物観察表（第262図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1095	須恵器	蓋	[17.6]	(1.6)	—	長石・石英	暗灰黄	普通	ロクロナデ	覆土	15%
1096	須恵器	甕	—	(4.2)	—	石英・雲母	明青灰	普通	体部外面同心円状の叩き	覆土	5%
1097	須恵器	甕	—	(5.5)	—	石英・赤色粒子	黄灰	普通	体部外面平行叩き	覆土	5%

第145号土坑（第263図）

位置 調査I区中央部のC2f9区に位置し、台地の中央部に立地している。

規模と形状 平面形は径1.29mの円形で、深さ28cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 6層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

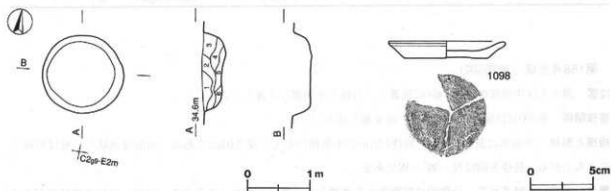
土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック中量、焼土粒子微量	4 暗褐色	ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム小ブロック少量

遺物出土状況 土師器片52点（坏15，高台付坏2，小皿2，甕33），須恵器片19点（坏6，甕13），鉄製品1点

(不明) が出土している。第263図1098は覆土中から出土している。

所見 時期は出土遺物から10世紀中葉と考えられる。



第263図 第145号土坑・出土遺物実測図

第145号土坑出土遺物観察表 (第263図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1098	土師器	小皿	9.0	1.4	6.5	長石・雲母	にぶい藍	普通	ロクロナア、底部回転糸切り	覆土	80% P L32

第151A号土坑 (第264図)

位置 調査I区中央部のC 2 g 9区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第151B号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径1.91m、短径1.30mの楕円形で、深さ20cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-33°-Eである。

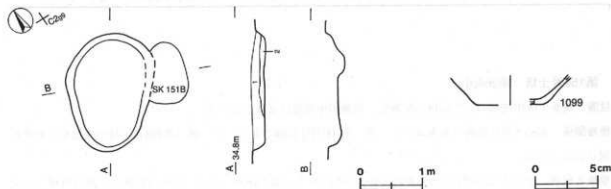
覆土 2層に分層される。暗褐色土を基調とし、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、渡土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片43点 (坏9, 寛34), 須恵器片14点 (坏8, 寛6) 土製品1点 (不明) が出土している。第264図1099は覆土中から出土している。

所見 時期は出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第264図 第151A号土坑・出土遺物実測図

第151A号土坑出土遺物観察表 (第264図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
1099	須恵器	坏	-	(2.4)	[5.4]	長石	青灰	普通	ロクロナデ, 底部回転承切り	覆土	5%

第158号土坑 (第265図)

位置 調査I区中央部のC2hs区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第100号住居跡の西コーナー部を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長径1.19m, 短径1.01mの不整形円形で, 深さ64cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-39°-Wである。

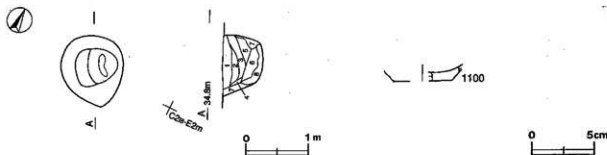
覆土 8層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし, ロームブロックを含み, ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	5 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	7 褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	8 暗褐色	ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片13点(坏3, 高台付坏1, 小皿1, 甕8), 須恵器片3点(甕), 猿投産の灰釉陶器片1点(長頸瓶)が出土している。第265図1100は覆土中から出土している。

所見 時期は, 遺構の重複関係と出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第265図 第158号土坑・出土遺物実測図

第158号土坑出土遺物観察表 (第265図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
1100	土師器	小皿	-	(1.3)	[4.7]	雲母・黒色粒子	橙	普通	ロクロナデ, 底部回転承切り	覆土	5%

第159号土坑 (第266図)

位置 調査I区中央部のC2hs区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第85A号住居跡の南東コーナー部, 第100号住居跡の北コーナー部, 第193号土坑の東部をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長径1.12m, 短径0.91mの楕円形で, 深さ78cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-82°-Eである。

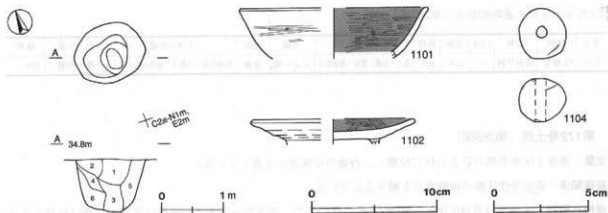
覆土 6層に分層される。ロームブロックを多く含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム小ブロック中量、炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム小ブロック多量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片14点(坏3, 高台付皿1, 小皿1, 甕9), 須恵器片5点(鉢), 土製品2点(球状土鉢)が出土している。第266図1101・1102・1104はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第266図 第159号土坑・出土遺物実測図

第159号土坑出土遺物観察表(第266図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1101	土師器	坏	[15.0]	(4.2)	—	栗母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ, 体部内・外周ヘラ磨き	覆土	15%
1102	土師器	高台付皿	[12.8]	(2.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	ロクロナデ, 体部内ヘラ磨き, 底面粗磨り	覆土	20%

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1104	球状土鉢	2.39	2.55	0.62	13.7	土製	ナデ	覆土	

第171号土坑(第267図)

位置 調査I区中央部のC210区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第101号住居跡の東部, 第103号住居跡の甕をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.80m, 短径1.16mほどが確認され, 平面形は楕円形と推定される。深さ23cmで, 長径方向はN-56°-Eである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

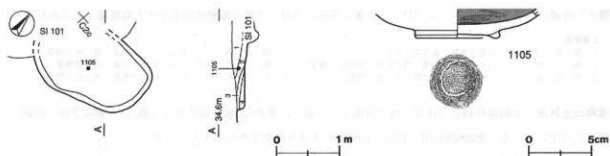
覆土 4層に分層される。ロームブロックを多く含み, ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック中量 | 3 暗褐色 | ローム中ブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック多量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片14点(坏10, 高台付碗3, 甕1), 須恵器片15点(坏13, 甕2), 灰輪陶器片1点(長頸瓶)が出土している。第267図1105は中央部覆土中層から出土している。灰輪陶器は猿投窯産である。

所見 時期は, 遺構の重複関係と出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第267図 第171号土坑・出土遺物実測図

第171号土坑出土遺物観察表(第267図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
1105	土師器	高台付碗	—	(24)	6.3	灰石・石英・黒骨・赤色砂子	にぶい褐	普通	体部内面へう磨き、底面刷毛切り	覆土中層	15%

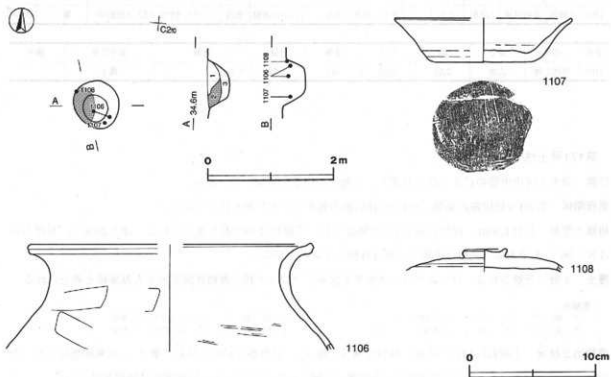
第172号土坑(第268図)

位置 調査I区中央部のC2f9区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第92号住居跡の南壁寄りを掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長径0.78m、短径0.70mの楕円形で、深さ25cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-27°-Wである。

覆土 3層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし、多量の焼土ブロック・炭化物・ロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。



第268図 第172号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物少量
 2 暗褐色 ローム中ブロック・炭化物・貝殻中量、焼土小ブロック少量
 3 黒褐色 焼土小ブロック多量、ローム小ブロック・炭化物中量

遺物出土状況 土師器片33点(坏7, 甕2), 須恵器片12点(坏8, 蓋2, 甕2), ハマグリを主体とした貝殻が出土している。第268図1107は南部の覆土上層, 1108は北西部の覆土上層, 1106は中央部から南部の覆土上層からそれぞれ出土している。貝殻は総量134.8gで、ハマグリが75.7%を占め、キサゴが14.8%, アカニシが9.3%, オキシジミが0.3%に分けられる。

所見 覆土が人為的に埋め戻されていることから、出土した貝殻は土坑廃絶後に投棄されたと考えられる。時期は、遺構の重複関係と出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

第172号土坑出土遺物観察表(第268図)

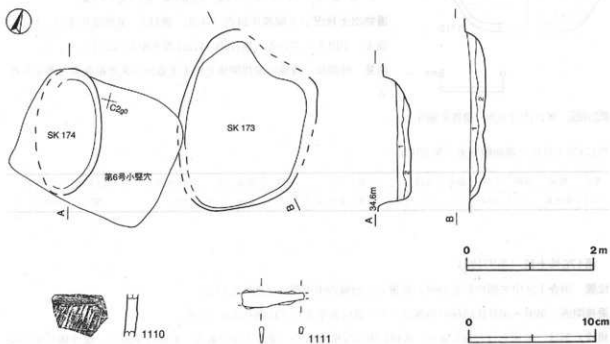
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1106	土師器 甕	[22.4]	(8.7)	—	長石・石英・赤色砂子	濃い黄	普通	体部外面ヘラナデ	覆土上層	10% 口唇部破滅
1107	須恵器 坏	[14.0]	3.6	7.8	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ, 底部手持ちヘラ削り	覆土上層	60%
1108	須恵器 蓋	—	(1.8)	—	石英・雲母	灰	普通	体部回転ヘラ削り	覆土上層	80%

第173号土坑(第269図)

位置 調査I区中央部のC2f0区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第6号小竅穴遺構に西側壁の一部を掘り込まれ、第96号住居跡の東側、第94号住居跡の北東コーナー一部をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長径2.95m、短径2.14mの不整楕円形で、深さ24cmである。底面には凹凸があり、壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-0°である。



第269図 第173・174号土坑, 第173号土坑出土遺物実測図

覆土 2層に分層される。炭化物、焼土、ロームブロックを含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物少量
2 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・灰褐色粒子中量

遺物出土状況 土師器片66点(坏16, 甕50), 須恵器片3点(鉢1, 甕2), 金属製品1点(刀子)が出土している。第269図1110・1111はいずれも覆土上層から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土遺物から9世紀と考えられる。

第173号土坑出土遺物観察表(第269図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1110	須恵器	鉢	—	(3.3)	—	石英・雲母	黒褐色	普通	体部外面平行叩き	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1111	刀子	(5.0)	1.3	0.3	(5.3)	鉄	刀身断面三角形, 基部断面長方形	覆土上層	

第174号土坑(第269・270図)

位置 調査I区中央部のC2g9区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第6号小竪穴遺構に上面を掘り込まれ、第96号住居跡の西側、第94号住居跡の北壁をそれぞれ掘り込んでいます。

規模と形状 長径2.06m, 短径0.96mほど確認され、平面形は楕円形と推定される。壁高は42cmで、長径方向はN-10°-Wである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 2層からなり、ロームブロックを多量に含む人為堆積である。



土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物中量
2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物中量、焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片14点(坏3, 甕11), 須恵器片4点(坏3, 甕1)が出土している。第270図1112は覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土土器から8世紀前業と考えられる。

第270図 第174号土坑出土遺物実測図

第174号土坑出土遺物観察表(第270図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1112	須恵器	坏	[13.4]	4.1	[5.4]	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロナデ	覆土	10%

第176号土坑(第271図)

位置 調査I区中央部のC2h9区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第94・96号住居跡の南西コーナー部付近をそれぞれ掘り込んでいます。

規模と形状 平面形は長径1.36m, 短径1.16mの楕円形で、深さ7cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。長径方向はN-84°-Wである。

覆土 3層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし、ロームブロックを含み、ブロック状の堆積状況を示

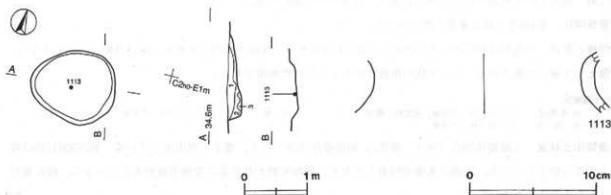
す人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック・砂微量 3 褐色 ローム大ブロック・粒子少量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 8点(壺), 須恵器片 2点(壺)が出土している。第271図1113は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、遺構の重複関係と出土遺物から8世紀代と考えられる。



第271図 第176号土坑・出土遺物実測図

第176号土坑出土遺物観察表(第271図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1113	土師器	壺	-	(4.8)	-	石英・雲母	にぶい褐	普通	体部内・外面ナデ	覆土下層	5%

第178号土坑(第272図)

位置 調査I区中央部のC2 a7区に位置し、台地の中央部に立地している。

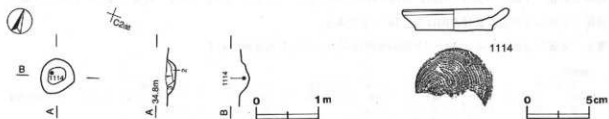
規模と形状 平面形は径0.56mの円形で、深さ16cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。覆土 3層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし、ロームブロックとローム粒子を含む人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 3 褐色 ローム粒子中量
 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片 3点(坏), 土師質土器 1点(小皿)が出土している。第272図1114は中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は出土遺物から11世紀前葉と考えられる。



第272図 第178号土坑・出土遺物実測図

第178号土坑出土遺物観察表（第272図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1114	土師質土器	小皿	8.0	1.8	6.0	雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土中層	55%

第179号土坑（第273図）

位置 調査I区中央部のC2e7区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第149号土坑に東部を掘り込まれている。

規模と形状 平面形は径0.78mの不定形で、深さ37cmである。底面には凹凸があり、壁は外傾して立ち上がる。

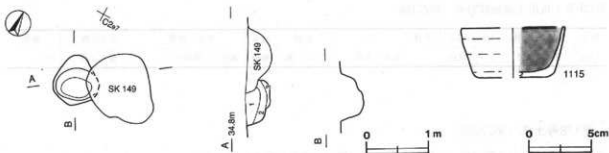
覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量
2 灰褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片28点（坏3、甕25）、須恵器片7点（坏5、甕2）が出土している。第273図1115は覆土中から出土している。内面に朱墨が付着しており、器面が磨かれたような使用痕があることから、甕に使用されたと考えられる。

所見 時期は出土遺物から8世紀中葉と考えられる。



第273図 第179号土坑・出土遺物実測図

第179号土坑出土遺物観察表（第273図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1115	須恵器	坏	[8.3]	4.0	[5.8]	石英	灰	普通	ロクロナデ、底部回転糸切り	覆土	40% 内面朱墨付着 甕転用 P.L.50

第181号土坑（第274図）

位置 調査I区中央部のC2f7区に位置し、台地の中央部に立地している。

規模と形状 平面形は長径1.04m、短径0.93mの楕円形で、深さ47～60cmである。底面には凹凸があり、壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-14°-Eである。

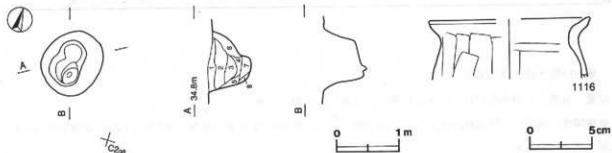
覆土 8層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 5 褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 6 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 7 褐色 ローム粒子中量
4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 8 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片48点(坏7, 高台付坏1, 甕40), 須恵器片13点(坏8, 甕5)が出土している。第274図1116は覆土中から出土している。

所見 時期は出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第274図 第181号土坑・出土遺物実測図

第181号土坑出土遺物観察表(第274図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1116	土師器	甕	[12.5]	(4.9)	-	石英・赤色粒子・白色粒子	赤褐	普通	体部外面へラ削り, 内面へラナゲ	覆土	5%

第192号土坑(第275図)

位置 調査I区中央部のC2g8区に位置し, 台地の中央部に立地している。

規模と形状 平面形は径1.30mの円形で, 深さ40cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層に分層される。全体的に褐色土を基調とし, ロームブロックとローム粒子を含む人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量

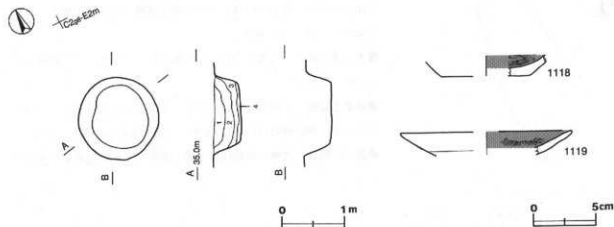
2 暗褐色 ローム粒子多量

3 褐色 ロームブロック多量

4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片42点(坏12, 皿1, 高台付皿1, 甕28), 須恵器片12点(坏6, 甕6)が出土している。第275図1118・1119はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は出土遺物から9世紀後葉と考えられる。



第275図 第192号土坑・出土遺物実測図

第192号土坑出土遺物観察表 (第275図)

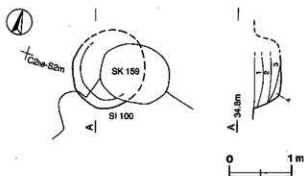
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1118	土師器	坏	—	(1.7)	[7.2]	白色粒子	橙	普通	ロクロナデ, 体部内面ヘラ磨き	覆土	5%
1119	土師器	皿	[13.6]	(1.8)	—	白色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面下端回転ヘラ削り, 内面ヘラ磨き	覆土	5%

第193号土坑 (第276図)

位置 調査I区中央部のC2hs区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第85A号住居跡の南コーナー部を掘り込み, 第100号住居跡に南側, 第159号土坑に東側をそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 平面形は径1.13mほどの円形と推定され, 深さ40cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がる。



覆土 4層に分層される。全体的に暗褐色土を基調とし, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説		
1	暗褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック多量
3	暗褐色	ローム粒子多量
4	黒褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 遺物は出土していない。

所見 時期は重複関係から8世紀中葉以前と考えられる。

第276図 第193号土坑実測図

第196号土坑 (第277・278図)

位置 調査I区中央部のC2gs区に位置し, 台地の中央部に立地している。

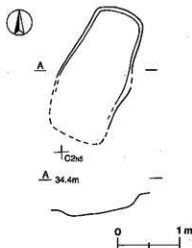
重複関係 第82B号住居跡の南部, 第82C号住居跡の南側, 第83号住居跡の中央部をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長径2.12m, 短径1.14mの不整形円形で, 深さ16cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾して立ち上がる。長径方向はN-24°-Eである。

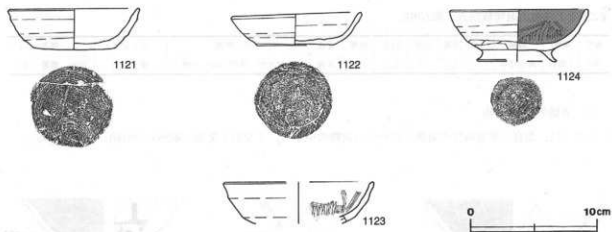
覆土 確認面からは覆土がほとんど残存していなかったため捉えることができなかった。

遺物出土状況 土師器片4点(坏1, 小皿2, 高台付坏1)が出土している。第278図1121~1124はすべて覆土中から出土している。

所見 時期は, 遺構の重複関係と出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第277図 第196号土坑実測図



第278図 第196号土坑出土遺物実測図

第196号土坑出土遺物観察表 (第278図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1121	土師器	小皿	10.2	3.3	6.5	灰石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ, 底面刷毛痕有り	覆土	95% P L 50
1122	土師器	小皿	10.3	2.6	6.2	灰石・石英・赤色粒子	にがい橙	普通	ロクロナデ, 底面刷毛痕有り	覆土	90% P L 52
1123	土師器	坏	[11.9]	(3.3)	-	石英・雲母	にがい橙	普通	ロクロナデ, 器内面へう磨き	覆土	20%
1124	土師器	高台杯	10.8	4.2	[6.0]	灰石・石英・雲母・赤色粒子	にがい橙	普通	器底・器内面へう磨き, 器底・器内面に刷毛痕有り	覆土	95% P L 53

第220号土坑 (第279図)

位置 調査I区中央部のC 2 a4区に位置し, 台地の中央部に立地している。

重複関係 第5号掘立柱建物跡のP 4・P 5をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は径0.97mの円形で, 深さ69cmである。底面は皿状で, 壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示す人為堆積と考えられる。第1層に柱の抜き取り痕が見られる。

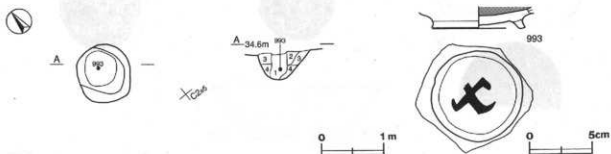
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック中量
4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点(坏)が出土している。第279図993は中央部の覆土中層から出土している。底部外面に墨書「卍」が書かれている。

所見 時期は, 遺構の重複関係と出土遺物から9世紀と考えられる。



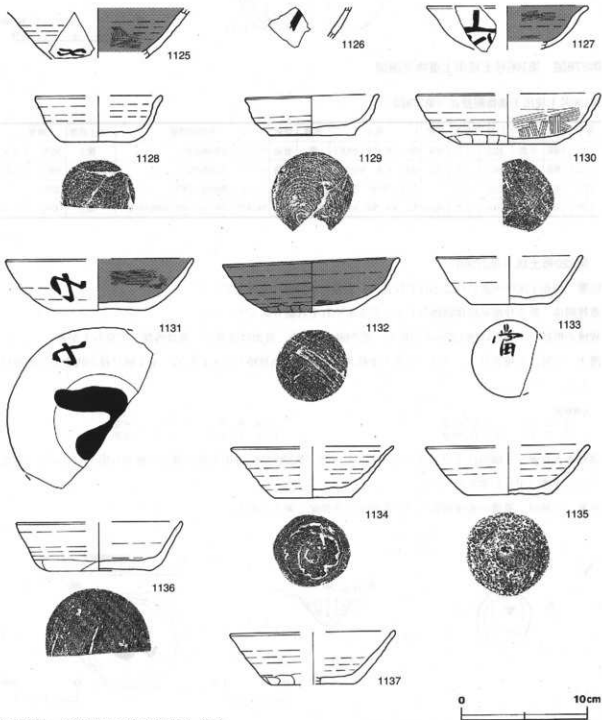
第279図 第220号土坑・出土遺物実測図

第220号土坑出土遺物観察表（第279図）

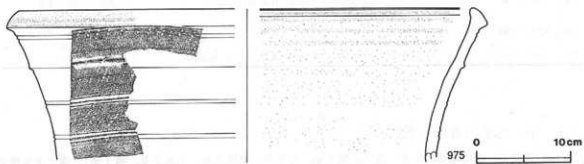
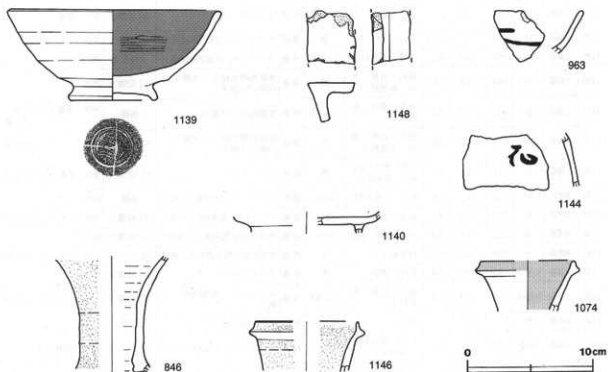
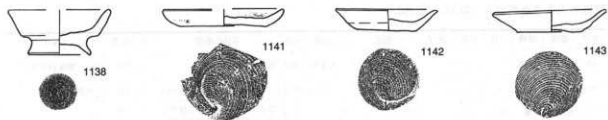
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
993	土師器	高台付杯	—	(1.7)	7.3	長石	橙	普通	ロクロナデ、体部内面ヘラ磨き	覆土中層	20% 墨書「記」

(7) 遺構外出土遺物

ここでは、奈良・平安時代の遺構に伴わない遺物の中から、主な出土遺物（第280・281図）を記載する。



第280図 遺構外出土遺物実測図（1）



第281图 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表 (第280・281図)

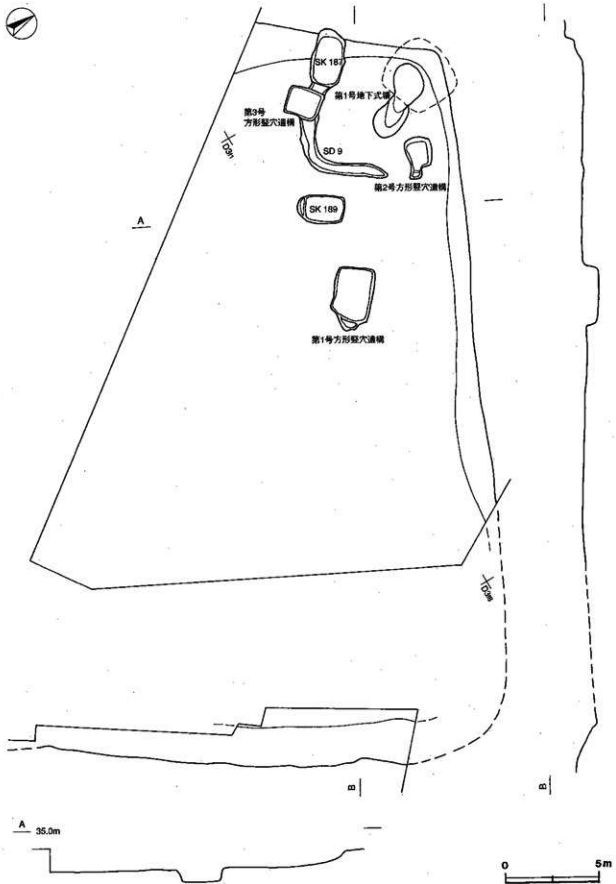
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
846	須恵器	長頸瓶	-	(9.3)	-	灰石	灰黄褐	良好	頸部外面灰釉施軸	C 2区	5% (黒鉄14号焼式)
963	土師器	坏	-	(3.4)	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ, 内面ヘラ磨き, 黒色施	D 3区	5% 墨書
975	須恵器	甕	[48.6]	(16.5)	-	灰石	灰	普通	頸部外面本質土による刺突文3段, 1本尖帯と2本の凹線2段	C 2区	5%
1074	灰釉陶器	長頸瓶	[9.7]	(3.6)	-	白色粒子	灰黄褐	良好	ロクロナデ	SI 40覆土	5% 穀粒痕 (黒鉄14号)
1125	土師器	坏	-	(4.0)	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラ磨き	表採	5% 墨書「祀」
1126	土師器	坏	-	(2.6)	-	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	SI 110覆土	5% 墨書
1127	土師器	坏	[12.7]	(3.5)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	SI 97覆土	5% 墨書
1128	土師器	坏	[10.5]	3.7	[6.6]	長石・石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ, 底部回転糸切り	SK 85覆土	40%
1129	土師器	坏	10.6	3.3	6.8	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ, 底部回転糸切り	I 区表土	70%
1130	土師器	坏	[14.4]	4.0	[7.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り, 内面ヘラ磨き	SI 52覆土	35%
1131	土師器	坏	[3.8]	4.0	7.5	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き	表採	50% 墨書「口」 「祀」 P L 50
1132	土師器	坏	3.8	4.3	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面手持ちヘラ削り, 内面ヘラ磨き	SI 52覆土	85% P L 50
1133	土師器	坏	[11.6]	3.8	6.1	石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	ロクロナデ	SI 101覆土	30% 墨書「富」 P L 50
1134	須恵器	坏	[12.8]	4.1	6.0	長石・石英・雲母	暗灰	普通	ロクロナデ, 底部回転ヘラ切り	表採	60%
1135	須恵器	坏	[12.7]	4.9	6.6	長石・石英	黄灰	普通	ロクロナデ, 底部回転ヘラ切り	SI 84覆土	70% P L 50
1136	須恵器	坏	13.1	3.8	8.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	SI 44覆土	50%
1137	須恵器	坏	[12.9]	4.2	[6.8]	白色粒子	灰	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り	I 区Aトレンチ	45% P L 50
1138	土師器	高台付坏	[8.0]	3.6	4.8	石英・雲母	橙	普通	ロクロナデ	SI 31覆土	65%
1139	土師器	高台付瓶	16.5	7.2	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ, 体部内面ヘラ磨き	SI 17覆土	70% ヘラ記号 P L 59
1140	須恵器	甕	-	(1.7)	-	長石	灰白	普通	高台部貼り付け	SD 4覆土	15%
1141	土師器	小皿	[9.5]	1.4	7.0	石英・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	ロクロナデ, 底部回転糸切り	I 区Aトレンチ	70% 油漬付着
1142	土師器	小皿	7.9	1.8	4.5	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ, 底部回転糸切り	SI 37覆土	100% P L 52
1143	土師器	小皿	9.0	1.8	5.3	石英・赤色粒子・白色粒子	淺黄橙	普通	ロクロナデ, 底部回転糸切り	表採	100% P L 52
1144	土師器	甕	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ナデ	表採	5% 墨書
1146	須恵器	長頸瓶	[8.3]	(3.9)	-	雲母	灰白	普通	ロクロナデ, 口縁部オリーブの自然軸	SK 13覆土	5% 河西産*
1148	土師器	不明	-	3.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	遺物集地点	5%

4 中・近世の遺構と遺物

今回の調査で、段切遺構1か所(地下式竈1基, 方形壱穴遺構3基, 土坑2基, 溝1条), 溝2条を確認した。以下, 検出された遺構及び遺物について記述する。

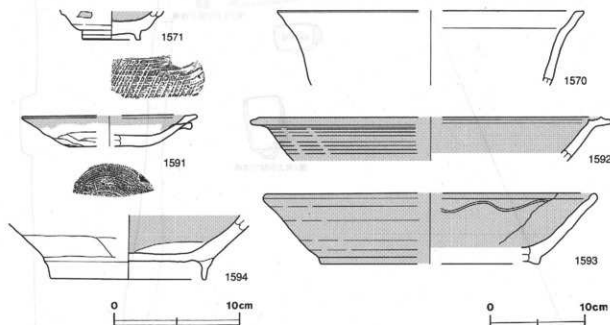
(1) 段切遺構 (第282・283図)

本跡は, 調査区南東側に位置し, 台地東部に立地している。第15号住居跡の北西コーナー付近を掘り込んでいる。規模は東西25m, 南北20mほどが確認できたが, 東・南側は調査区域外に広がるため全体的な規模を捉



第282図 段切遺構実測図

えることはできなかった。東西の長さは一辺がおよそ40mと推定され、平面形は方形または長方形で、地表面を深さ1mほど平坦に掘り下げて墓域としている。墓域からは地下式墳1基、方形堅穴遺構3基、土坑2基、溝1条が確認されている。出土遺物は1570の内耳鍋、古瀬戸の1591のおろし皿、1592の折縁深皿、1594の常滑の片口鉢など15世紀前半から中葉の陶器類が中心に出土しているが、1571の鉄軸天目茶碗や1593の深碗類など17世紀頃の瀬戸美濃系等も出土している。本跡の時期は出土遺物及び遺構等から15世紀前半から17世紀まで継続したと推定される。



第283図 段切遺構出土遺物実測図

段切遺構出土遺物観察表（第283図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1570	土師窯土器	内耳鍋	[32.2]	(7.9)	—	石灰・長石・石英	褐灰	普通	上縁部横ナデ、内外面ナデ	覆土	5%
1571	陶器	天目茶碗	—	(2.3)	[4.6]	乳白色	にんべい	普通	鉄筋	覆土	20% 瀬戸美濃系 P L65
1591	陶器	おろし皿	[13.8]	2.5	[6.4]	灰石	灰	良好	縁部ナデ、鉄筋無縁部、口縁部横ナデ	覆土	30% 古瀬戸 P L65
1592	陶器	折縁深皿	[38.0]	(4.7)	—	灰石	灰白	良好	灰軸漬け掛	覆土	5% 瀬戸美濃系 P L65
1593	陶器	碗型鉢	[34.4]	7.5	[23.0]	灰石	灰白	良好	灰軸漬け掛	覆土	10% 瀬戸美濃系 P L65
1594	陶器	片口鉢	—	(5.2)	[12.4]	灰石・石英	灰白	普通	底部下側へう削り、灰軸漬け掛	覆土	20% 常滑

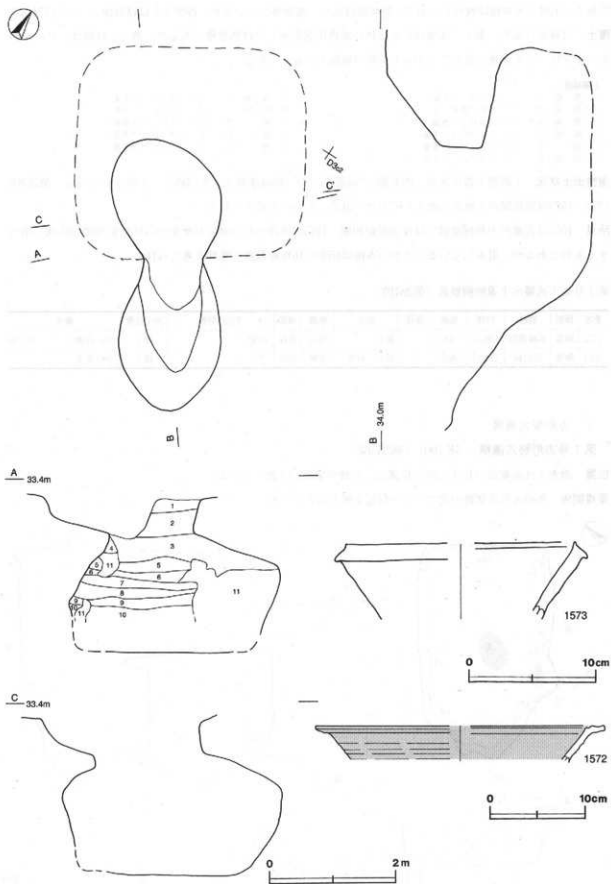
ア 地下式墳

第1号地下式墳（SK186）（第284図）

位置 調査Ⅰ区南東部のD3 c1区に位置し、台地東部に立地している。段切遺構内では北コーナー部に構築されている。

竪坑 竪坑は主室南東壁の中央部に位置し、上面は長径2.12m、短径1.63mの楕円形を呈している。壁は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは1.00mほどで、主室の底面までなだらかに傾斜する。

主室 長軸3.60m、短軸3.40mの方形で、主軸方向はN-53°-Wである。確認面から底面までの深さは2.50m



第284图 第1号地下式坟·出土遗物实测图

である。主室の天井部は残存しており、堅坑部付近が一部崩落しているが、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。
 覆土 11層からなり、第1～3層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積であるが、第4～11層は、ロームの
 大・中ブロックを多量に含むことから天井部の崩落土と考えられる。

土層解説				
1	黒褐色	ロームブロック中量	7 暗褐色	ローム大ブロック多量
2	黒褐色	ローム粒子多量	8 暗褐色	ローム大ブロック少量
3	黒褐色	ロームブロック多量	9 褐色	ローム大ブロック多量
4	暗褐色	ローム小ブロック多量	10 褐色	ローム中ブロック多量
5	暗褐色	ローム中ブロック多量	11 褐色	ローム大ブロック多量
6	暗褐色	ローム中ブロック中量		

遺物出土状況 土師質土器片8点(内耳鍋)、陶器片2点(折縁深皿1, 片口鉢1)が出土している。第284図
 1572・1573は堅坑部の上層から出土しており、混入したものと考えられる。

所見 1572は古瀬戸の折縁深皿でほぼ15世紀初頭、1573は常滑の片口鉢で15世紀から16世紀初頭の時期に相当
 するものであるが、混入していることから本跡は15から16世紀以前の時期と考えられる。

第1号地下式廣出土遺物観察表(第284図)

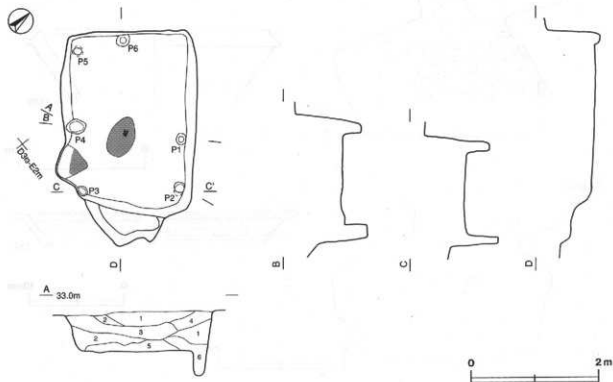
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1572	陶器	折縁深皿	[30.4]	(3.8)	—	長石	灰白	良好	灰釉	覆土	5% 古瀬戸 P.L.65
1573	陶器	片口鉢	[18.2]	(6.0)	—	長石・石英	赤褐色	良好	ナデ	覆土	5% 常滑

イ 方形堅穴遺構

第1号方形堅穴遺構(SK190)(第285図)

位置 調査1区南東部のD3e3区に位置し、台地の東部に立地している。

重複関係 第85A号住居跡の北コーナー付近を掘り込んでいる。



第285図 第1号方形堅穴遺構実測図

規模と形状 長軸3.42m, 短軸2.14mの長方形で, 主軸方向はN-35°-Eである。壁高は85~100cmで, 各壁ともほぼ垂直に立ち上がるが, 南東壁は階段状に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で硬化面は確認できなかったが, 中央部と南コーナー部の床面から炭化物が出土している。

ピット 6か所。P1~P6は深さ30~50cmで, 壁際に配置され, その規模から柱穴と考えられる。

覆土 6層からなり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック多量	4 暗褐色	ロームブロック多量, 焼土ブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子多量	5 暗褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック多量	6 暗褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋)が出土している。これらは細片のため図示できるものはなかった。

所見 出土土器及び遺構の形態から, 本跡は15世紀後葉から16世紀前葉の時期と考えられる。

第2号方形竪穴遺構 (SK185) (第286・287図)

位置 調査I区南東部のD3c2区に位置し, 台地の東部に立地している。

規模と形状 長軸2.27m, 短軸1.45mの南東壁の南側に張り出し部をもつ不整形長方形で, 主軸方向はN-61°-Wである。壁高は46cmで, 各壁ともほぼ外傾して立ち上がるが, 張り出し部は階段状に立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 硬化面は確認できなかった。

ピット 精査したが確認することができなかった。

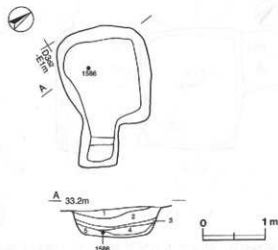
覆土 5層からなり, ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

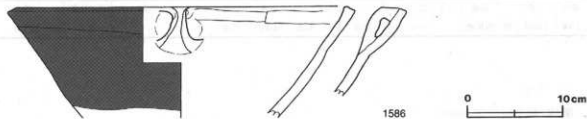
1 暗褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ロームブロック多量, 炭化物微量
3 褐色	ロームブロック多量
4 褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片7点(内耳鍋)が出土している。第287図1586は西部の覆土下層から出土しており, 埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 出土土器及び遺構の形態から, 本跡は15世紀後葉から16世紀前葉の時期と考えられる。



第286図 第2号方形竪穴遺構実測図



第287図 第2号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第2号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第287図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1586	土師質土器	内耳鍋	34.4	(12.0)	—	雲母・長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部横ナデ、内・外面ナデ	覆土下層	50% 煤付着 P.L.6

第3号方形竪穴遺構 (SK188) (第288図)

位置 調査I区南東部のD3 a1区に位置し、台地の東部に立地している。

重複関係 第9号溝に中央から北東側にかけて掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.94m、短軸1.61mの長方形で、主軸方向はN-51°-Eである。壁高は25cmで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 1か所。P1は深さ22cmで中央部に配置され、その規模から柱穴と考えられる。

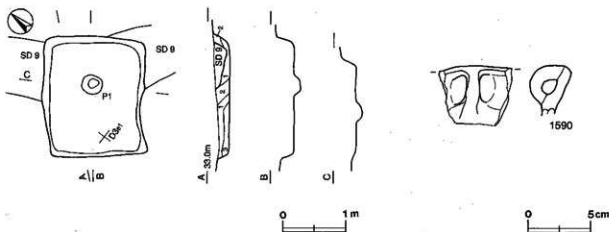
覆土 3層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量 3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物少量
 2 褐色 ロームブロック多量、炭化物少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が出土している。第288図1590は覆土中から出土しており、埋没過程で混入したものと考えられる。

所見 出土土器及び遺構の形態から、本跡はほぼ15世紀後葉から16世紀前葉の時期と考えられる。



第288図 第3号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第3号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第288図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1590	土師質土器	内耳鍋	—	(4.0)	—	雲母・長石・石英	明赤褐色	普通	ナデ	覆土	5% 煤付着

ウ 土坑

第187号土坑 (第289図)

位置 調査I区南東部のD2 a0区に位置し、台地の東部に立地している。

重複関係 第9号溝と南東壁で重複するが、新旧関係は確認できなかった。

規模と形状 長軸3.02m、短軸1.81mの隅丸長方形で、主軸方向はN-50°-Wである。壁高は220cmで、各壁ともほぼ垂直に立ち上がる。

覆土 8層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

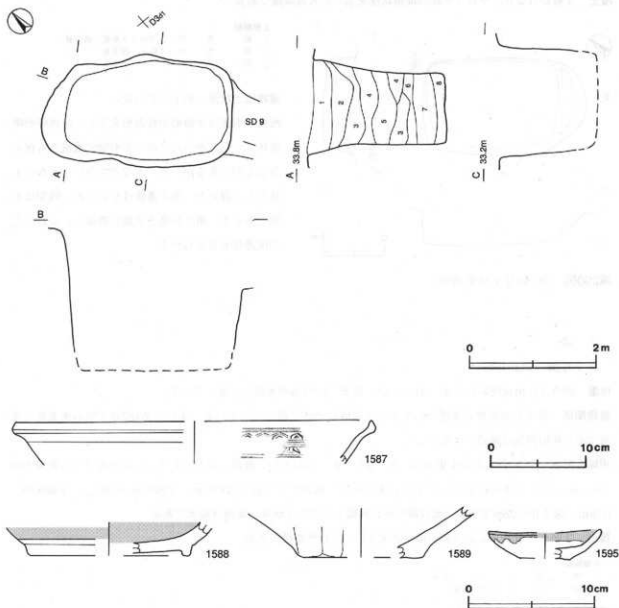
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量	5 褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック中量、炭化物少量	6 褐色	ローム粒子多量
3 黒褐色	ロームブロック多量	7 褐色	ロームブロック多量
4 褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量	8 暗褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片4点(内耳竈)、陶器片4点(小皿1、鉢1、擋鉢1、甕1)が出土している。

第289図1587~1589・1595は覆土中から出土しており、埋没過程で混入したものと考えられる。

所見 出土土器は、1595が古瀬戸産の緑軸小皿で15世紀中葉頃、1587が唐津産の三島手の鉢で17世紀頃と考えられる。これらの遺物は埋没過程での混入した遺物のため正確な時期を判断することはできない。



第289図 第187号土坑・出土遺物実測図

第187号土坑出土遺物観察表（第289図）

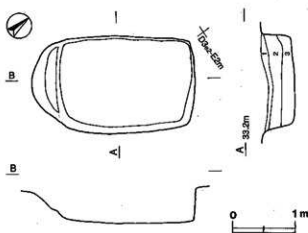
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1587	陶器	鉢	[37.0]	(4.5)	—	長石	赤	良好	三島手	覆土	5% 唐津
1588	陶器	甕	—	(2.7)	[12.8]	長石	におい黄橙	良好	鉄輪漬け掛	覆土	5%
1589	陶器	播鉢	—	(4.1)	[10.2]	長石・石灰	におい赤褐	良好	ナデ	覆土	5% 常滑
1596	陶器	縁種小皿	[8.8]	2.5	[3.8]	長石	灰白	良好	底面削板糸切り、口縁部鉄輪漬け掛	覆土	40% 吉野戸 P.L.66

第189号土坑（第290図）

位置 調査I区南東部のD3 a2区に位置し、台地の東部に立地している。

規模と形状 長軸2.62m、短軸1.54mの長方形で、主軸方向はN-50°-Wである。壁高は54cmで、各壁ともほぼ外傾して立ち上がり、南西壁は階段状に立ち上がる。

覆土 3層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。



土層解説		
1	褐色	ロームブロック多量、砂少量
2	褐色	ローム粒子・砂多量
3	褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡は平面形が長方形を呈し、南西壁が階段状に立ち上がることから方形竪穴遺構とも捉えることができるが、ピットなどもないことから土坑として捉えた。出土遺物はないため、時期は不明であるが、第1号地下式竪穴に隣接し、これらとの関連性も考えられる。

第290図 第189号土坑実測図

エ 溝

第9号溝（第291図）

位置 調査I区南東部のD3 a1~D3 a2区に位置し、台地の東部に立地している。

重複関係 第3号方形竪穴遺構の中央から北東壁にかけて掘り込んでいる。また、第187号土坑の南東壁と重複するが新旧関係は確認できなかった。

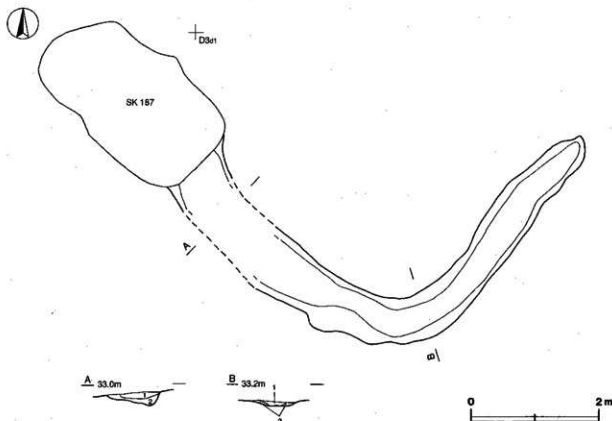
規模と形状 D3 a1区から南東方向（N-50°-W）にわずかに彎曲しながら延び、4.42m地点から北東方向（N-40°-E）に4.55m延びるL字状の溝である。確認できた長さは8.97m、上幅0.54~0.95m、下幅0.30~0.79m、深さ10~22cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面は皿状である。

覆土 2層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説		
1	褐色	ロームブロック多量
2	褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡は、段切遺構の北コーナー部に構築された第1号地下式竈を囲むようにし字状に巡り、その配置から第1号地下式竈を区画する溝と推定される。出土遺物はないが地下式竈と同じ15から16世紀以前の時期と考えられる。



第291図 第9号溝実測図

(2) 溝

第2号溝 (第292図)

位置 調査I区南東部のE4 b5～E4 e5区に位置し、台地の東部に立地している。

重複関係 第35号土坑を掘り込んでいる。

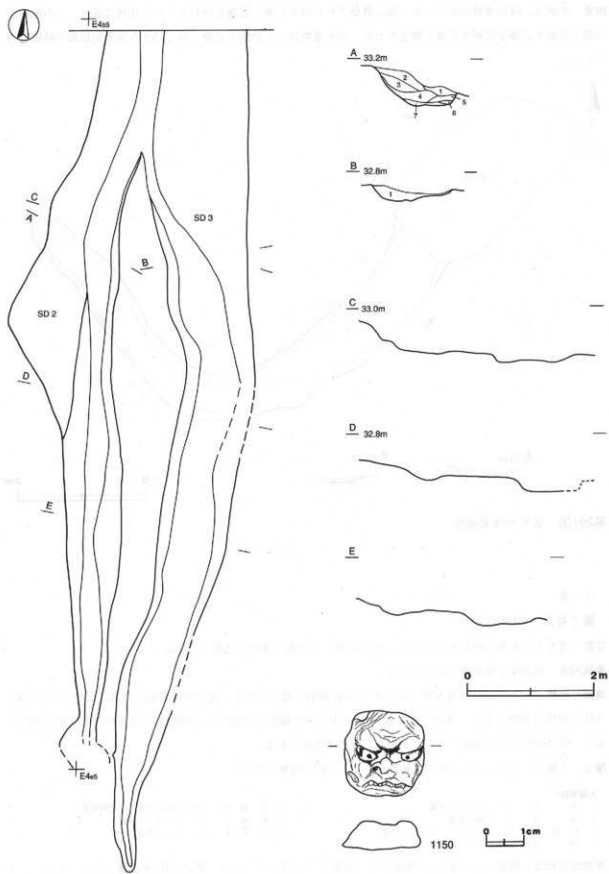
規模と形状 E4 e4区から北方向(N-0°)に直線的に延びている。北方向は調査区域外に延びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは14.50m、上幅0.29～0.91m、下幅0.10～0.36m、深さ10～50cmである。壁は緩やかにに外傾して立ち上がり、断面は皿状である。

覆土 7層からなり、レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量	5	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
2	褐色	ローム粒子少量	6	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量
4	褐色	ロームブロック中量			

遺物出土状況 陶器1点(甕)、土製品1点(泥面子)が出土している。第292図1150は覆土中から出土しており、埋没過程で混入したものと考えられる。



第292图 第2·3号沟, 第2号沟出土文物实测图

所見 第3号溝は本跡に平行して北方向に延び、E4 b5区で合流する。本跡は斜面部の地形に沿って構築されており、底面は硬化していないが平坦であることから道の可能性も考えられる。出土遺物から時期は近世以降と考えられる。

第2号溝出土遺物観察表 (第292図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1150	泥面子	0.3	2.2	0.7	3.26	土製	人面	覆土	P L67

第3号溝 (第292図)

位置 調査I区南東部のE4 b5～E4 es区に位置し、台地の東部に立地している。

重複関係 第33～35号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 E4 es区から北方向(N-6°-E)に延び、8.60m地点からわずかに屈曲して、北西方向(N-0°)に7.70mほど直線的に延びている。さらに北方向は調査区域外に延びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは16.30m、上幅0.31～1.00m、下幅0.10～0.69m、深さ20cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面は皿状である。

覆土 単一層からなるため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 場 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 出土していない。

所見 第2号溝は本跡に平行して北方向に延び、E4 b5区で合流する。本跡は斜面部の地形に沿って構築され、底面は硬化していないが平坦であることから道の可能性も考えられる。第2号溝と平行して延びていることから時期は近世以降と考えられる。

(3) 遺構外出土遺物

表土中から採集された中・近世の遺物としては、土師質土器片、陶磁器片、金属製品等がある。土器片・陶磁器片については細片のため図示できなかった。特徴的な遺物のみ実測図と観察表で記載する。



第293図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第293図)

番号	銜名	径	厚さ	孔	重量	鋳造年代(初録年・西暦)	銜産地	出土位置	備考
1151	寛永通宝	2.30	0.12	0.70	1.58	元禄10年(1697)、日本		1区Cトレンチ	新寛永 無背文 銅一文銭 P L68

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、遺構から土師器片・須恵器片などの細片が出土しているが、時期を判断することが難しかった遺構が確認されている。それらの遺構には土坑、溝、ピット群、不明遺構があり、遺物には鉄製品・土製品・石器などがある。土坑・溝については第294～299図に掲載し、その他の土坑・溝については全体図と遺構別一覧表に、遺物については実測図（第302図）と観察表に記載する。

(1) 土坑

第33号土坑（第294図）

位置 調査Ⅱ区東部のE4c5区に位置し、舌状台地の縁辺部の緩やかな斜面に立地している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は径1.24mの円形で、深さ28cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

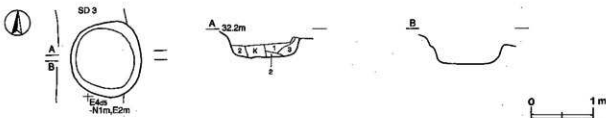
覆土 3層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、炭土粒子微量 | | |

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期は、遺構の重複関係から近世以前と考えられる。



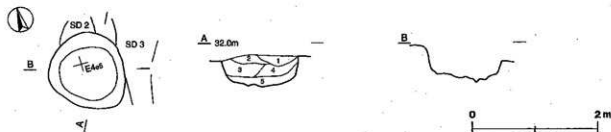
第294図 第33号土坑実測図

第35号土坑（第295図）

位置 調査Ⅱ区中央部のE4e5区に位置し、舌状台地の縁辺部の緩やかな斜面に立地している。

重複関係 第2・3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は径1.31mの円形で、深さ30～40cmである。底面は凹凸で、壁は外傾して立ち上がる。



第295図 第35号土坑実測図

覆土 5層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説					
1	褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ローム粒子少量
2	褐色	ローム粒子少量	5	暗褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ロームブロック微量			

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期は、遺構の重複関係から近世以前と考えられる。

(2) 溝

第4A号溝 (第296図)

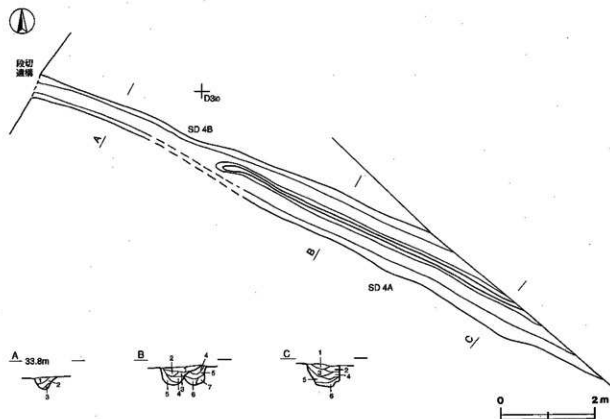
位置 調査Ⅱ区北部のD3i0~D4j2区に位置し、台地の東部に立地している。

重複関係 第14号住居跡と第4B号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 D3i0区から南東方向(N-62°-W)に直線的に延びている。南東方向は調査区域外に延びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは9.27m、上幅0.48~0.83m、下幅0.23~0.29m、深さ40~48cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面は逆台形である。

覆土 6層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説					
1	暗褐色	ローム粒子少量	4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量	5	褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ローム粒子中量	6	褐色	ロームブロック中量



第296図 第4A・4B号溝実測図

遺物出土状況 鉄滓1点が覆土中から出土している。

所見 第4 B号溝は本跡に平行して延びている。本跡の時期は重複関係から近世以降と考えられる。

第4 B号溝 (第296図)

位置 調査Ⅱ区北部のD3 b9～D4 j1区に位置し、台地の東部に立地している。

重複関係 第15号住居跡・段切遺構を掘り込み、第4 A号溝に掘り込まれている。

規模と形状 D3 b9区から南東方向(N-69°-W)に直線的に延びている。南東方向は調査区域外に延びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは10.70m、上幅0.30～0.54m、下幅0.15～0.27m、深さ19～42cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面はU字状である。

覆土 7層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック微量	7 暗褐色	ローム粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 出土していない。

所見 第4 A号溝は本跡に平行して延びている。本跡の時期は重複関係から近世以降と考えられる。

第7号溝 (第297図)

位置 調査Ⅰ区中央部のC2 b2～C2 c3区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第68号・69号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 C2 b3区から東方向(N-87°-E)に直線的に延びている。東方向は視乱により不明であるが、西方向は調査区域外に延びているため、全体の規模も不明である。確認できた長さは3.61m、上幅0.44～0.76m、下幅0.17～0.40m、深さ10cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面は皿状である。

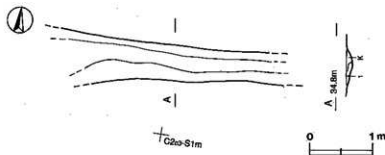
覆土 単一層からなるため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡は出土遺物もないため時期は不明である。



第297図 第7号溝実測図

第8号溝 (第298図)

位置 調査Ⅰ区南東部のD2 b9～D2 b0区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第110号住居跡の南東コーナー部、第2号不明遺構の北側を掘り込んでいる。

規模と形状 D 2 b9区から東方向 (N-82°-E) にわずかに彎曲しながら延び、2.00m地点から北東方向 (N-40°-E) に2.50m延びるL字状の溝である。確認できた長さは4.50m、上幅0.85~1.17m、下幅0.27~0.62 m、深さ25~27cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面は皿状である。

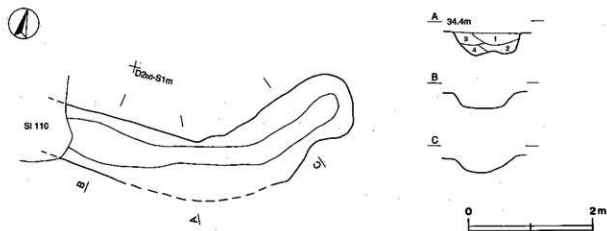
覆土 4層からなり、ロームブロックを含むことから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡は出土遺物もないため時期は不明である。



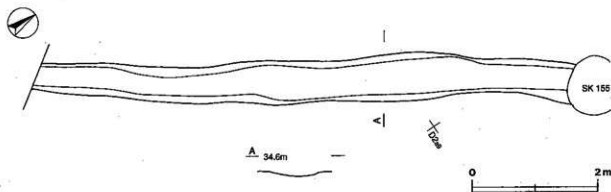
第298図 第8号溝実測図

第10号溝 (第299図)

位置 調査I区中央部のC 2 j9~D 2 b7区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第108A号住居跡を掘り込み、第155号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 D 2 a9区から北東方向 (N-35°-E) に直線的に延びている。南西方向は調査区域外に延びているため、全体の規模も不明である。確認できた長さは8.68m、上幅0.44~0.79m、下幅0.28~0.57m、深さ7cmである。壁は緩やかに外傾して立ち上がり、断面は皿状である。



第299図 第10号溝実測図

覆土 堆積状況は不明である。

遺物出土状況 出土していない。

所見 本跡は出土遺物もないため時期は不明である。

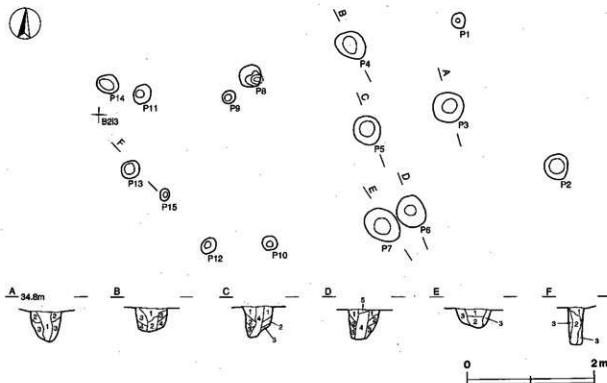
(3) ビット群

第1号ビット群 (第300図)

調査区北西部の第49号住居跡と第52号住居跡の間に位置するビット群である。ビット群の範囲は東西8.30m、南北4.50mで、B 2 h3・B 2 h4・B 2 i3・B 2 i4区に広がる。P 3～P 7・P 13の土層には柱痕の抜き取り痕がみられるが、配列は規則性がなく建物跡を想定できなかったため、ビット群とした。また、P 14は第107号土坑、P 15は第108号土坑とそれぞれ重複しているが、新旧関係は不明である。各ビットの規模については表に掲載する。

第1号ビット群柱穴計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P 1	25.5	22.5	22.2	P 6	50.5	45.0	50.3	P 11	30.5	27.5	37.0
P 2	40.5	38.0	39.4	P 7	62.5	46.5	26.4	P 12	26.5	23.5	25.9
P 3	48.5	47.0	50.3	P 8	36.5	36.0	54.8	P 13	30.0	30.5	60.3
P 4	50.5	40.5	38.2	P 9	22.0	21.5	21.9	P 14	35.5	29.5	—
P 5	48.0	42.5	49.2	P 10	25.0	23.5	32.8	P 15	19.5	15.0	—



第300図 第1号ビット群実測図

P3土層解説

- 1 黒褐色 色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 色 ローム粒子多量

P4土層解説

- 1 暗褐色 色 ローム粒子多量、焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 色 ローム粒子多量

P5土層解説

- 1 暗褐色 色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 色 ロームブロック多量

P6土層解説

- 1 暗褐色 色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 色 ロームブロック多量
- 5 黒褐色 色 ローム粒子多量

P7土層解説

- 1 黒褐色 色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 色 ロームブロック多量

P13土層解説

- 1 暗褐色 色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 色 ロームブロック中量

(4) 不明遺構

第2号不明遺構 (SX18) (第301図)

位置 調査I区中央部のD2b0区に位置し、台地の中央部に立地している。

重複関係 第8号溝に北側を掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.90m、短軸2.00mほどの不定形で、長軸方向はN-65°-Eである。壁高は10cmで各壁とも外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。

ピット 10か所。中央部から南コーナー部にかけて浅いピットが不規則にあり、性格不明のピットである。

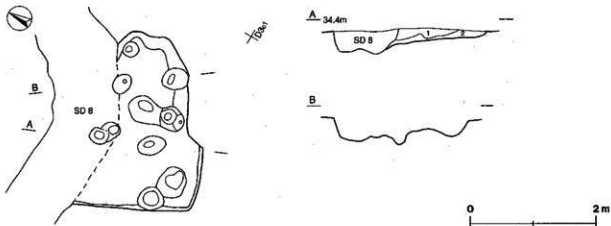
覆土 2層からなり、ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 出土していない。

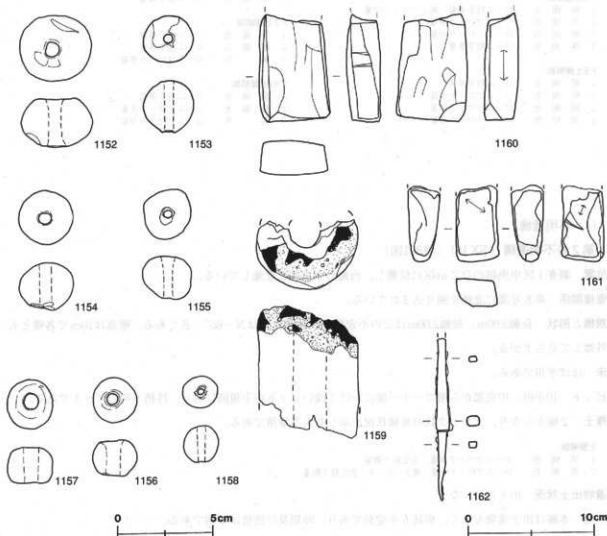
所見 本跡は出土遺物もなく、形状も不定形であり、時期及び性格は不明である。



第301図 第2号不明遺構実測図

(5) 遺構外出土遺物

表土中から採集された中・近世の遺物としては、土師質土器片、陶磁器片、金属製品等がある。土師質土器片・陶磁器片については細片のため図示できなかった。特徴的な遺物のみ実測図と観察表で記載する。



第302図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第302図)

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1152	球状土鉢	3.55	3.85	0.96	34.9	土製	ナデ, 両端厚減	I区表土	
1153	球状土鉢	(2.58)	2.66	0.57	(15.2)	土製	ナデ	I区表土	一部欠損
1154	球状土鉢	2.85	2.91	0.76	19.0	土製	ナデ	I区表土	
1155	球状土鉢	2.67	2.58	0.65	13.8	土製	ナデ	C2区表土	
1156	球状土鉢	2.37	2.36	0.79	9.3	土製	ナデ	I区Aトレンチ	
1157	球状土鉢	2.63	2.43	0.88	10.4	土製	ナデ	I区Bトレンチ	
1158	球状土鉢	1.75	1.86	0.51	5.6	土製	ナデ	I区Bトレンチ	
1159	羽口	(10.8)	8.10	2.70	(243.0)	土製	先端部溶着滓付着	D3区表層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1160	砥石	(8.6)	5.6	2.8	(209.0)	凝灰岩	一面使用	II区表土	P L68
1161	砥石	(6.1)	3.4	2.6	(73.0)	凝灰岩	四面使用	II区表土	
1162	不明製品	(13.1)	1.1	1.0	(22.3)	鉄	先端部欠損, 断面長方形	I区Fトレンチ	P L69

第1節 ま と め

1 はじめに

当遺跡は、前述のように鹿嶋市南西部の鹿嶋台地から南西に延びる標高35～36mほどの舌状台地中程の東側に立地している。

当遺跡は、平成8年度に都市計画街路線の東側台地縁辺部の調査が鹿嶋市によって行なわれた。その結果、竪穴住居跡は縄文時代後期1軒、6・7世紀代7軒、8～10世紀代4軒、10世紀以降8軒、時期不明2軒が確認され、そのほかに掘立柱建物跡3棟、鍛冶工房跡1基も調査されている。このように時期は6・7世紀代と10世紀以降の住居跡が大部分を占めていた。今回の調査区域は平成8年度と同一路線内の台地中央部を東西に調査した。その結果、検出された遺構は竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、墓塚、土器焼成遺構、溝、段切遺構である。竪穴住居跡は99軒調査され、そのうち8～10世紀代が56軒であり、平成8年度の調査に比べて郡衙の存続期に比定される時期が多く確認されている。

ここでは今回の調査範囲を中心に、遺跡内遺構の変遷について御園生遺跡をまとめることとする。

2 御園生遺跡の時期区分と遺跡の変遷について

時期区分については出土土器を基準として、各遺構を第1期から第20期まで区分し、以下各時期の遺構や遺物の特徴について述べる。

時期区分	時 期	遺構数	住居跡・段切遺構番号
第1期	縄文時代中期後半	5軒	17, 25, 34, 42, 59A
第2期	5世紀前半	2軒	33, 63
第3期	5世紀後半	5軒	19, 29, 32, 57, 69
第4期	6世紀前半	4軒	4, 22C, 39, 47
第5期	6世紀中葉	7軒	5, 14, 15, 26, 52, 61, 85A
第6期	6世紀後半	5軒	35, 44, 82C, 96, 108A
第7期	7世紀前半	2軒	18, 103
第8期	7世紀中葉	2軒	9, 105
第9期	7世紀後半	5軒	6, 23, 27, 49, 94
第10期	8世紀前半	12軒	3, 11, 21, 22B, 30, 79, 84, 92, 104A, 104B, 106, 110
第11期	8世紀中葉	6軒	22A, 31, 37, 62, 87, 109
第12期	8世紀後半	11軒	12, 13, 24, 28, 53, 55, 58, 82B, 97, 100, 101
第13期	9世紀前半	5軒	8, 36, 59B, 73, 82A
第14期	9世紀中葉	3軒	7, 48, 54
第15期	9世紀後半	6軒	43, 51, 60, 67, 75, 83
第16期	10世紀前半	6軒	65, 72, 74, 81, 85B, 85D
第17期	10世紀中葉	5軒	64, 86, 90, 107, 108B
第18期	10世紀後半	2軒	20B, 40
第19期	11世紀前半	2軒	20A, 93
第20期	13世紀～	1小所	段切遺構(墓塚)

第1期

台地の西部に竪穴住居跡5軒が、弧状に検出され、住居と共に貯蔵用の土坑が4基（子持ちピットを持つ土坑2基含む）、地点貝塚が2か所確認されている。特に第59A号竪穴住居跡の埋土からは貝殻や魚骨などが出土しており、キサゴ・ハマグリ・オキシジミ等の貝を中心に約11種類の貝が検出されている。しかし、魚骨は微量のため、同定には至らなかった。土器は加曾利EⅡ～Ⅲ式期の深鉢が主体に出土し、土器片錘や石錘の漁労具も多数出土している。これらの遺物や貝類遺体から、内湾の瀬間帯や浅海の砂泥地²⁾が台地周辺に広がっていたものと想定される。

第2期

5世紀後葉に再び集落が営まれる。竪穴住居跡は台地の西部に2軒確認されているが、重複のために全貌を捉えることができなかった。この時期の土器の特色は、平底で口縁部が内そぎ状の坏、球形状の体部で口縁部が大きく外反する甕(390)と口縁部が「く」の字状に外反する甕(391)等が認められる。製作技法は坏が外面にヘラ削り後ナデ調整、甕が外面にヘラ削り調整が施される。

第3期

竪穴住居跡は台地の西部に5軒確認されており、規模は面積20～60㎡の中型の竪穴住居跡³⁾がほとんどを占める。土器は坏蓋模倣の坏(378)が出現し、和泉期から続く平底の坏(297)が残る。製作技法は坏・甕が外面にヘラ削り、内面にヘラ磨きが施され、赤彩されるものが大部分を占める。TK47並行の須恵器坏身が出土している。

第4期

竪穴住居跡は台地の西部に3軒、東部に1軒が確認されており、2つの住居群が確認されている。規模が不明な1軒を除き、面積が30～35㎡2軒、40～45㎡1軒である。この時期には中型の竪穴住居跡が多く、住居内に竈が設置される。西部の住居小群は主軸方向がN-26°～31°-W、東部は主軸方向がN-24°-Wとほぼ同じ傾きを持ち、西部の住居群は主軸方向や住居配置等から一つの単位集団⁴⁾と考えられる。

土器は坏蓋模倣の坏が主体となり、甕は「コ」の字状の口縁部を呈するようになる。製作技法は坏・甕が赤彩と無彩のものがある。また、赤彩を意識して鉄分を含む粘土で焼き上げた坏(305)もみられ、甕は体部外面にヘラ磨き調整が施されるようになる。また、特殊な土器として円窓土器が見られる。

第5期

竪穴住居跡は台地の西部に3軒、中央部に1軒、東部に3軒が確認されている。規模が不明な1軒を除いて住居の面積は10㎡以下1軒、15～20㎡1軒、20～25㎡1軒、30～35㎡1軒、35～40㎡2軒であり、中型の竪穴住居跡が多い。住居の主軸方向は北西方向を主軸とするが、第52号住居跡と第61号住居跡は傾きに違いがあり、住居間隔も接近していることから、さらに時期細分が可能と考えられる。

土器は坏身模倣の坏が主体となり、甕は口縁の端部がつまみ上げられた常総型甕(407)が出現する。また、小形甕はこの時期を最後に消滅する。製作技法は坏が赤彩以外に黒色処理が施された黒色土器が出現し、黒色土器の中に漆仕上げ⁵⁾の坏(397・400)も混じる。

第6期

竪穴住居跡は台地の西部に2軒、中央部に3軒が確認されている。面積は10～15㎡以下1軒、15～20㎡以下1軒、35～40㎡以下1軒、40～45㎡以下1軒、45～50㎡以下1軒であり、5期に比べて規模が比較的大きい竪穴住居跡が多い。主軸方向は第44号住居跡と第96号住居跡が北西方向でほぼ同じであるが、他の3軒の住居跡は主軸方向にそれぞれ違いがある。

土器は坏身模倣の坏が主体を占めているが口縁部が短くなり、全体的に扁平（427）となる。また、坏の製作技法は漆仕上げや黒色処理される割合が高くなる。

第7期

堅穴住居跡は台地の西部に1軒、中央部に1軒が確認され、堅穴住居跡が減少する。住居の面積は20～25㎡1軒で、6期に比べて小規模な堅穴住居跡となる。

土器は坏身模倣の坏が主体を占め、全体的に小形化し、黒色土器が多くなる。常盤型甕（441）は口縁の端部が6期に比べてさらにつまみ上げられる。製作技法は、漆仕上げ（434・436）や黒色処理（435・437～439）が主流である。

第8期

堅穴住居跡は台地の中央部に1軒、東部に1軒が確認されている。住居の面積は15～20㎡1軒、20～25㎡1軒であり、規模は7期と同じである。調査区域内で遺構配置には間隔があるが、主軸方向は2軒ともN-47°-Wで同じであり、同一集落を形成するものと考えられる。また、土器は模倣坏が形骸化するが、黒色処理された土器が残る。

第9期

堅穴住居跡は台地の西部に3軒、中央部に1軒、東部に1軒が確認されている。住居の面積は10㎡以下2軒、20～25㎡2軒、25～30㎡1軒であり、中型の住居が増える。主軸方向は、第23号住居跡を除いて4軒ともN-15°～25°-Wと同じ傾きで、配置もほぼ間隔が一定しており、同一集落を形成するものと考えられる。

坏は坏身模倣が見られなくなり、椀状の坏となる。そのほかには常盤型甕と口縁部がつまみ上げられた甎が存在する。製作技法は以前として坏に黒色処理が施されているが、黒色処理は衰退傾向にあり、無彩の坏が増え、甎は胴部中位からヘラ磨きが施されている。また、第49号住居跡から青銅製の柄杓が出土している。

第10期

この期は鹿島郡衙成立期であり、堅穴住居跡が多く確認されている。また、須恵器などの搬入品が増加傾向にあり、郡衙関連集落としての要素を持つ時期である。

堅穴住居跡は台地の西部に3軒、中央部に7軒、東部に2軒確認されている。規模が不明な3軒を除いて住居の面積は10㎡以下1軒、15㎡以下6軒、20㎡以下2軒であり、比較的小型の堅穴住居跡が多い。

西部の住居群第21・22B・30号住居跡は、主軸方向N-15°～25°-Wとほぼ同じ傾きを持つ住居群として捉えられる。

中央部の住居群は第84・92・104A・104B・106・110号住居跡である。主軸方向はN-4°～47°-Wと幅があり、さらに第79、84号住居跡は重複関係、第104A・104B号住居跡は建て替えの関係にあることなどから、この住居群はさらに二つに細分することが可能である。

東部の住居群は第3、11号住居跡である。主軸方向はN-31°～34°-Wとほぼ同じ傾きを持つ住居である。

特殊な遺構としては遺物集中地点があり、多量の遺物（土師器片2606点、須恵器片770点等）が投棄された状態で出土している。それらの中で須恵器の坏・蓋の完形率が高く、何か祭祀的な可能性も考えられる。

出土土器は時間的な幅があるため細分が可能で、在地産の須恵器⁹⁾を基準として7世紀末葉（A）、8世紀初頭（B）、8世紀前葉（C）の3期に細分した。これらの器種構成は、土師器の坏・鉢・甎・小形甕・大形甕、須恵器の坏・鉢・甕である。

土師器の坏は模倣坏がいずれも形骸化した椀状の坏となる。また、体部が低い甕状の坏（874）も存在する。甕は常盤型甕が主体であり、体部中位からヘラ磨きが施される。

A期の須恵器坏は胎土に雲母を含み、口唇部内面に沈線が周回して、底部調整は手持ちヘラ削りが施される。蓋はかえりがシャープであり、つまみは小振りで扁平な擬宝珠を呈し、栗山窯跡⁷⁾と考えられる。

B期の須恵器坏は、二次底部面を持ち、回転ヘラ削り調整が施されている。蓋には扁平なボタン状のつまみが付き、口縁部内面に短いかえりがみられ、鉢・甕の外面には同心円状の叩きが施されている。これらの須恵器は、一丁田窯跡⁸⁾と考えられる。

C期の須恵器坏は平底で、底部下端から底部にかけて回転ヘラ削りが施されている(881)。また、須恵器の坏は底部が平底で、体部がほぼ直線的に外傾して立ち上がることなどの違いがみられることから、C期を設けた。製作技法は、底部に回転ヘラ削りが施されている。

第11期

竪穴住居跡は台地の西部に3軒、中央部に3軒確認されている。規模が不明な2軒を除いた面積は10㎡以下1軒、15㎡以下2軒、20㎡以下1軒である。この時期においても比較的小型の竪穴住居跡が多い。

西部の住居群は第22A・31・37号住居跡である。主軸方向はN-15°~18°-Wとほぼ同じ傾きを持ち、均等な間隔で配置されていることから集落の一群として捉えた。中央部の住居群は第62・87・109号住居跡である。主軸方向はN-0°~41°-Wと幅があり、各住居跡は間隔を持って、配置されている。

器種構成は須恵器坏を主体に蓋・長頸瓶・鉢・甕、土師器甕が出土している。

須恵器坏の法量は口径12.0~13.0cm、器高3.8~4.1cm、底径8.8~9.6cm前後のものが多く、底径が大きく、体部の傾きが小さい扁平の形態が多く出土している。高台付坏も出土しており、胎土に針状鉱物を含んだ木葉下窯跡のもの(839)も見られる。また、須恵器の長頸瓶(843)が出土しており、法量は口径18.3cm、底径15cmで頸部が太く、赤く酸化した特殊な長頸瓶である。鉢は外面に横位の平行叩きが施されたものが出土している。

第12期

10期に次いで竪穴住居跡が多い。竪穴住居跡は台地の西部に5軒、中央部に4軒、東部に2軒確認されている。規模が不明な4軒を除いた住居の面積は10㎡以下3軒、15㎡以下3軒、20㎡以下1軒であり、この時期においても比較的小型の竪穴住居跡が多い。

西部の住居群は第24・28・53・55・58号住居跡である。主軸方向はN-20°~32°-Wで、西に開く弧を描くように配置されている。これらの住居群は、配置から第24・28号住居跡と第53・55・58号住居跡の二つの住居群として存在するものと考えられる。第58号住居跡は遺物が大量に投棄されており、接合された個体は大形甕11、小形甕1、瓶1、須恵器坏3であり、甕を中心に一括投棄されたものと考えられる。また、須恵器の坏には朱鳥痕が認められるものも出土している。この一括投棄された煮沸具は、内面に白色の物質が付着した、煮炊きの痕跡が認められ、使用後の廃棄と考えられるが、祭祀的な使用後の投棄の可能性もある。

中央部には第82B・97・100・101号住居跡が位置している。第97・101号住居跡の主軸方向はN-48°~56°-Wであり、ほぼ同じ傾きを持つことから、一つの住居群と考えられる。また、第82B・100号はそれぞれ主軸方向に違いが見られ、別な住居群に属するものと考えられ、これらの住居群は北方向に開く現状に配置されている。また第100号住居跡は第101号住居跡と隣接することから、さらに時期的な細分が可能である。

東部には第12・13号住居跡がある。これらの住居跡は調査区域外にいずれの住居も延びることから、主軸方向は不明であり、第12・13号住居跡は隣接していることから、さらに時期的な細分が可能である。

出土遺物の器種構成は、須恵器坏を主体に高台付坏・蓋・鉢・甕、土師器甕が出土している。

須恵器坏の法量は口径11.0~14.0cm、器高3.2~4.3cm、底径6.0~8.3cm前後のものが多く、底径が口径の2分の1以上のものであり、11期に比べては底径が縮小化している。整形は底部・底部下端ともに手持ちヘラ削り

が施される。鉢は外面に横位の平行叩きが施されたものが残り、須恵器盤(535)は、口径が21cmの大型のものが出土している。土師器甕は常態型甕で、肩部からヘラ磨きが施されるようになり、口縁端部のつまみあげは前期に比べ顕著になる。

第13期

堅穴住居跡は12期に比べて減少する時期である。堅穴住居跡は台地の西部に1軒、中央部に3軒、東部に1軒の3群が確認されている。規模が不明な1軒を除いた住居の面積は10㎡以下2軒、20㎡以下2軒であり、この時期においても小型の堅穴住居跡が多い。

中央部の住居群は第59B・73・82A号住居跡である。第59B・82A号住居跡の主軸方向はN-5°-WとN-22°-Eと、北西と北東に傾きを持ち、主軸方向では捉えることはできないが、住居配置の間隔はほぼ均等である。

出土遺物の器種構成は、須恵器坏を主体に高台付坏・盤・蓋・鉢・甕、土師器の甕が出土している。須恵器坏の法量は口径12.2~13.8cm、器高4.1~4.8cm、底径6.4~7.6cmのものが多く、底径が口径の2分の1以下となり、12期に比べて底径が縮小化傾向にある。整形は12期と変わらず底部・底部下縁ともに手持ちヘラ削りが施され、鉢は外面に縦位の平行叩きが施される。また、土師器甕は常態型甕であり、肩部の張りがありなくなる。

第14期

堅穴住居跡は13期に比べてさらに減少し、台地の西部に3軒、東部に1軒確認されている。面積は10㎡以下1軒、15㎡以下2軒であり、この時期においても小型の堅穴住居跡が多い。

西部には第48・54号住居跡の2軒が確認されているだけで、主軸方向はN-5°~14°-Wと北東方向に傾きを持つ。

出土遺物の器種構成は、須恵器坏を主体に高台付坏・盤・蓋・鉢・甕、土師器甕・甕が出土している。

須恵器坏の法量は口径11.9~13.2cm、器高4.2~5.3cm、底径4.8~6.6cmのものが多く、底径が口径の2分の1以下となり、13期と同様に縮小化傾向にある。また、体部の立ち上がりが内彎するもの(624)がみられるようになり、調整は13期と変わらず底部・底部下縁ともに手持ちヘラ削りが施される。須恵器盤はこの期で消滅する。

第15期

堅穴住居跡は14期に比べてわずかに増加する。台地の中央部には6軒確認されており、1つの住居群と考えられる。面積は10㎡以下3軒、30㎡以下1軒であり、この時期においても比較的小型の堅穴住居跡が多い。

中央部の住居群は第43・51・60・67・75・83号住居跡である。主軸方向はN-15°~35°-Eと北東に傾きを持つ住居跡がほとんどを占め、住居配置の間隔はほぼ均等である。また、第83号住居跡は一辺5.67mの最大規模の住居である。

出土遺物の器種構成は、土師器坏を主体に土師器甕が出土している。須恵器は前期に比べて少なくなるが坏・鉢・甕の出土が見られる。土師器坏はロクロ成形され、内面ヘラ磨き後に黒色処理を施されたものが多く出土し、底部下端から底部にかけて回転ヘラ削りを施されたものや手持ちヘラ削りが施されたもの(763~769)がある。須恵器坏の法量は口径11.7~13.0cm、器高3.8~4.7cm、底径5.5~6.2cmのものが多く、底径が口径の2分の1以下で、前期に比べて器高が低くなり、体部の立ち上がりが内彎する(776~778)。また、調整は底部下端の手持ちヘラ削りが体部中位まで施されるもの(766・776~778)もある。土師器の甕は常態型甕で、口縁端部のつまみ上げがさらにシャープとなって、上方向につまみ上げられ、体部下半からヘラ削りが施される

ようになる。

第16期

堅穴住居跡は第15期と同じ軒数で、台地の中央部に6軒確認されている。住居全体の規模が不明な2軒を除いた住居の面積は10㎡以下2軒、15㎡以下2軒であり、この時期においても小型の堅穴住居跡がほとんどを占める。主軸方向の明確な住居跡は4軒で、西竈を持つ住居跡は2軒（第85B・85D号住居跡）であるが、これら2軒は建て替えの住居跡である。また、南西竈は第72号住居跡、南東竈が第65号住居跡であり、これらの主軸方向は一定のものはない。

器種構成は土師器坏と高台付碗が主体に甕が出土し、この時期に須恵器はほとんどみられなくなる。土師器坏は前期より器高が低くなり、内面に黒色処理を施されないもの（733・734）も出土し、底部下端から底部にかけて回転ヘラ削りを施されている。高台付碗は高台が高く、内面のヘラ磨き後に黒色処理されたもの（735・736）とヘラ磨き、黒色処理されないもの（737・738）などがある。土師器甕は常総型甕で、口縁端部のつまみ上げが短くシャープとなり、体部外面に回転ヘラ削りが施されたもの（740）や縦位のヘラ削りが施されたもの（741）もみられる。

第17期

堅穴住居跡は16期に比べて1軒減少し、台地の中央部に5軒確認されている。住居の面積は10㎡以下4軒、15㎡以下1軒であり、この時期においても小型の堅穴住居跡がほとんどを占める。

北東竈を持つ住居跡1軒（第90号）、南東竈2軒（第64・108B号）であり、これらの住居跡を見ると、主軸方向は北東と東の二方向に分けられ、住居配置から第64号住居跡1軒と第86・90・107・108B号住居跡4軒の2つの住居小群に分けられ、そのうち4軒の住居群は西方向に環状に開くように配置されている。

器種構成は、土師器小皿と高台付碗が主体に、甕が出土している。土師器小皿は16期の坏の器高がさらに低くなって小皿に変化したもの（807・809～823）がある。この小皿の法量は口径9.4～11.2cm、器高2.6～3.4cm、底径5.8～6.0cmで、坏とも小皿とも捉えることができるが、ここでは小皿として捉えた。整形は底部回転糸切り未調整である。高台付碗は深碗状（827・829）であり、16期に比べて高台が低い。それ以外に足高高台を持つ碗が出現する。土師器甕は常総型甕以外に口縁部が短く単口縁（830）の甕が現れ、体部外面は縦位のヘラ削りが施されている。

第18期

この時期の堅穴住居跡は2軒確認されており、第17期に比べて堅穴住居跡が減少し、台地の西部に2軒確認されている。住居の面積は10㎡以下1軒、15㎡以下1軒で、この時期においても小型の堅穴住居跡がほとんどを占め、南東竈を持つ2軒（第20B・40号）である。

このほか特徴的な遺構として第1号土器焼成遺構がある。この焼成遺構では小皿を中心に焼成しており、黒斑、焼きむら、ひび割れ、割れた小皿などが出土している。鹿嶋市周辺の遺跡では厨台遺跡⁸¹や鍛冶台遺跡⁸²から土器焼成遺構が確認されているが、時間的には本遺跡よりも新しいものである。

器種構成は、土師器小皿と碗を主体に坏・高台付碗・甕が出土し、小皿・坏は底部が回転糸切り未調整である。また、碗は深碗状（551・554）で、製作技法は内面のヘラ磨き後に黒色処理され、底部は回転糸切り後未調整（558・559）である。それ以外の足高高台を持つ碗（556）は、前期に比べて口縁部が外反する。土師器甕は常総型甕が見られなくなり、口縁部が短い単口縁（560）のもので、体部外面は縦位のヘラ削りされる。

第19期

堅穴住居跡は第18期と同数であるが、ほぼ集落の終末期といえる時期である。堅穴住居跡は台地の西部と中

尖部に2軒確認されている。規模が不明な1軒を除いた住居の面積は10㎡以下1軒の小型の堅穴住居跡である。第20A号住居跡は第18期の第20B号住居跡の建て替えとされており、住居中央部の床面が火熱を受けて赤化した箇所から置き竈の存在を想定している。なお、中央部に第93号住居跡が位置し、その北側には同時期の第2号土器焼成遺構が存在する。第2号土器焼成遺構は円形に浅く掘り込んだだけのもので、小皿を中心に焼成しており、第1号土器焼成遺構と比べると簡単な構造である。

器種構成は、土師器小皿を主体に坏・高台付碗が出土している。小皿は18期に比べて底径が縮小化し、全体的に小形になる。また、高台付碗は深碗状(546~550)で、高台部が短く潰れた状態を呈し、製作技法は内面はヘラ磨き後黒色処理されている。坏(1584・1585)の量目は口径13.4~14.2cm、器高4.3~4.6cm、底径5.9cmと底径が口径の2分の1以下と小さく、底部は回転糸切り未調整で、この時期になると新たにこの坏が現れる。

第20期

集落は19期以降に消滅し、その後、15世紀に台地東部に墓域が形成される。その墓域は東西の長さがおよそ40mと推定され、平面形は方形または長方形で、地表面を深さ1mほど平坦に掘り下げている。この墓域からは地下式墳1基、方形堅穴遺構3基、土坑2基、溝1条が確認されている。本跡の時期は出土遺物及び遺構等から15世紀前葉~17世紀まで継続したと推定されるが、この墓域が機能した時代は地下式墳・方形堅穴遺構より出土した遺物から15世紀前半から16世紀前半頃と考えられる。この時期に出土する土師質土器と陶器を基準に15世紀~16世紀(A)、17世紀前葉(B)の2つの小期に分けた。

15世紀初頭は古瀬戸の折縁深皿(1572)、15世紀前葉~中葉は古瀬戸の折縁深皿(1592)、15世紀後葉~16世紀前葉は内耳鍋(1570・1586)、17世紀頃は瀬戸美濃系の鉄軸天目茶碗や深碗(1593)などが出土している。

3 おわりに

御面生遺跡は縄文時代中期後半に集落が形成され、後期初頭まで継続する。台地周辺の環境は、貝類等から内湾の潮間帯や浅海の砂泥地であり、その環境に即した漁労を中心とする生活が営まれていたと考えられる。その後、古墳時代中期後半になって再び集落が営まれ始める。古墳時代の住居跡は30軒が確認され、一辺が7~8mの大型の堅穴住居跡も存在する。遺物では第49号住居跡から青銅製の柄杓が出土しており、県内では新治村の武者塚古墳¹¹に次いで2例目の出土である。7世紀末葉になると新治産の須恵器が各住居跡から出土するようになり、8世紀には木葉下窯産の須恵器も使用されるようになる。このころから堅穴住居跡が増え始め、郡衙に隣接する集落として拡大しはじめる。奈良・平安時代になると集落は最盛期を迎えるようになる。特に8世紀初めから10世紀初めの堅穴住居跡は当遺跡の大部分を占めている。また、この時期に掘立柱建物跡や土器焼成遺構なども確認されており、遺物は堅穴住居跡の覆土中から羽口や鉄滓等の鍛冶関連遺物、「鳥」や「神」等の墨書土器、緑釉陶器・灰釉陶器¹²が出土している。これらの遺構や遺物、そして鹿島郡衙跡である神野向遺跡の対岸という位置から、当遺跡は郡衙と密接に関連する集落のひとつと考えられる。

限られた調査区域のため、遺跡の全貌を明らかにすることはできないが、出土遺物と遺構から前述のようにある程度の遺跡変遷を推定することができた。

註

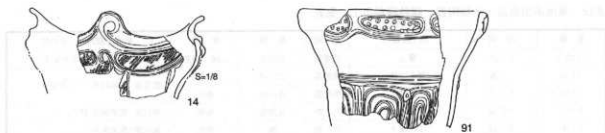
- 1) 小田代昭丸「御園生遺跡発掘調査報告書」『鹿嶋市の文化財』第101集 鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 1997
- 2) 互吹堅「廻り地遺跡(上・下)」『茨城県教育財団文化財調査報告書』第XV茨城県教育財団 1982
- 3) 和島誠一・金井塚良一「集落と共同体」『日本の考古学』V 河出書房 1966
水田経営の経営単位となりつつあった集団(世帯共同体)と考えてよいであろう。
- 4) 桑木誠・田熊清彦「栃木県の彩色土器について」『東国土器研究』4 東国土器研究会 1995
- 5) 赤井博之「茨城県の須恵器編年」『東国の須恵器—関東時代における歴史時代須恵器の系譜—』古代生産 史研究会 1997
- 6) 赤井博之・吉澤 悟「茨城県千代田町一丁田原跡出土の須恵器の検討」『婆良岐考古』19 婆良岐考古同人会 1997
- 7) 菊池芳朗「東北地方の古墳時代集落—その構造と特質」『考古学研究』47—4 2001
建物の小型・中型・大型の区別は、おおむね小型が20㎡未満、中型が20～50㎡、大型が50～80㎡である。
- 8) 田口崇ほか「鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告Ⅵ」『鹿嶋市の文化財』第71集 鹿嶋町遺跡保護調査会 1991
厨台遺跡ではSK1・2・6・7・9・10の6基が報告されている。
- 9) 青木幸一ほか「鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告Ⅹ」『鹿嶋市の文化財』第76集 鹿嶋町文化スポーツ 振興事業団 1992
鍛冶台遺跡では焼成遺構6基が報告されている。
- 10) 田口崇ほか「鹿島神宮駅北部埋蔵文化財調査報告Ⅺ」『鹿嶋市の文化財』第79集 鹿嶋市文化スポーツ 振興事業団 1996
厨台No.26遺跡のSK68・70・80・82は遺構の状況や遺物の出土状況、また廃棄された遺物等から土器焼成遺構と考えている。遺物については、黒証・歪み・ひび割れがある土器を実見した。
- 11) 武者塚古墳調査団「武者塚古墳」新治村教育委員会 1986
- 12) 灰軸陶器片は今回の調査で73点出土しているが、細片がほとんどのため実測はしていない。
東海系の須恵器・灰軸陶器・緑軸陶器の出土一覧(表12) ※窯式が確認できたもののみを記載した。

参考文献

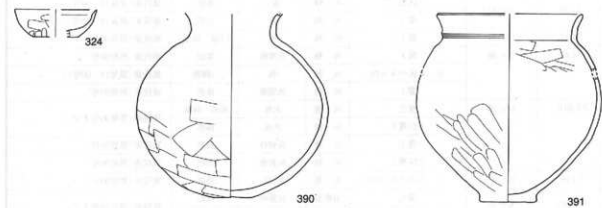
- 1) 服部敬史「関東地方における古墳時代後期の集落構成」『考古学研究』25—1号 考古学研究会 1978
- 2) 小笠原好彦「古墳時代の壑穴住居集落にみる単位集団の移動」『国立歴史民族博物館研究報告』22 国立歴史民族博物館 1989
- 3) 櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2 茨城県教育財団 1992
- 4) 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅱ)」『研究ノート』2 茨城県教育財団 1993
- 5) 小沢 洋「房総の古墳後期土器—坏の変遷を中心として—」『東国土器研究』4 東国土器研究会 1995
- 6) 赤井博之・佐々木義則「新治窯跡群須恵器AⅠの変化—消費地の様相—」『婆良岐考古』18 婆良岐考古同人会 1996
- 7) 佐々木義則「木葉下窟跡群の須恵器生産」『婆良岐考古』19 婆良岐考古同人会 1997
- 8) 佐々木義則「常陸におけるロクロ成形土器器坏の展開—古代久慈・那賀・信太の三郡を中心として—」『婆良岐考古』20 婆良岐考古同人会 1998

表12 東海系須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器出土一覧表

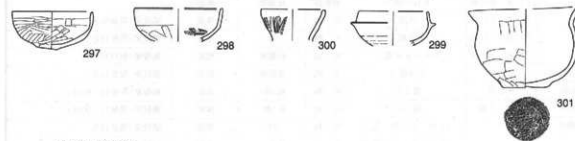
遺 積	時 期	出土位置	種 別	器 種	部 位	産地(廠式)・その他	
SI 22A	8 C中	覆土	須恵器	長頸瓶	口縁~胴部	(岩崎41号並行*) 7世紀末	
SI 49	7 C後	覆土中層	須恵器	直口壺	体部	築投産(岩崎41号) 7世紀末	
SI 61	6 C中	1区混入	須恵器	直口壺	体部		
SI 51	9 C後	覆土	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹90号まで)	
SI 60	9 C後	1区覆土	灰 釉	瓶	体部	築投産(黒笹90号)	
SI 69	5 C後	2区混入	灰 釉	瓶(壺)	体部	築投産(黒笹14号)	
SI 72	10 C前	覆土中層	緑 釉	瓶(壺)	体部~底部	築投産(黒笹90号)	
SI 74	10 C前	覆土	灰 釉	瓶(壺)	体部	築投産(黒笹14・90号)*	
SI 79	8 C前	3区混入	灰 釉	壺*	体部	築投産(黒笹14・90号)*	
		混入	灰 釉	壺	体部	築投産(黒笹14・90号)*	
SI 81	10 C前	覆土	灰 釉	瓶	口縁~体部	築投産(黒笹90号)	
SI 83	9 C後	覆土	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹90号)	
		3・4区ベルト内	灰 釉	瓶	口縁部	築投産(黒笹14・90号)*	
		覆土	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹90号)	
SI 85B	10 C前	覆土	灰 釉	水甌	胴部~体部	築投産(黒笹90号まで)	
		1区覆土	灰 釉	水甌	体部		
		覆土	灰 釉	長頸瓶	頸部	築投産(黒笹90号)	
		2区覆土	灰 釉	長頸瓶	頸部	築投産(黒笹90号)	
SI 86	10 C中	2・3区ベルト内	灰 釉	瓶(壺)	頸部	築投産(黒笹90号)	
SI 87	8 C中	混入	須恵器	長頸瓶	頸部	築投産(黒笹14号まで)	
		混入	須恵器	長頸瓶	体部		
SI 90	10 C中	覆土	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹90号前後)	
			灰 釉	長頸瓶	体部	東濃産	
SI 92	8 C前	混入	須恵器	長頸瓶	体部	築投産(折戸10号)	
遺物集中地点	7 C末~8 C前	E17a+2区混入	須恵器	長頸瓶	体部		
	7 C末~8 C前	E17a+混入	須恵器	長頸瓶	体部		
	7 C末~8 C前	1区混入	灰 釉	長頸瓶	体部		築投産(黒笹90号)
	7 C末~8 C前	1区混入	灰 釉	壺	体部		築投産(黒笹14号)
7 C末~8 C前	E17a+6区混入	灰 釉	長頸瓶	頸部	築投産(折戸10号)		
SI 106A	6 C後	4区混入	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹14号)	
SK 85	9 C中	覆土中	灰 釉	瓶(壺)	体部	築投産(黒笹14・90号)*	
SK 99	8中~9前	覆土中	灰 釉	瓶(壺)	体部	築投産(黒笹14・90号)*	
遺構外		SI 18 (7 C前) 混入	灰 釉	瓶	体部	築投産(黒笹14号)	
		SI 55 (9 C前) 竈内	須恵器	長頸瓶	体部	築投産(岩崎17号)	
		SD 2 No. 5 3区覆土	灰 釉	瓶(壺)	体部	築投産(黒笹14・90号)*	
		SD 4	須恵器	壺	口縁~体部	築投産*(岩崎17号並行)	
		SD 4 4区覆土	須恵器	瓶	体部~高台	東濃産	
		Bトレンチ3区	灰 釉	瓶(壺)	体部	築投産(黒笹90号)	
		Fトレンチ東区	灰 釉	瓶(壺)	体部	築投産(黒笹90号まで)	
		D 3区	須恵器	長頸瓶	体部	築投産(折戸10号)	
		D 3区	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹14・90号)*	
		D 3区	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹14号)	
		D 3区	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹14・90号)*	
		II区東側	須恵器	長頸瓶	体部	築投産(折戸10号まで)	
		B 1区	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹14・90号)*	
		B 2区	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹14・90号)*	
		表採	灰 釉	長頸瓶	頸部	築投産(黒笹90号)	
		I区採	灰 釉	長頸瓶	頸部	築投産(黒笹90号まで)	
		表採	灰 釉	長頸瓶	体部	築投産(黒笹90号まで)	



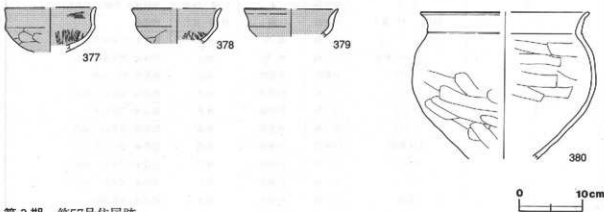
第1期 第25号住居跡, 第62号土坑



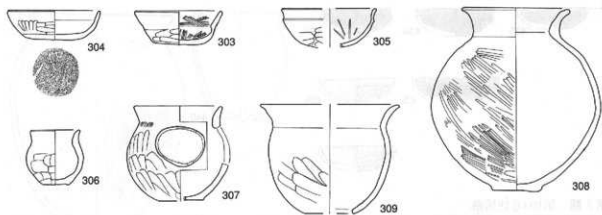
第2期 第63号住居跡



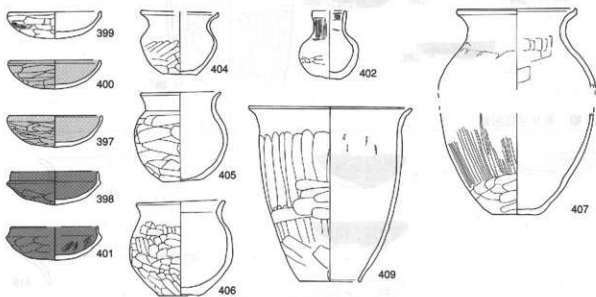
第19号住居跡



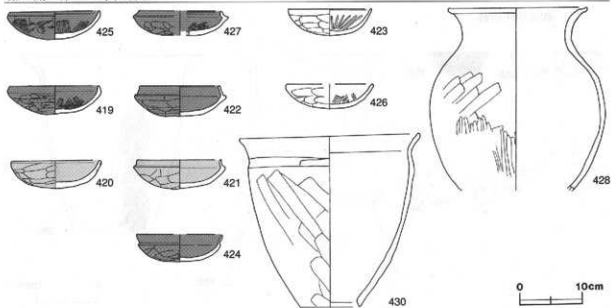
第3期 第57号住居跡



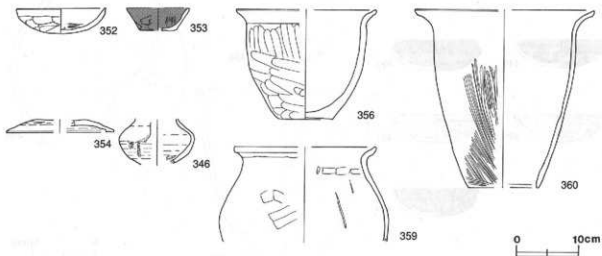
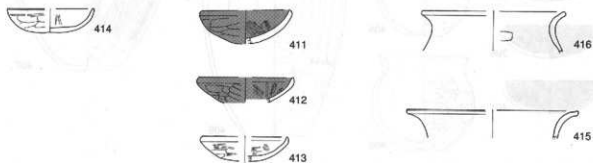
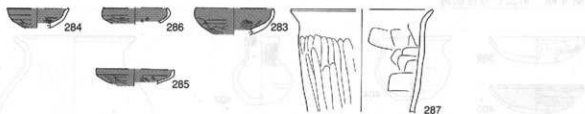
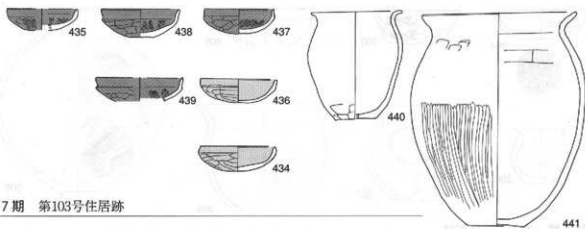
第4期 第22C号住居跡

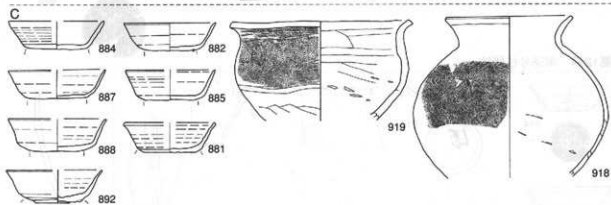
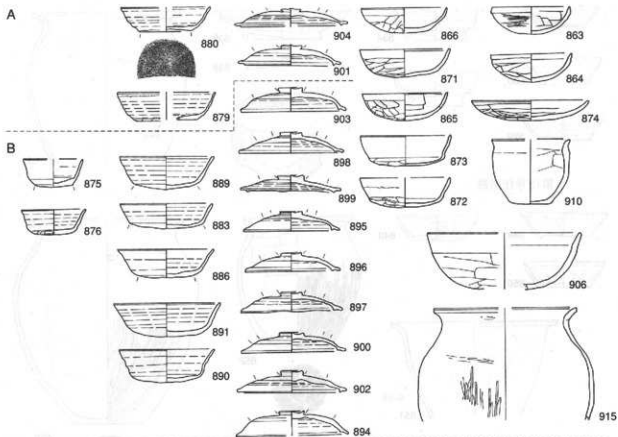


第5期 第85A号住居跡

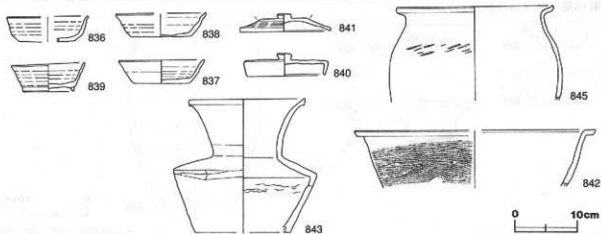


第6期 第96号住居跡

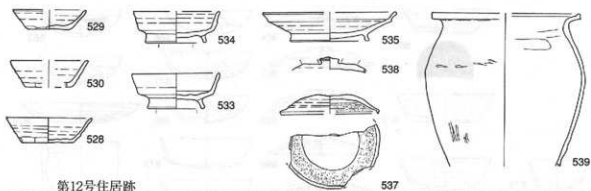




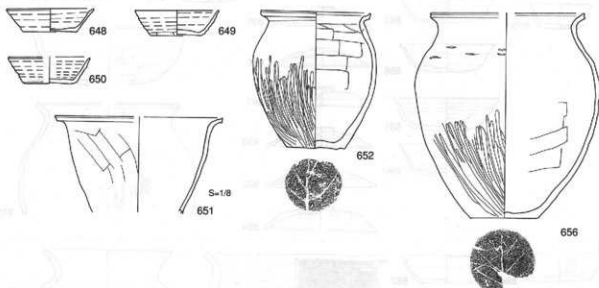
第10期 遺物集中地点



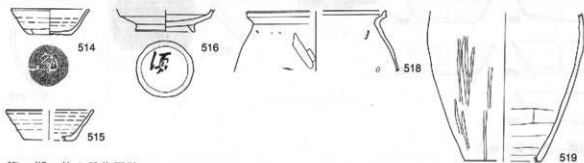
第11期 第87号住居跡



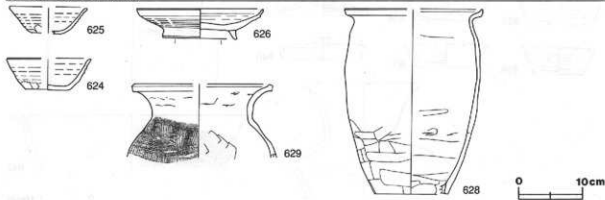
第12号住居跡



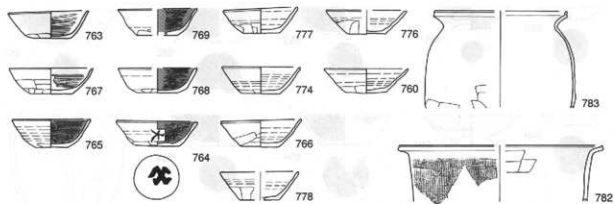
第12期 第58号住居跡



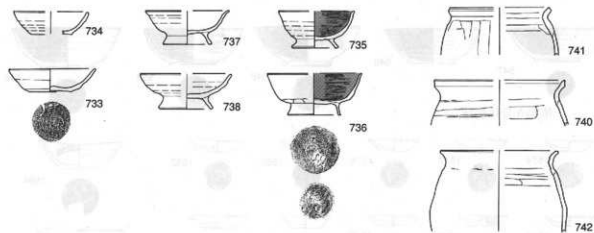
第13期 第8号住居跡



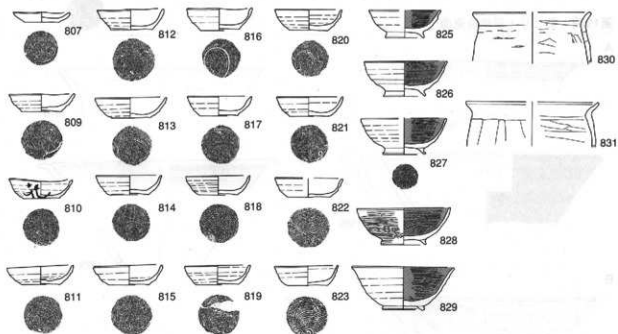
第14期 第48号住居跡



第15期 第83号住居跡



第16期 第81号住居跡



第17期 第86号住居跡